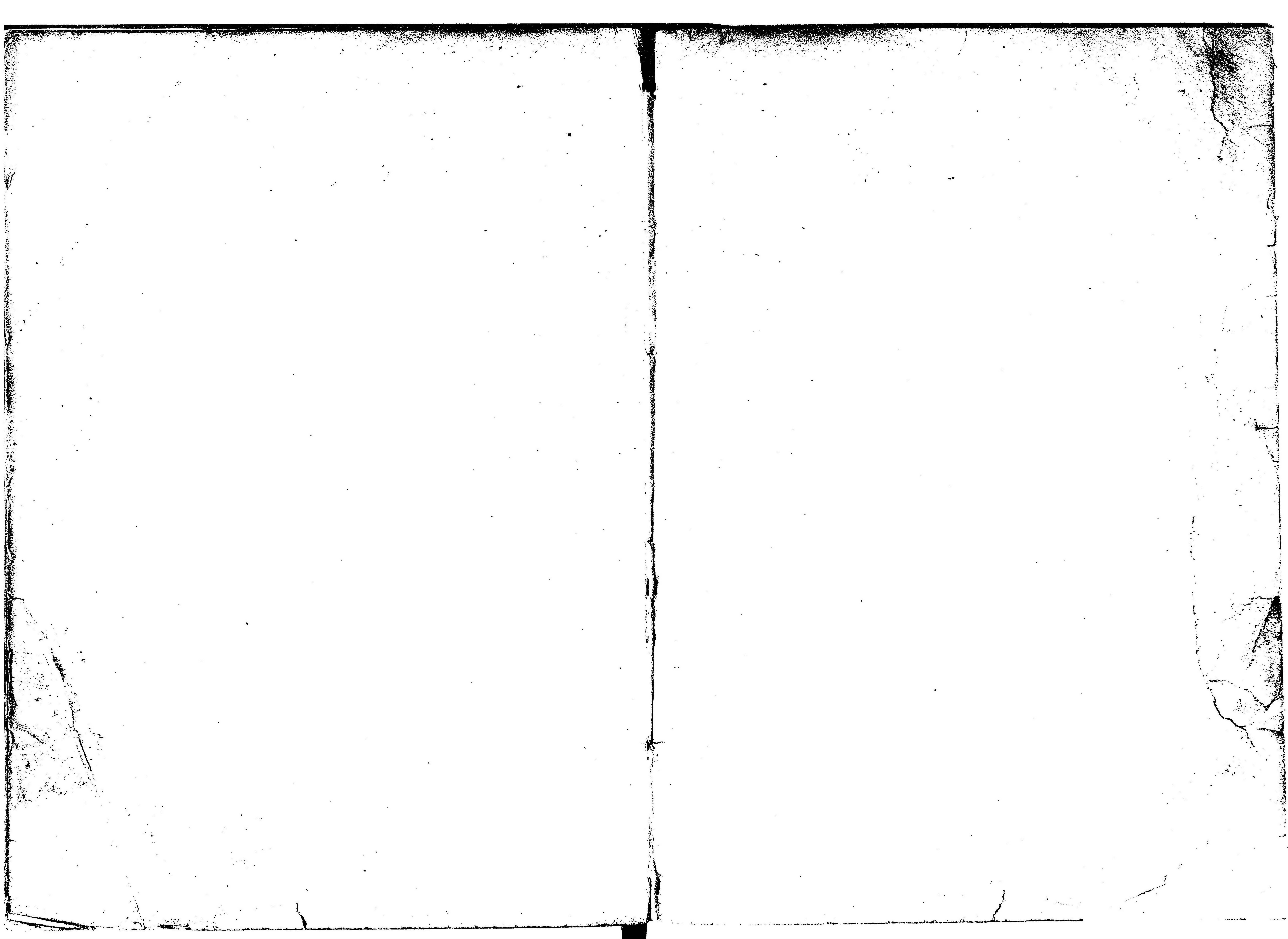
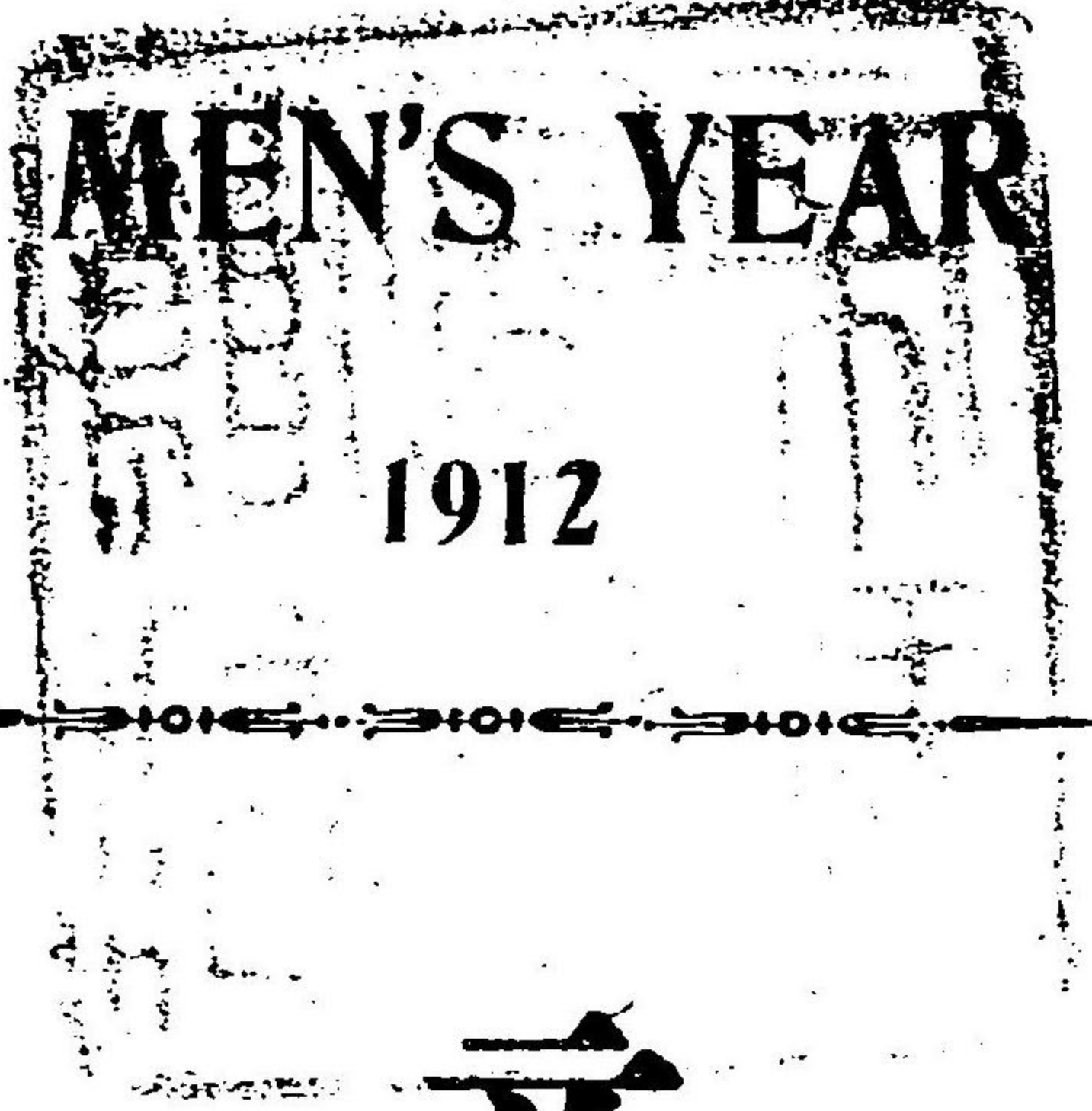


帝國糖業家年鑑



THE EORMOSAN  
SUGAR MEN'S YEAR BOOK



帝國糖業家年鑑

明治四十五年度

東京

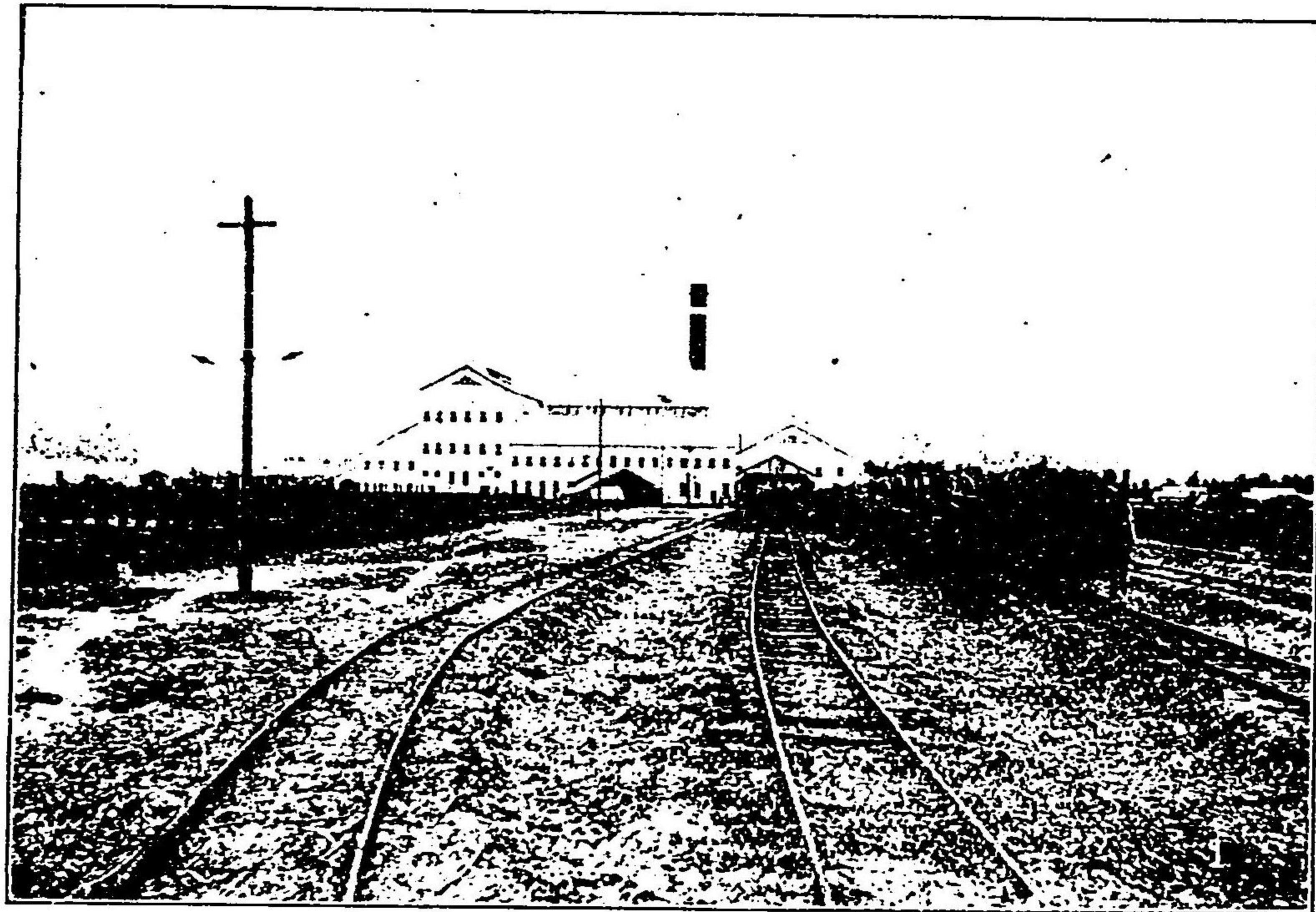
糖業研究會刊行

明治  
45. 7. 16  
內交

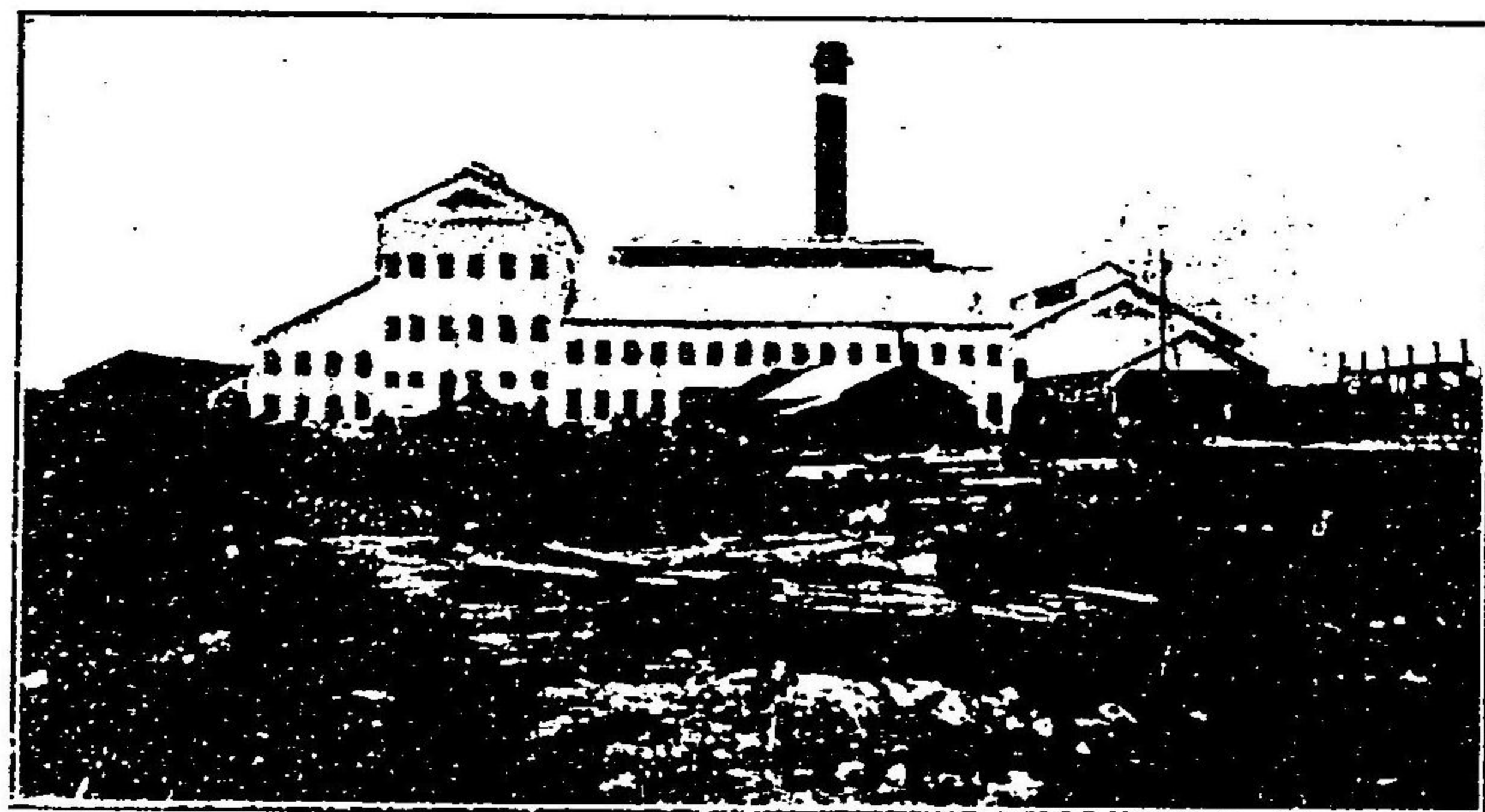
# 帝國糖業家年鑑

## 目次

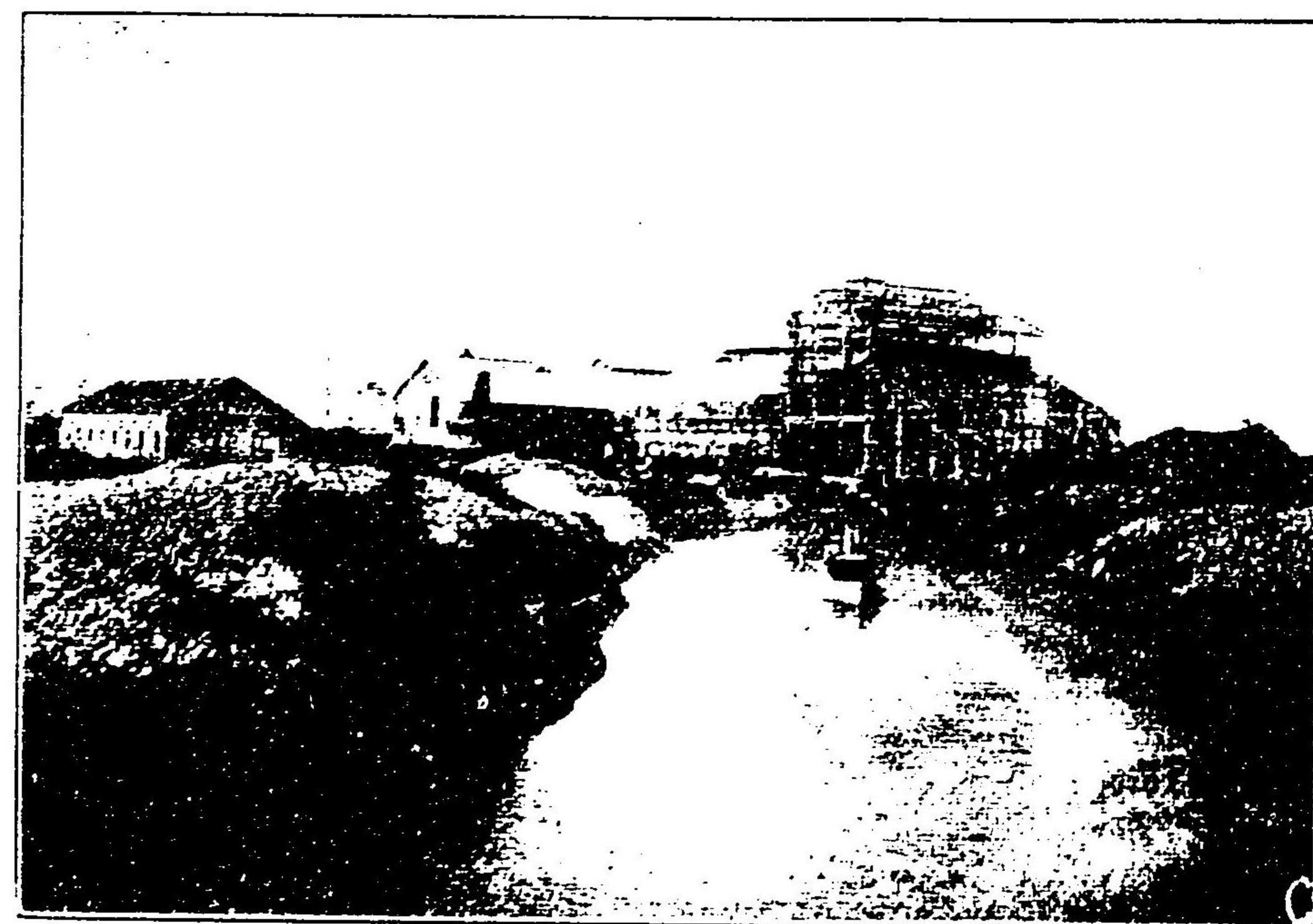
口繪 臺灣各製糖會社採取區域圖	六
口繪 寫真銅版	六
第一章 帝國糖業法規	一
臺灣糖業獎勵規則	一
臺灣糖業獎勵施行細則	一
製糖場取締規則	二
砂糖消費稅法施行細則	三
現行砂糖消費稅及輸入關稅表	六
所得稅法要略	八
所得稅法施行細則規則	八
臺灣製糖纖維工場胎權規則	九
臺灣製糖纖維工場施行細則	九
臺灣私設鐵道規則	一一
臺灣私設鐵道施行細則規則	一一
臺灣度量衡規則	一四
甘蔗計量用取締規則	一五
臺灣銀行法	一五
第二章 臺灣各製糖會社、糖商人名錄	一七
臺灣各製糖會社決算及一覽表	一七
臺灣糖商人名	三三
臺灣聯合會規則	三四
臺灣製糖場現勢表	三四
四十五年改改良糖廠表	三六
內地糖商人名錄	三八
臺灣總督府殖產局糖務課人名錄	五二
臺灣各製糖各社社員人名錄	五二
第三章 世界糖產額及學校試驗場名	五八
世界產糖表	五八
同產糖國別表	五八
同糖業學校名	五九
同糖業試驗場名	五九
同糖業書目	六〇
第四章 貨幣、度量衡比較表	六〇
內外貨幣比較表	六〇
內外度量衡比較表	六一
第五章 ブラツセル會議規則	六五
ブラツセル會議規約	六五
第六章 運賃	七〇
臺灣鐵道運賃	七〇
第七章 糖業術語集	七一
英和對譯術語	七一
第八章 英文	七一
臺灣各糖業家案內	一乃至一四



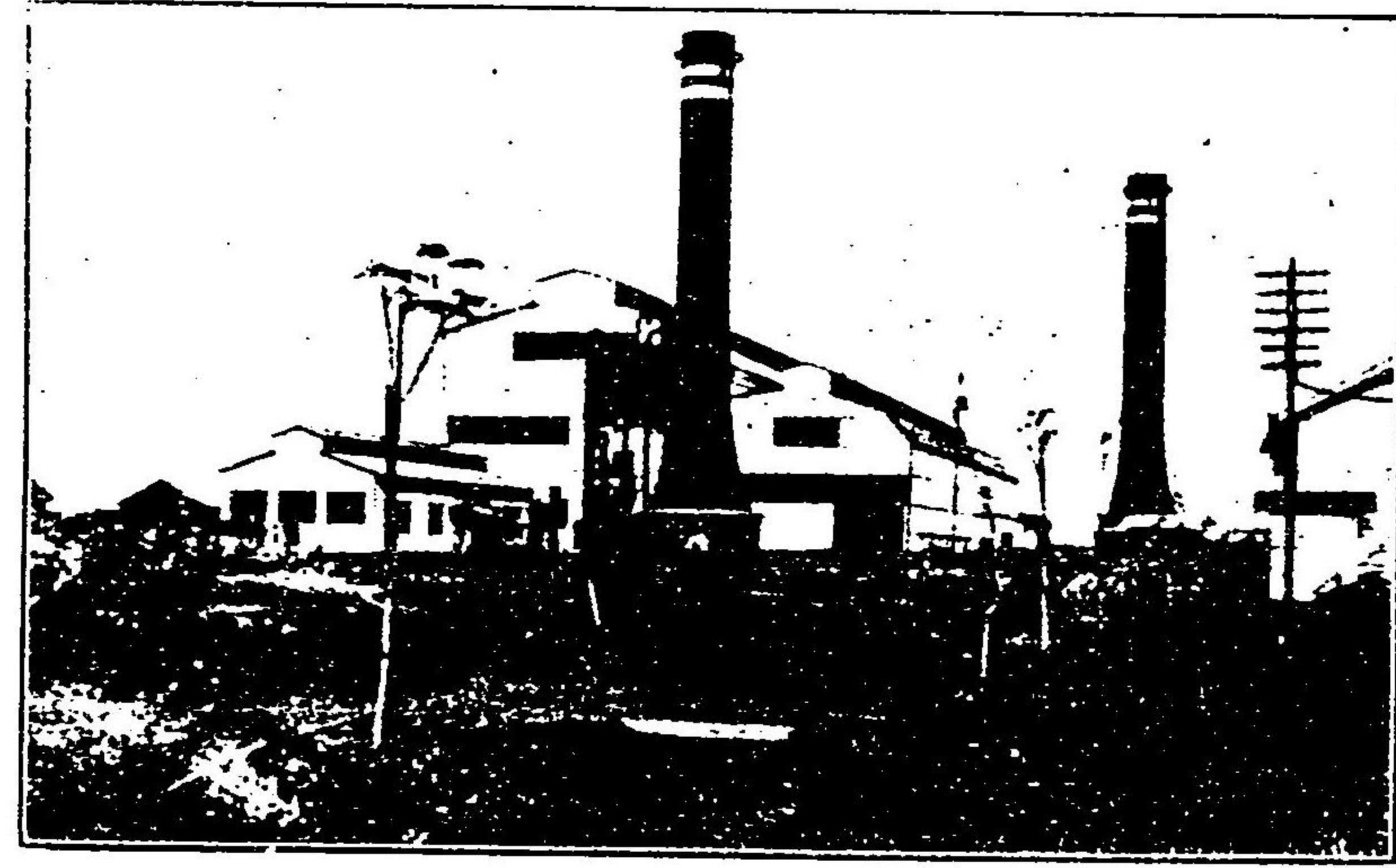
(噸百二千) 場工林壁後社會糖製灣臺  
(Honolulu Iron works, Honolulu.)



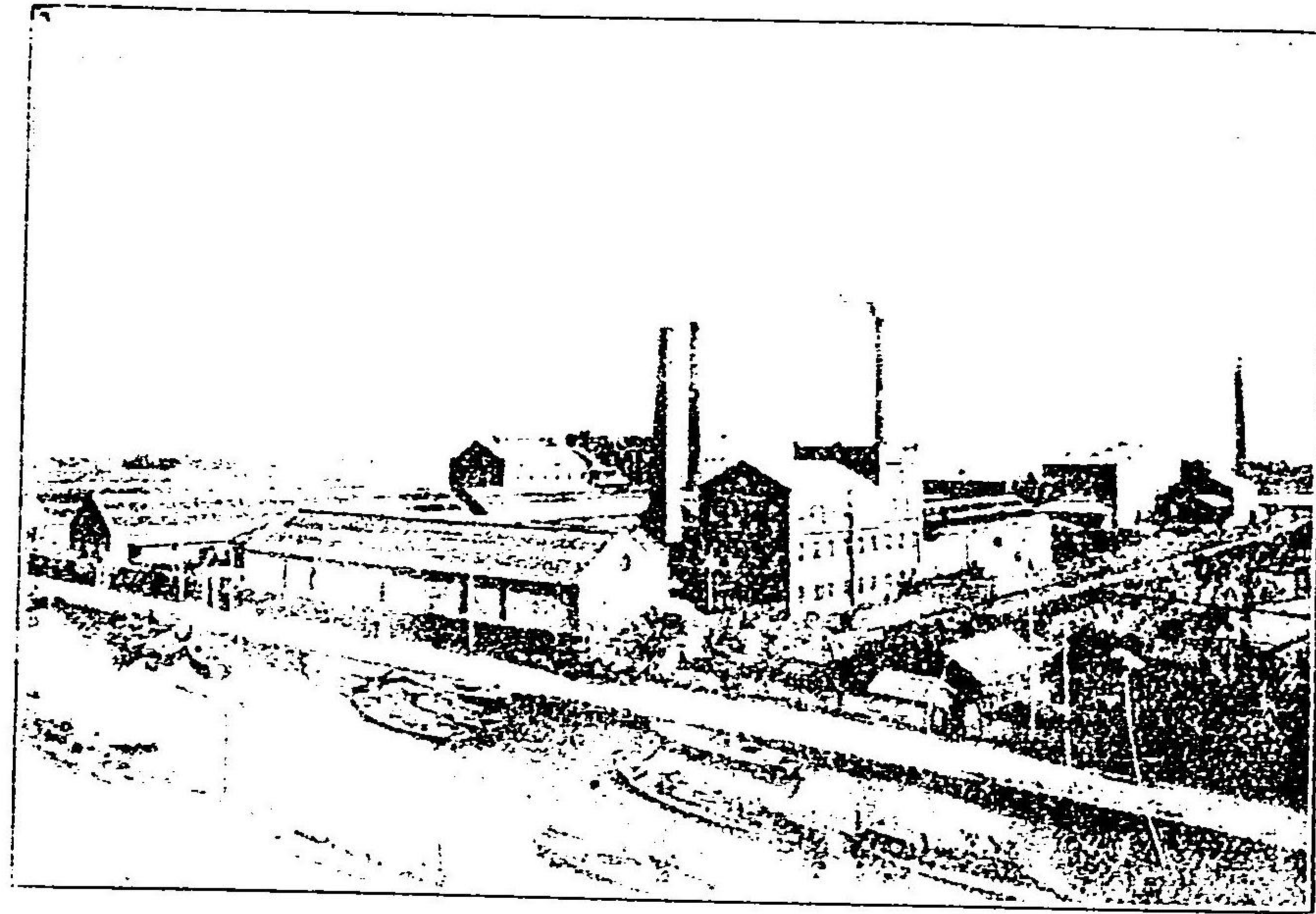
噸千三 (場工四第) 場工鐵阿社會糖製灣臺  
(Honolulu Iron works Co, Honolulu.)



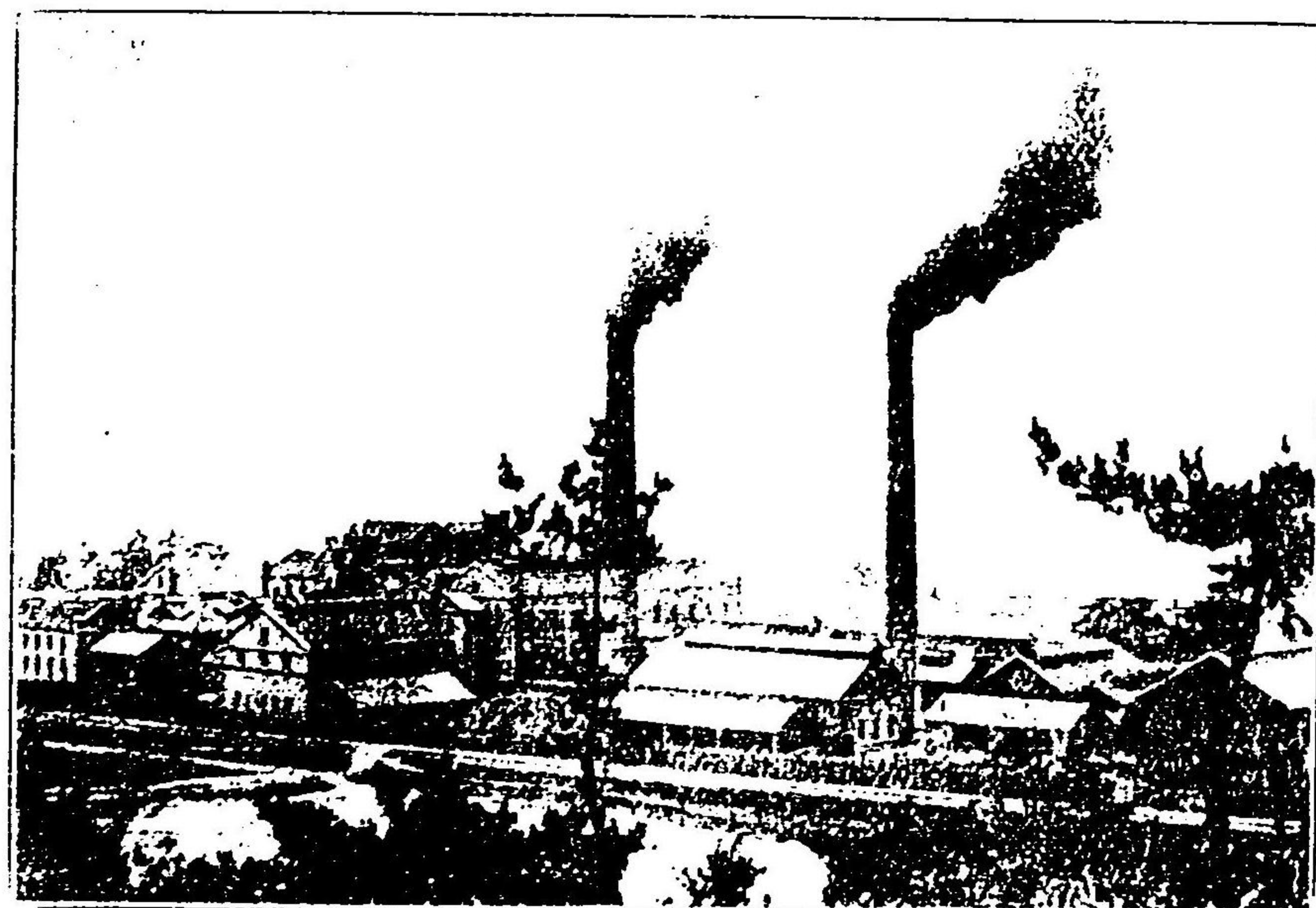
(噸千) 場工墩路車社會糖製灣臺  
(Honolulu Iron works, Honolulu.)



(噸百二千) 場工一第灣臺糖製本日大  
(Grehenbroigs, Germany.)

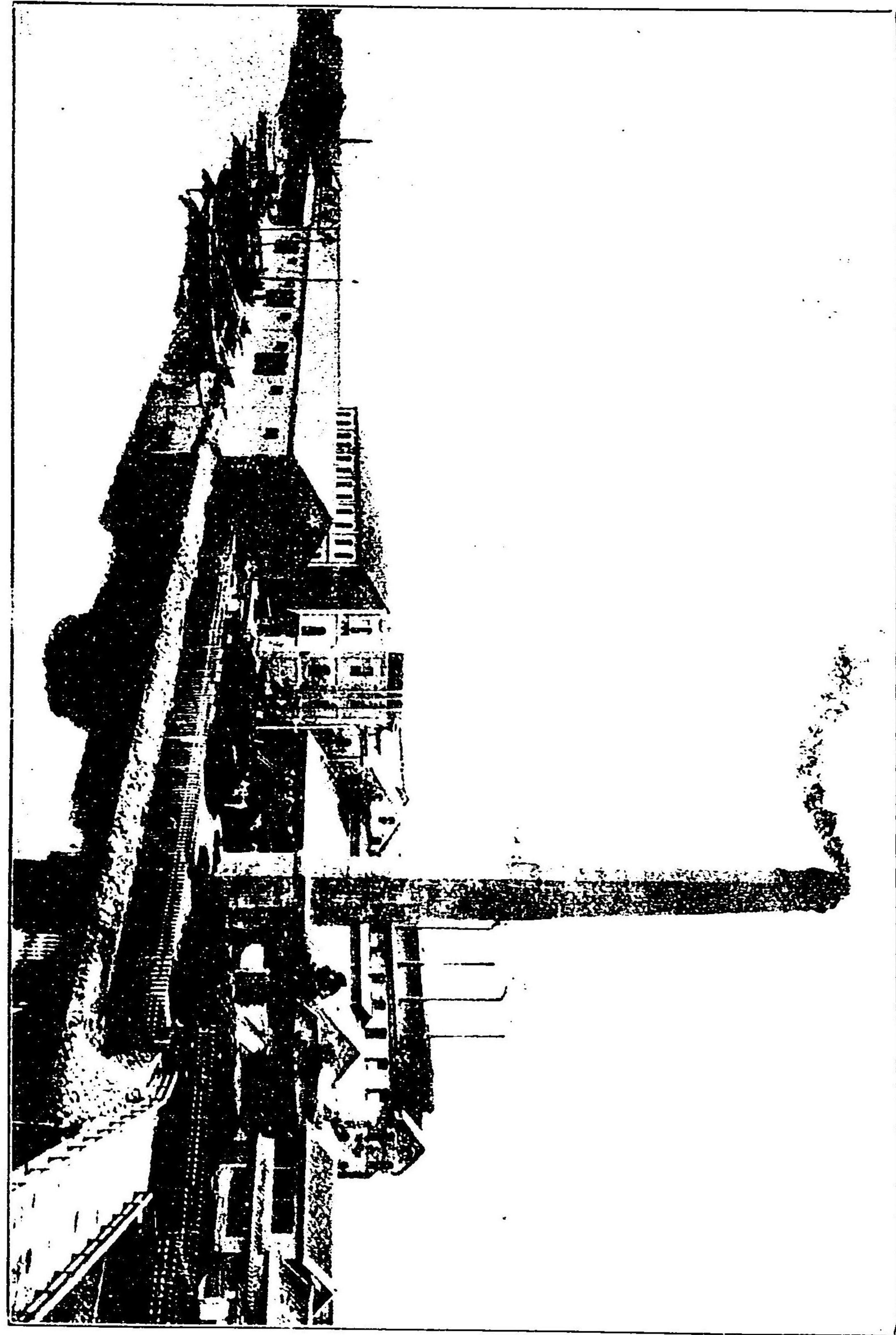


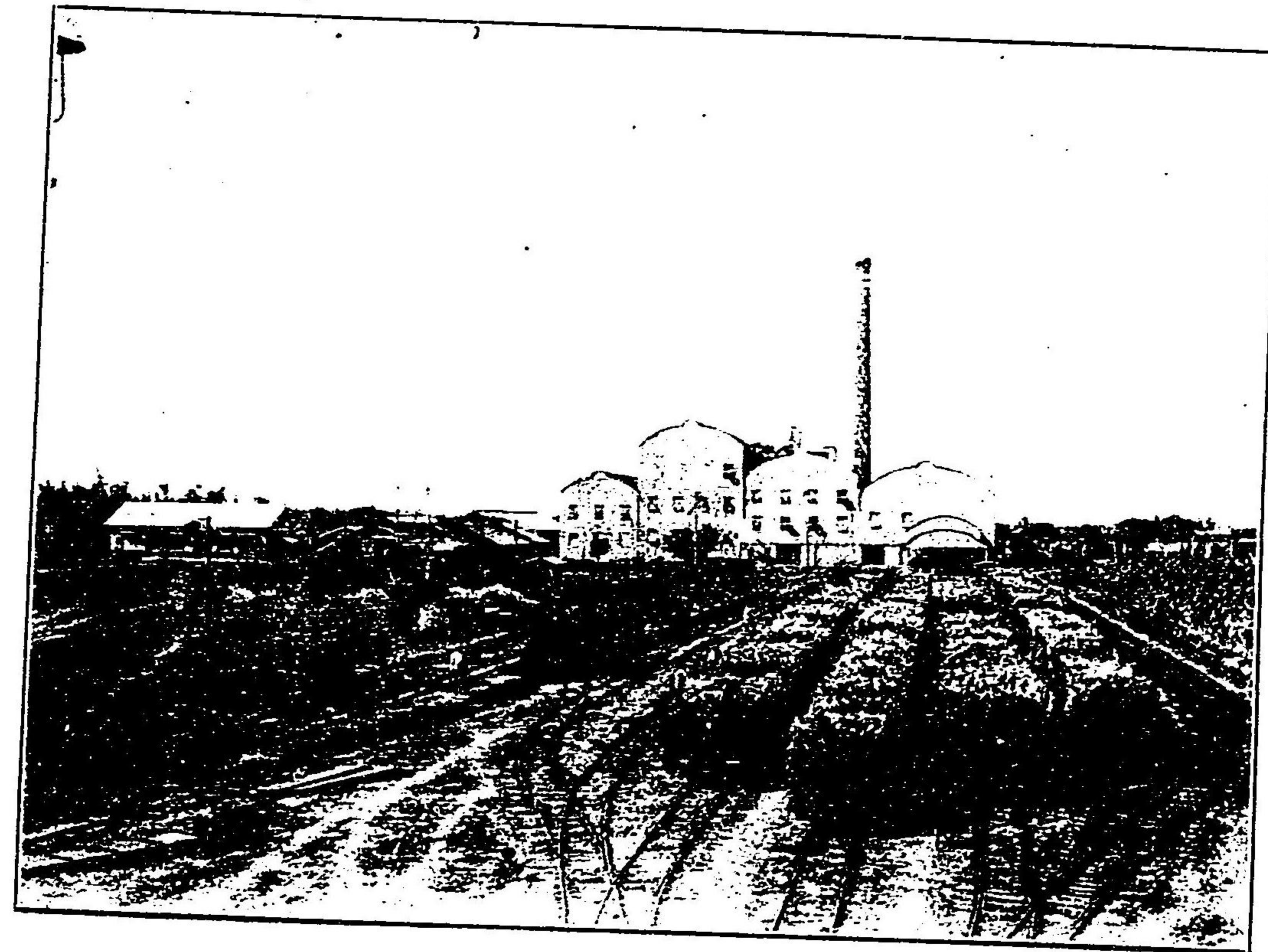
場工二第糖製本日大



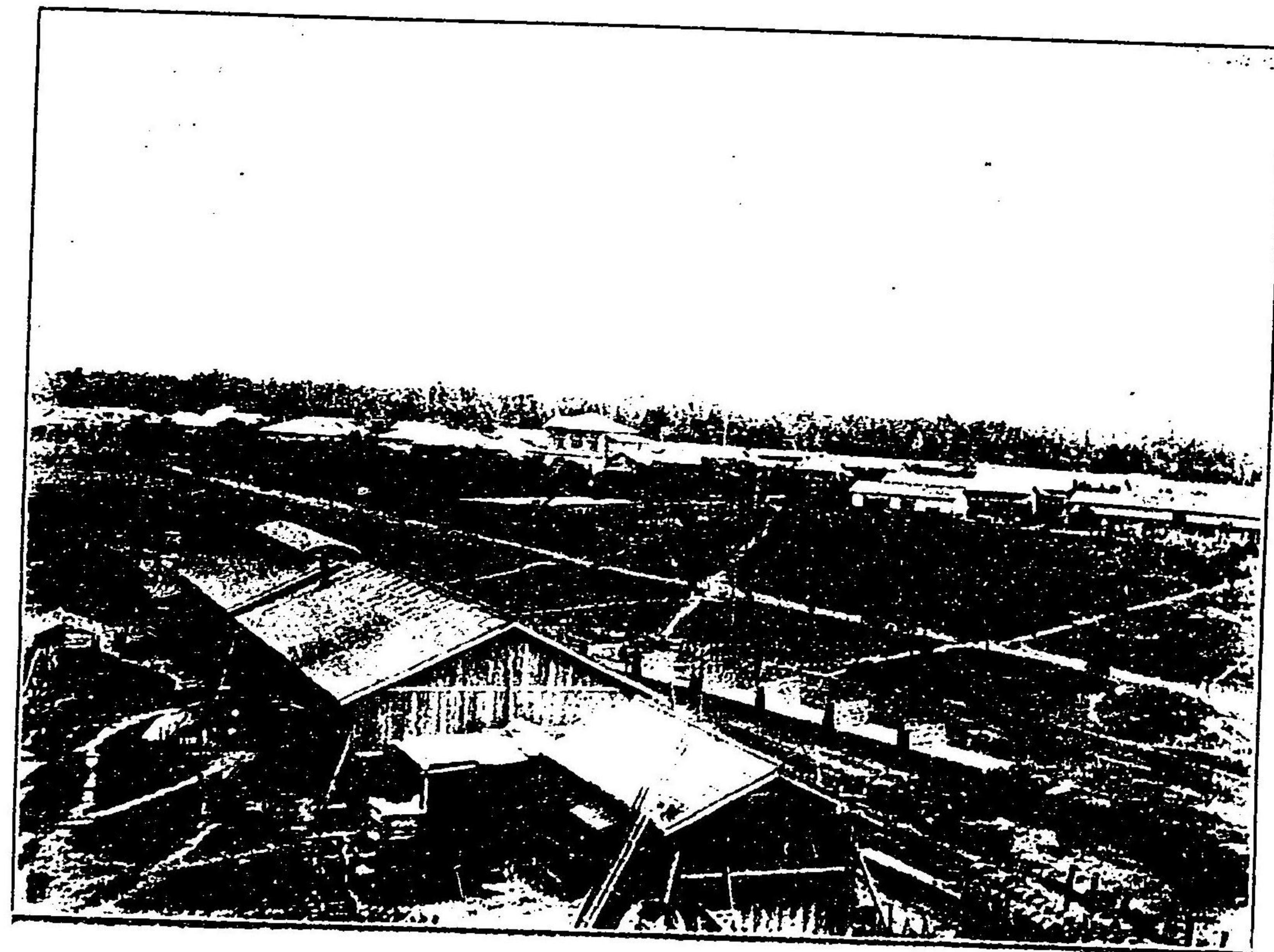
場工里大糖製本日大

場工糖精戶神社會式依糖製灣臺

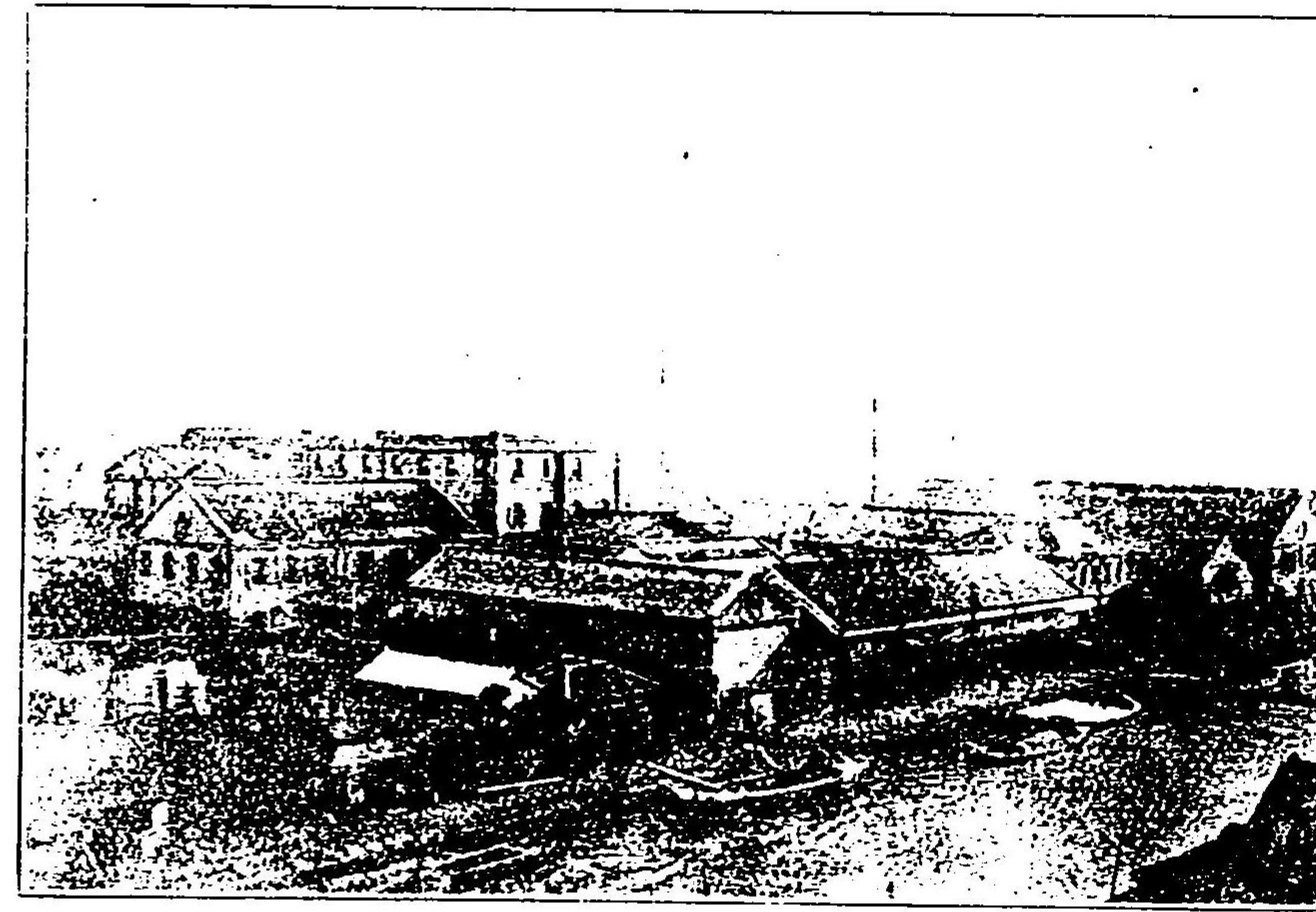




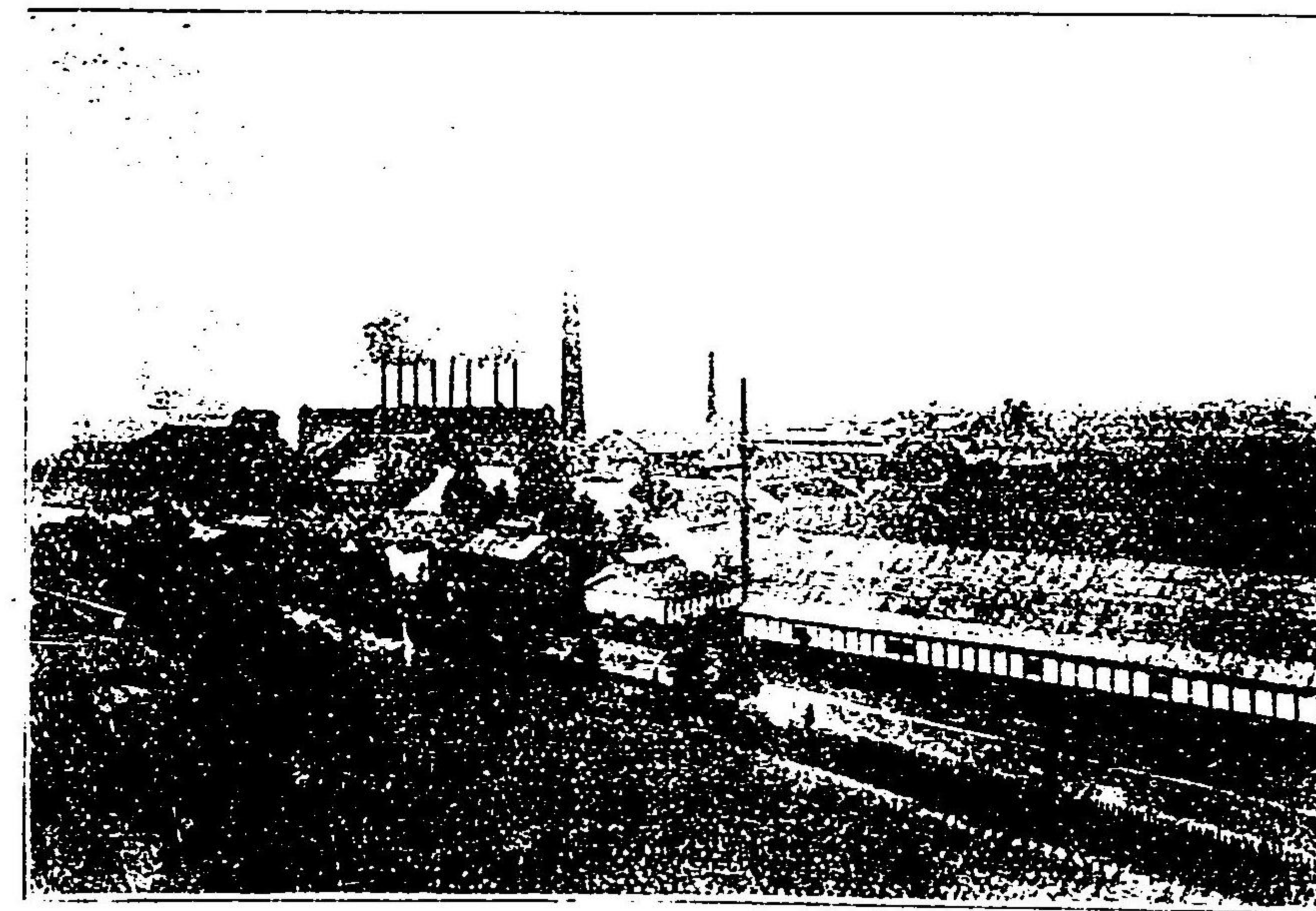
明治製糖蕭壠附近



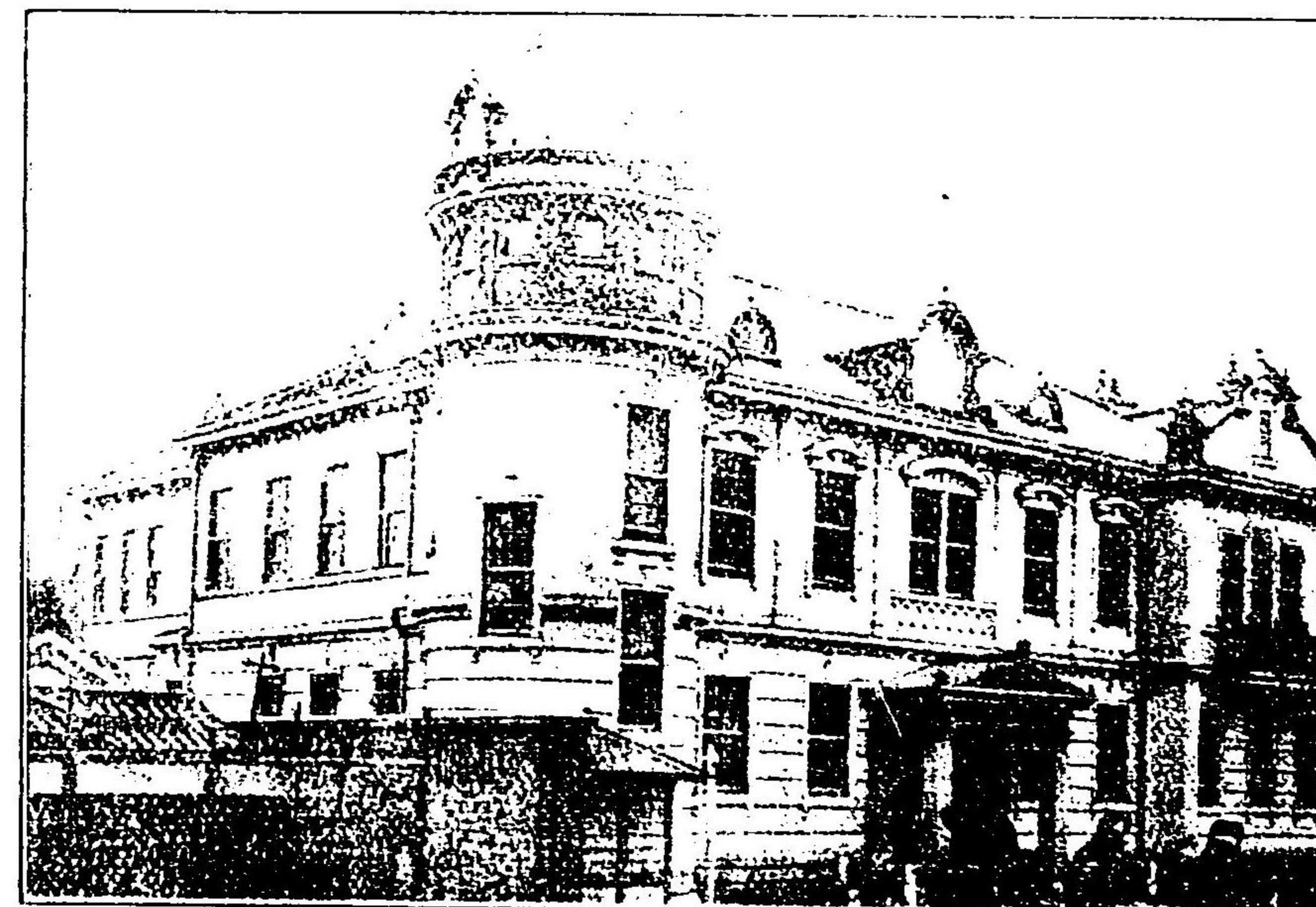
明治製糖社會蕭壠工場(七百五十噸)



大日本製糖東京第一工場

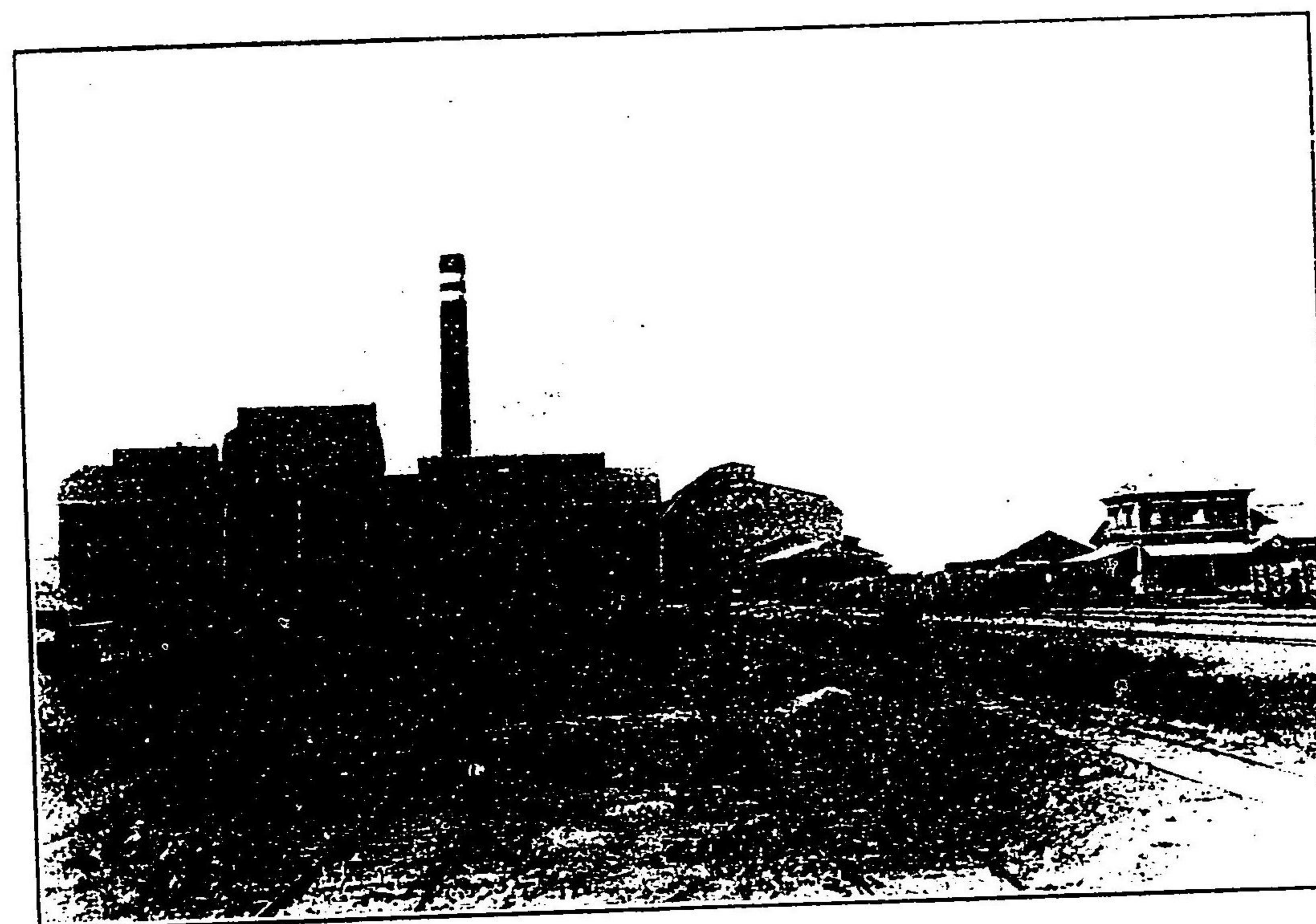
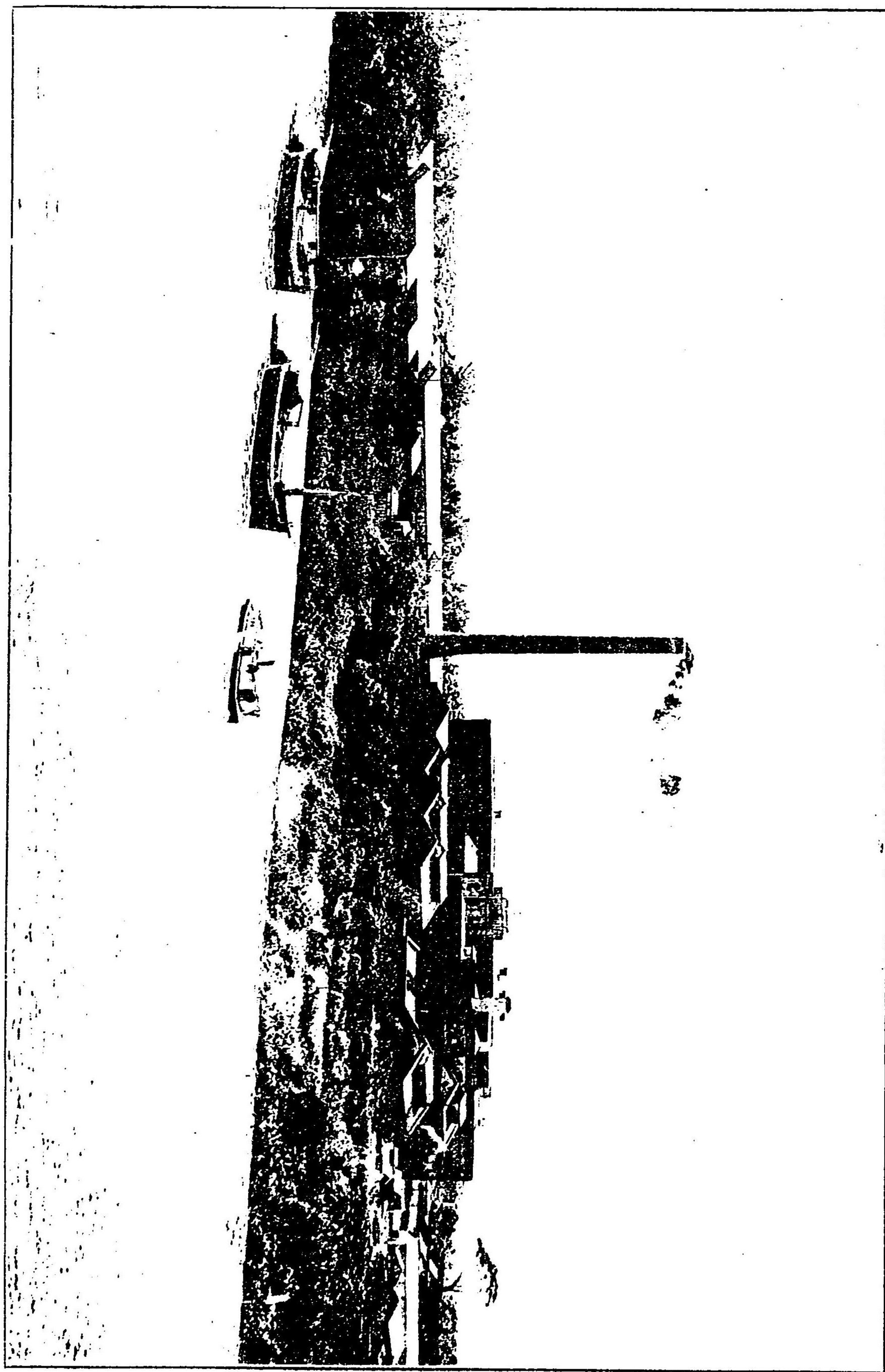


大日本製糖大阪工場

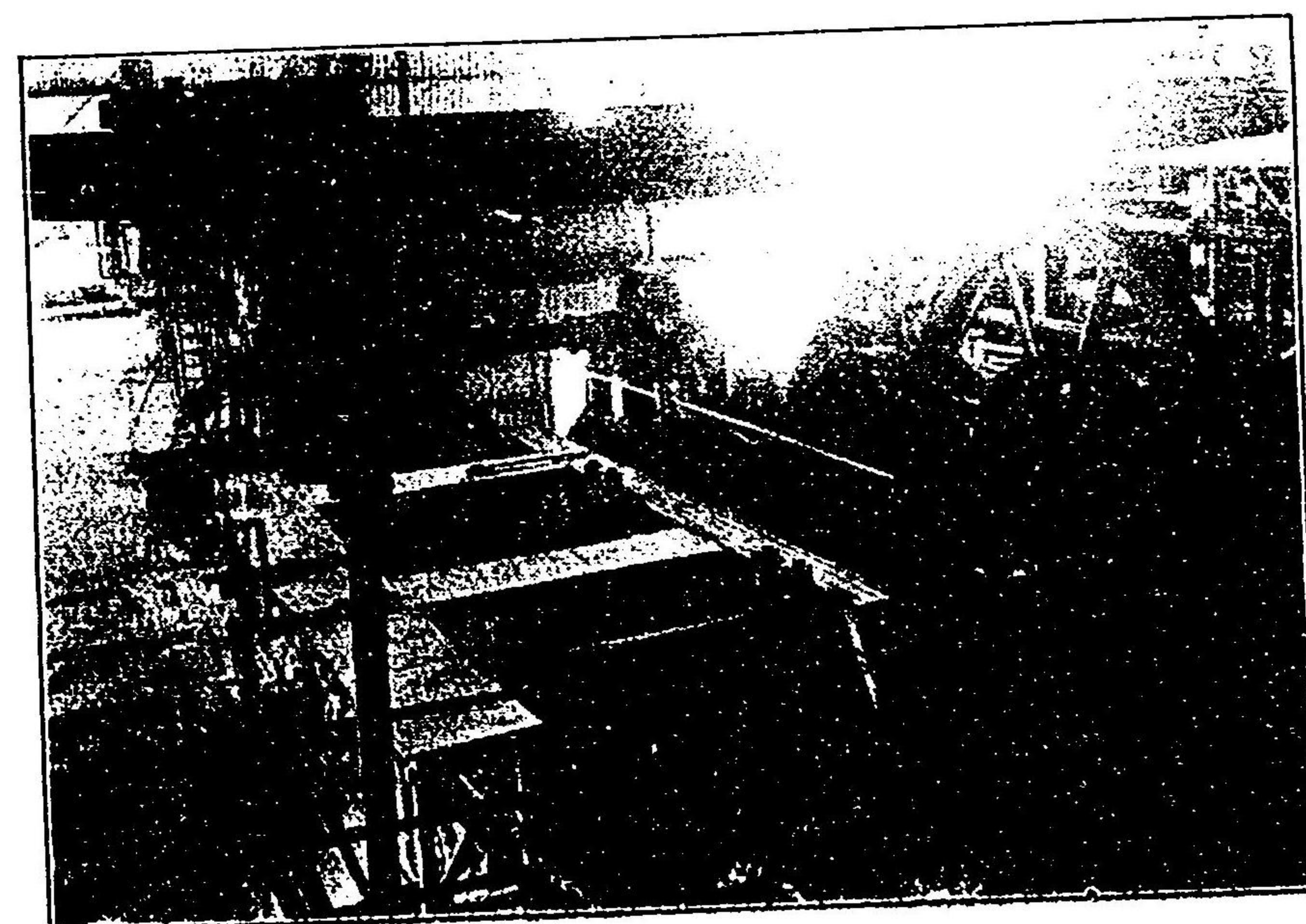


大日本製糖社會東京本社

明 治 製 糖 川 崎 工 場



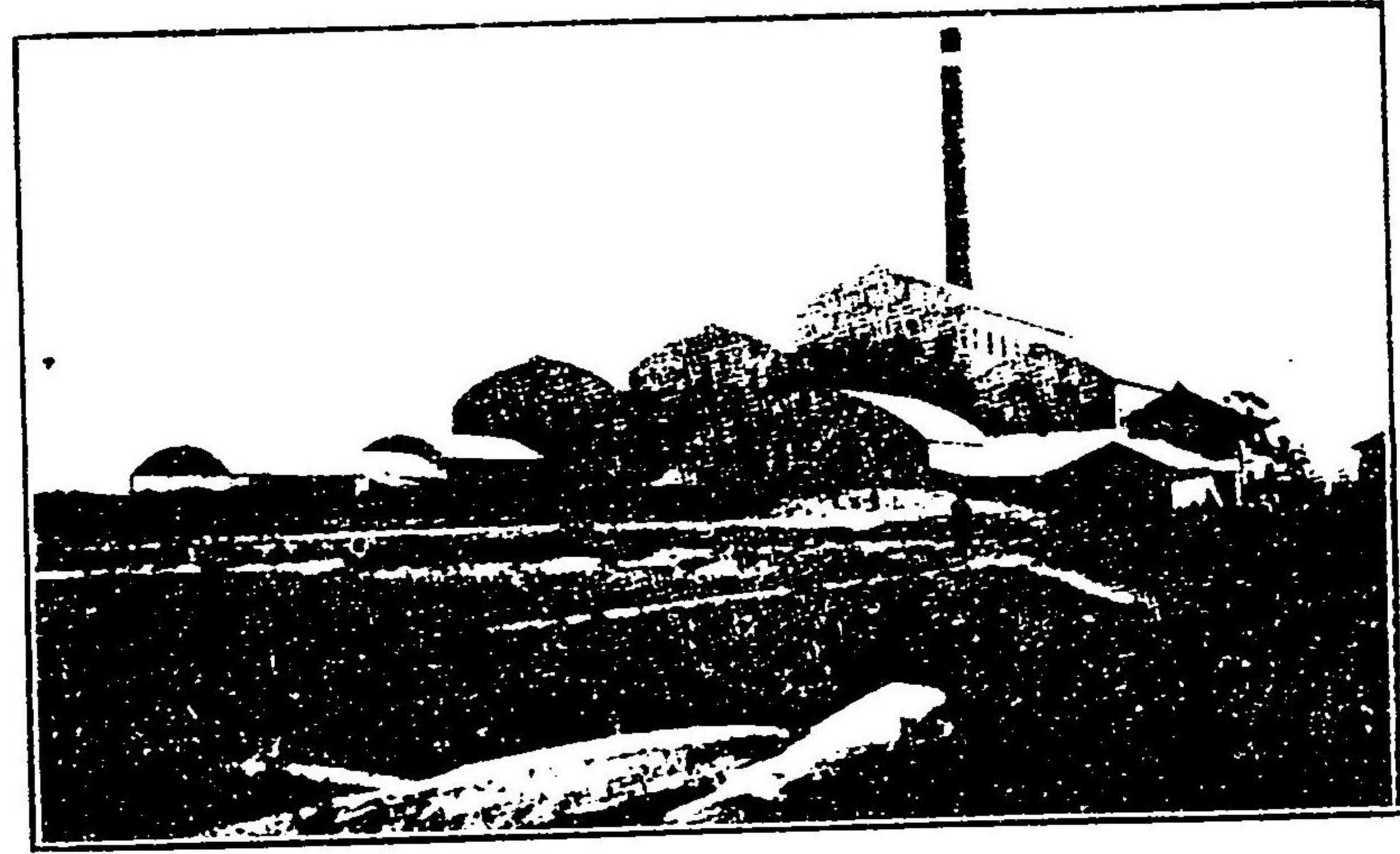
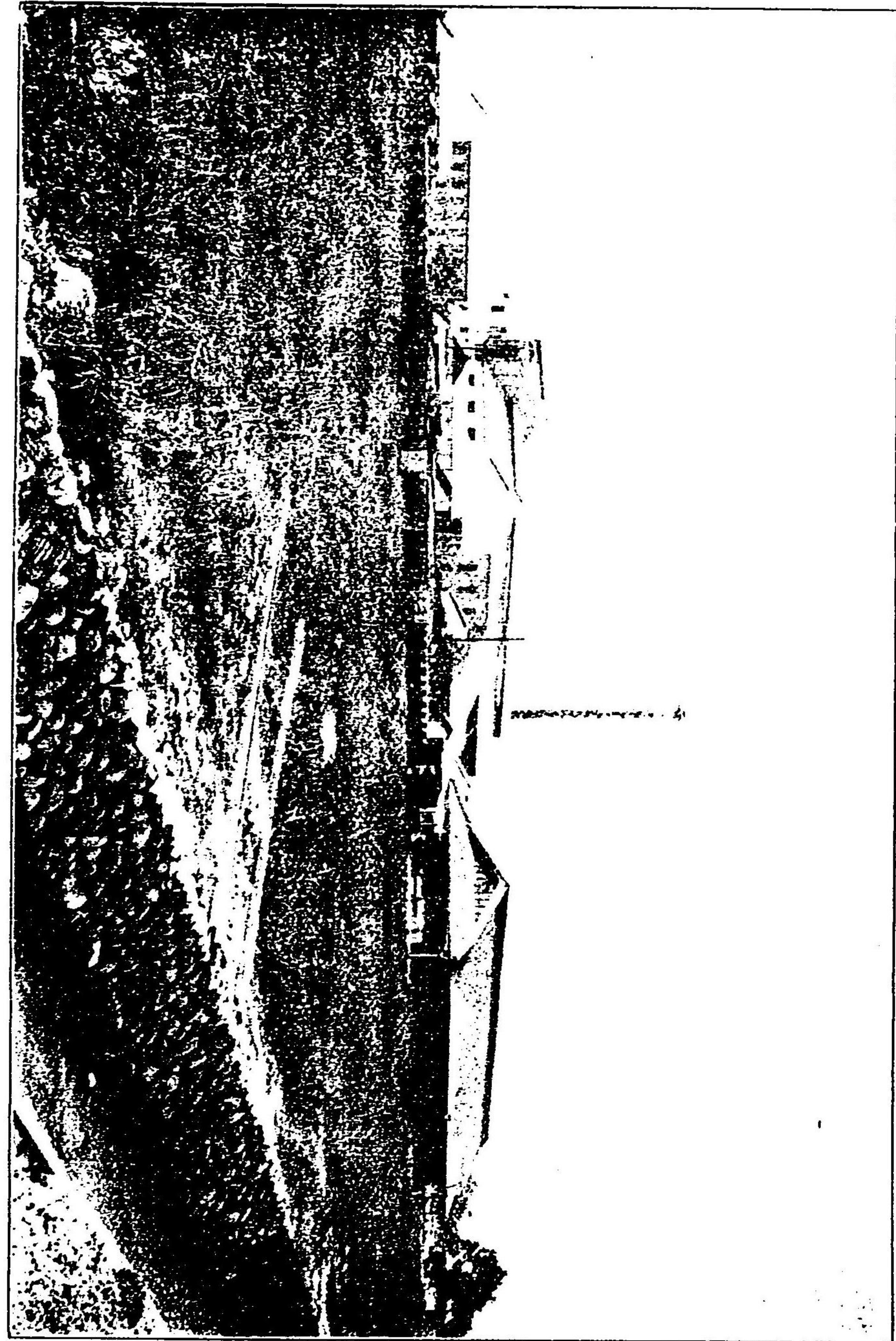
明 治 製 糖 社 會 頭 工 場 (一 千 噸)



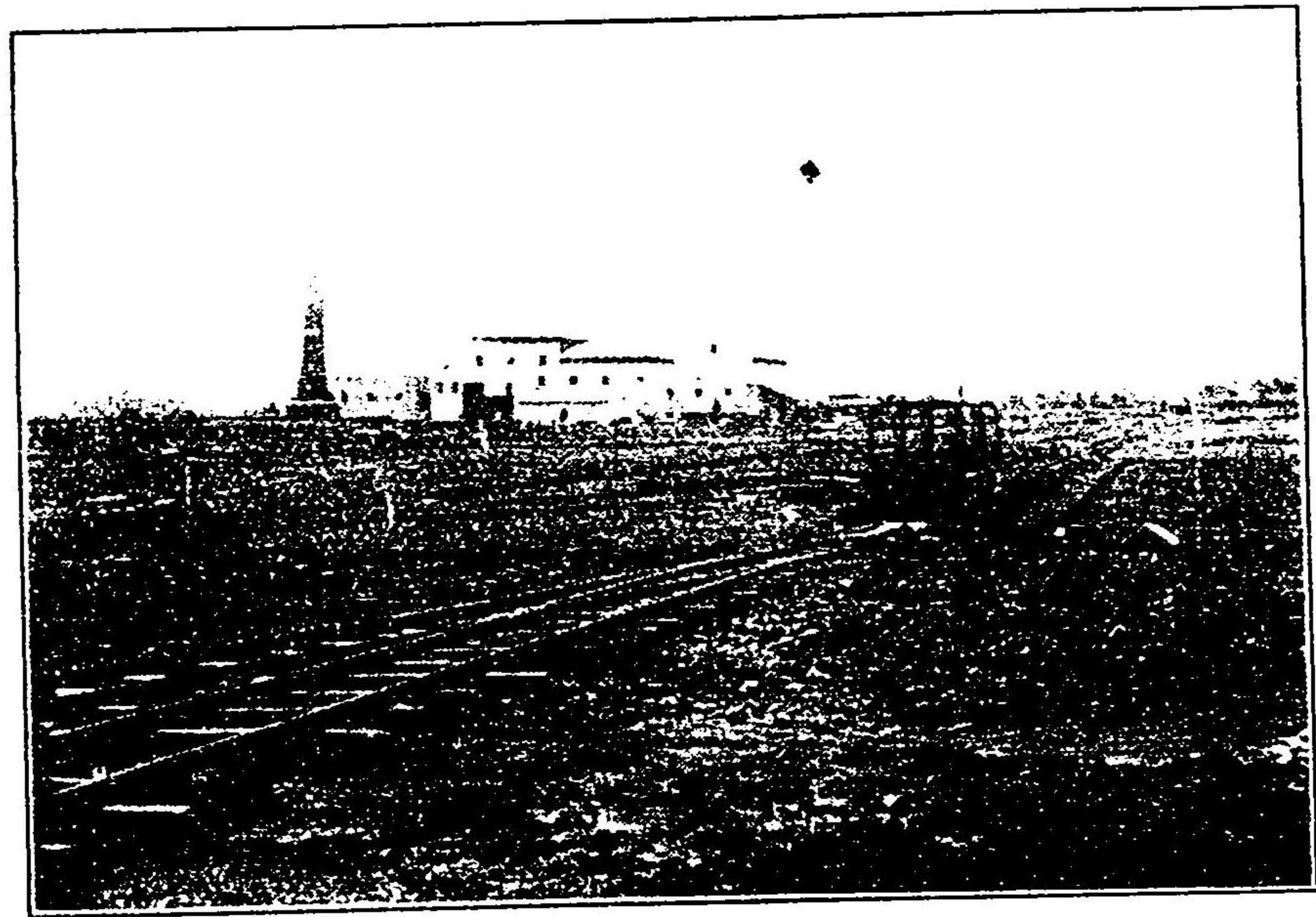
明 治 製 糖 社 會 第 三 工 場 內 部



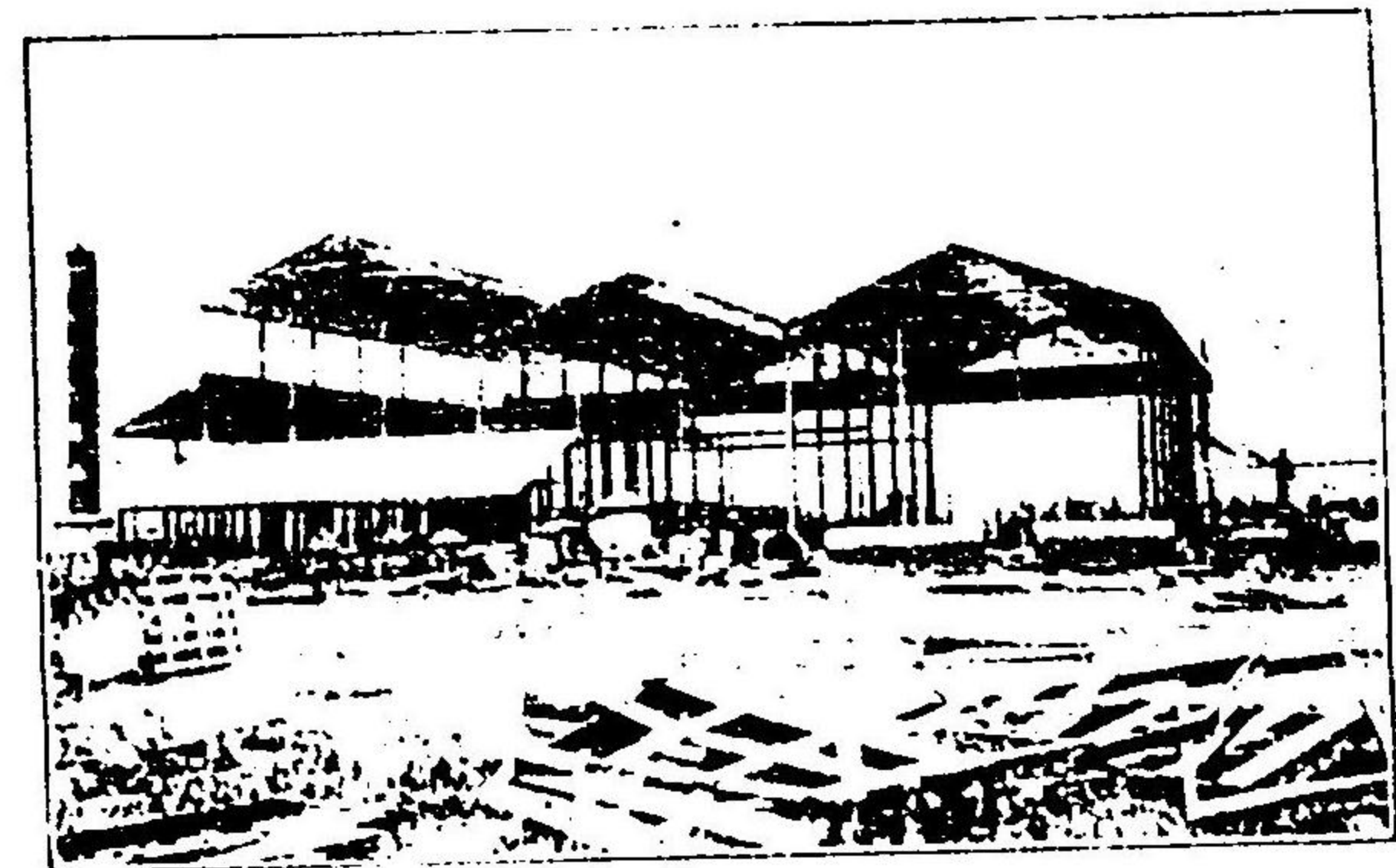
社 會 式 株 糖 製 國 帝  
(Saugerl angen Co, Germany)



(噸千一) 場工庄營新社會糖製港水鹽  
(Harvey Co. Glasgow)



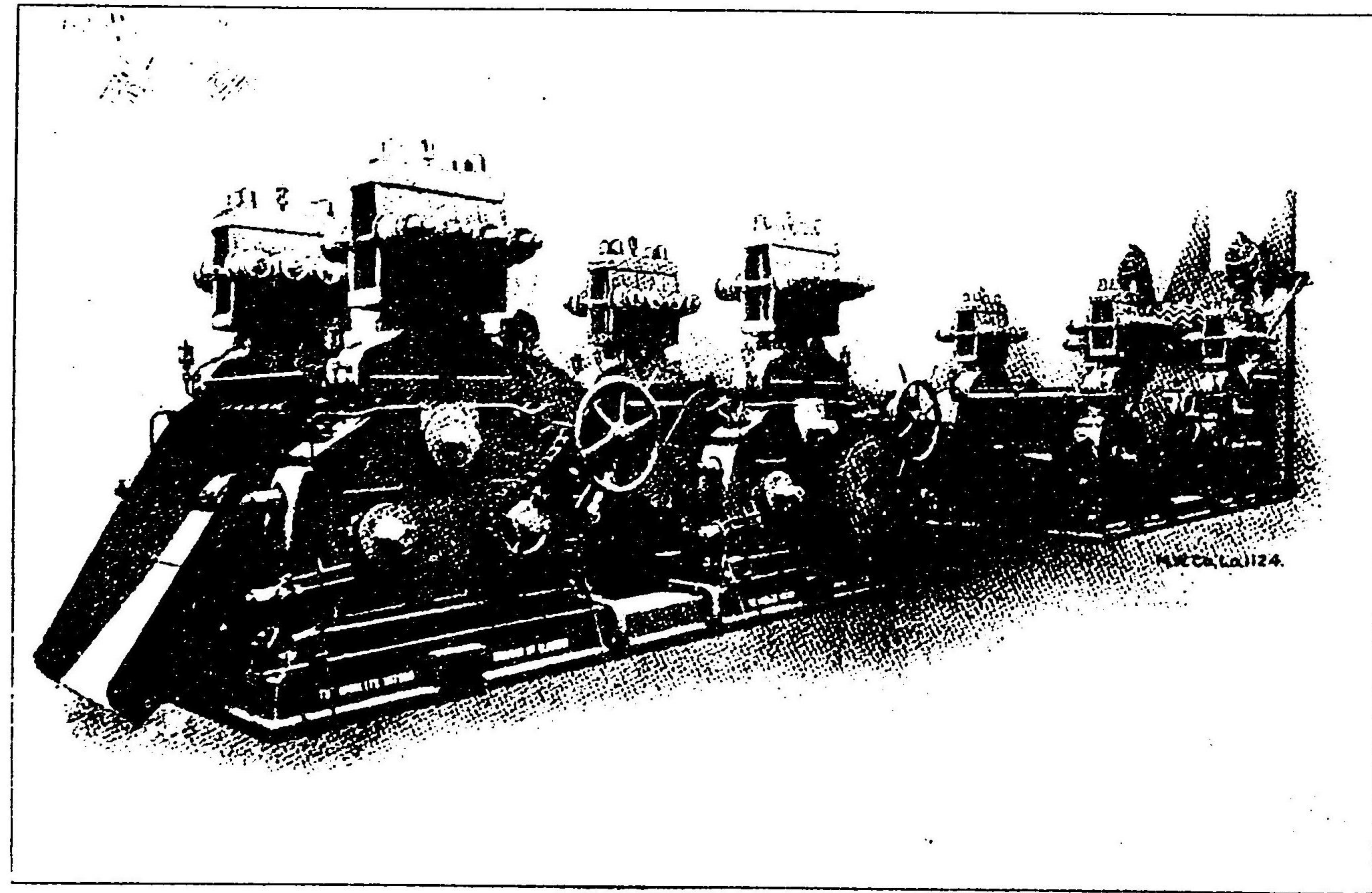
(噸十五百七) 場工社會糖製央中  
(Mirriees watson Co. Glasgow)



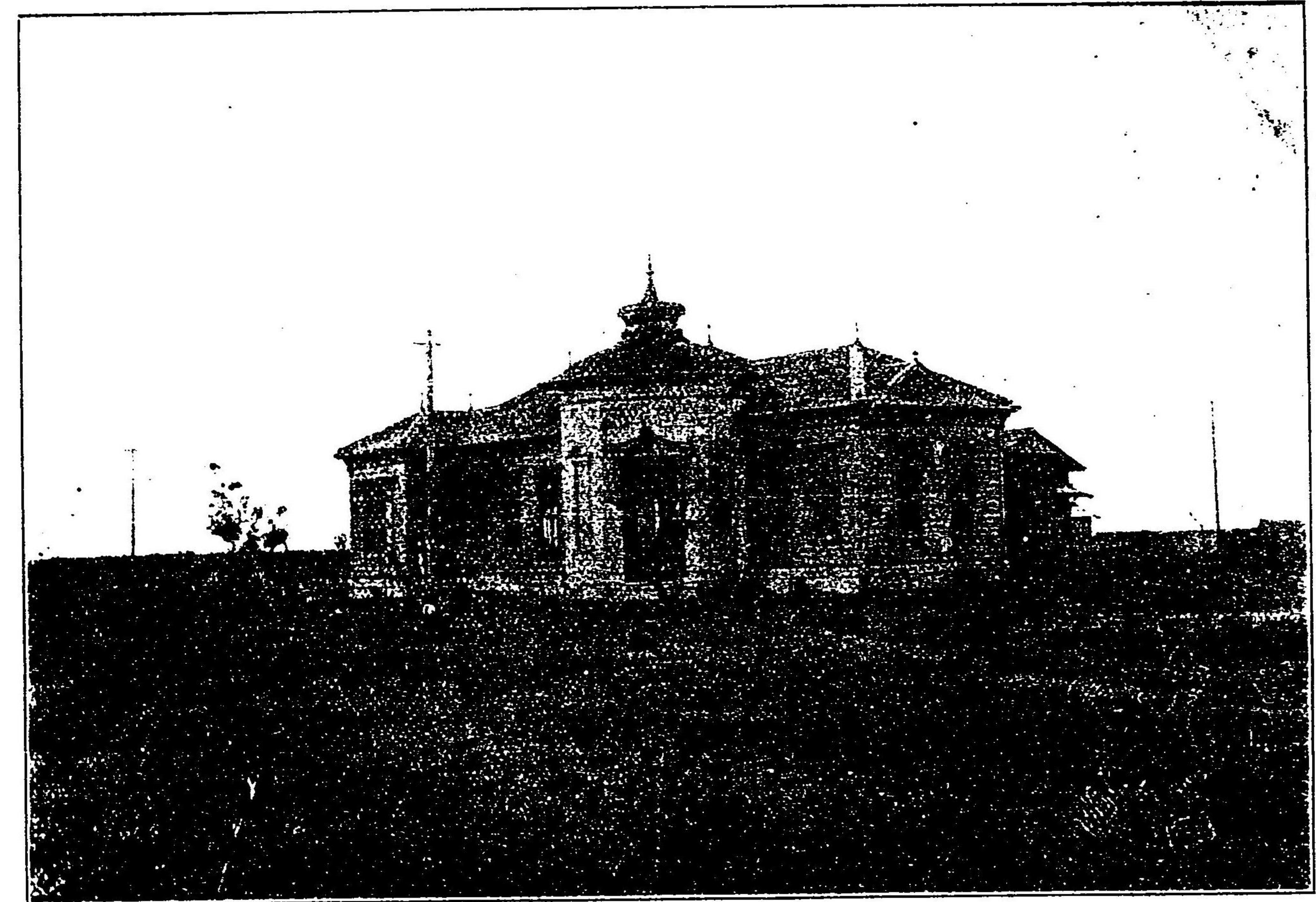
(噸十五百七) 場工化彰糖製高新



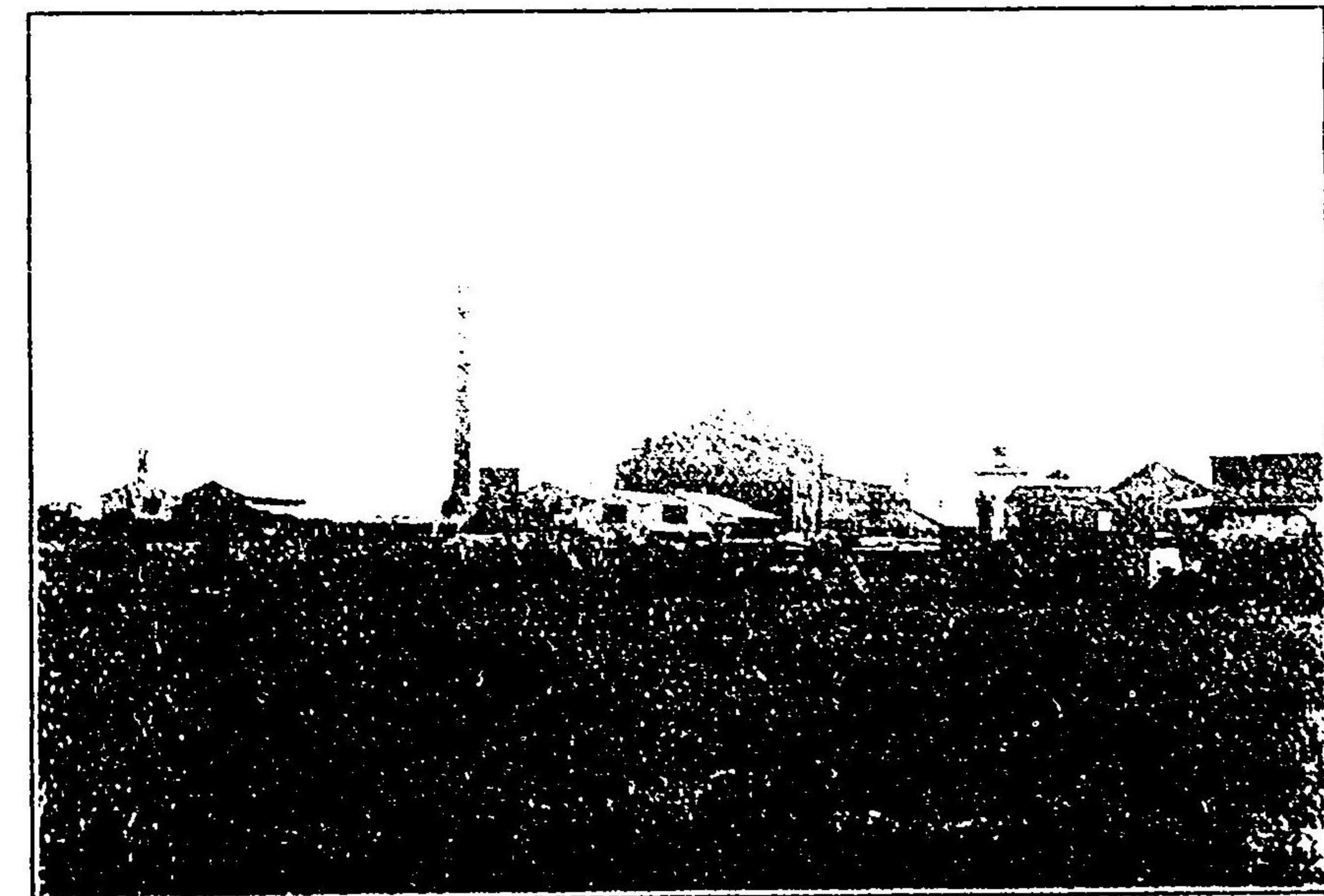
部内場工二第社會式株糖製洋東  
 (噸十五百七)  
 (Mirrlees watson Co, Grsgow)



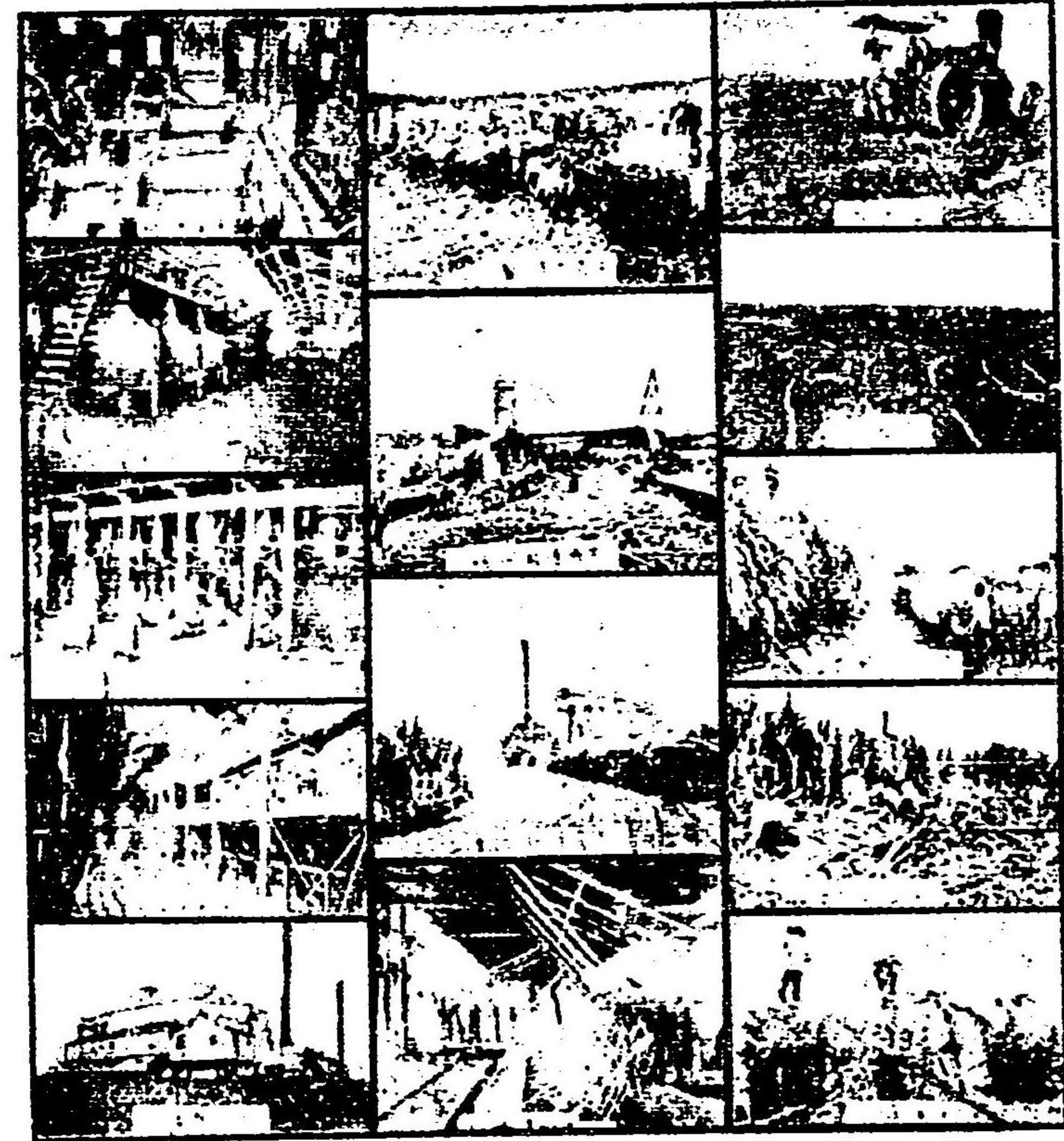
ルミ場工一第社會糖製洋東



所務事源本林



(噸十五百七) 場工社會糖製源本林  
 (Sangerhaugen Co, Germany)



(景全のでまる至に出輸造製糖砂りよ作耕蔗甘)

(説明)

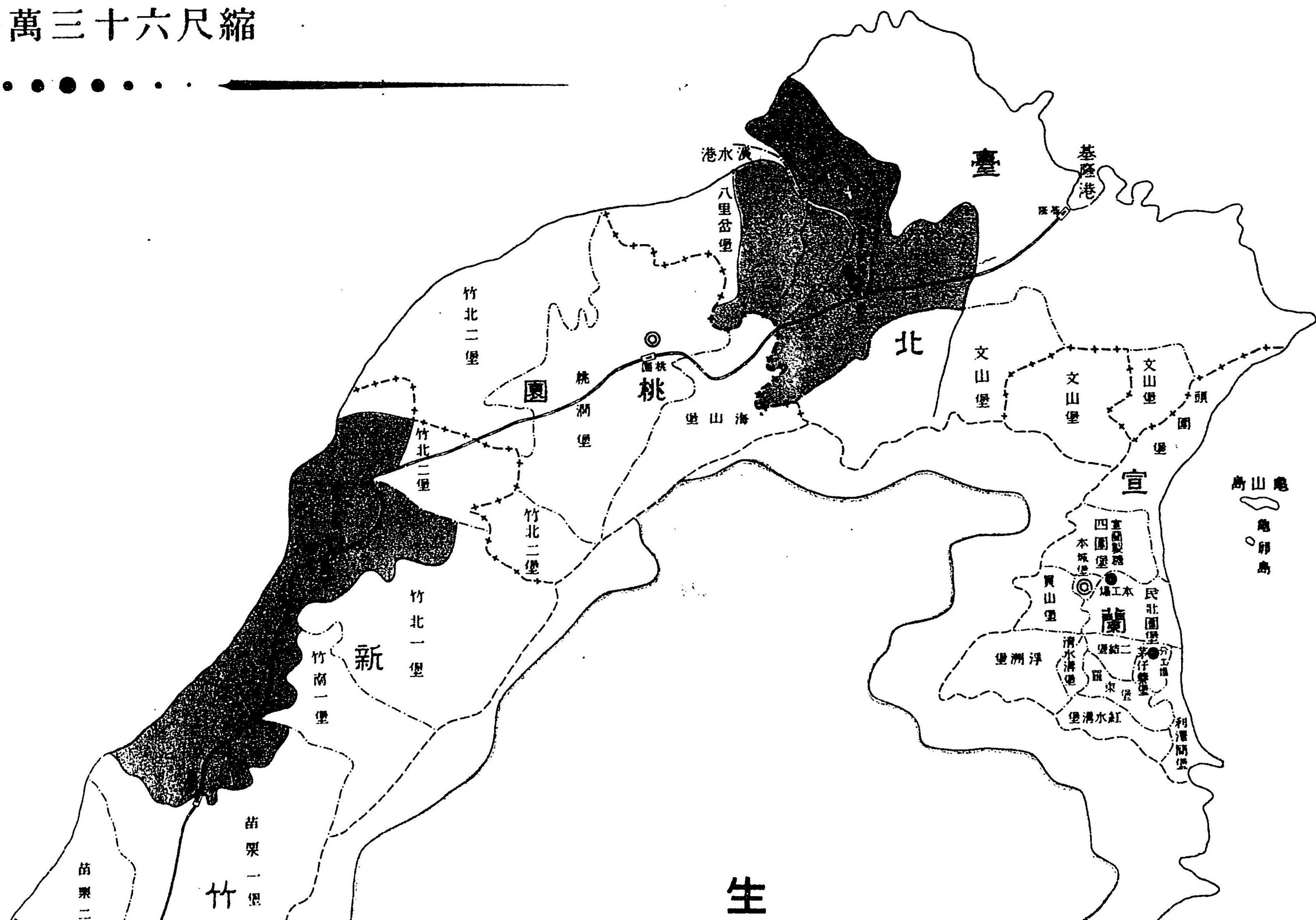
向て右側初圖は蒸汽型にて甘蔗園を犁耕するの景、次圖は各畦に甘蔗苗を植付たるの景、第三圖は甘蔗成育剥葉の景、第四圖は收穫の景、第五圖は運搬車へ積込の景、中段初圖は製造所へ運搬準備の景、同次圖は運搬の景、同三圖は製造所に運搬済の景、同四圖は自動機にて積卸の景、向て右側初圖は甘蔗壓搾の景、次圖は砂糖煮方の景、同三圖は砂糖袋詰の景、同四圖は製品輸出の景、同五圖は製造所の景

# 臺灣

## 製糖場原採料區域圖

(版再)在現月五年五十四治明

一之分萬三十六尺縮



彭佳嶼

製糖場名		資本金額	壓榨能力	原料採取區域內田園面積
新豐	第一	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第二	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第三	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第四	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第五	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第六	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第七	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第八	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第九	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
新豐	第十	二四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇







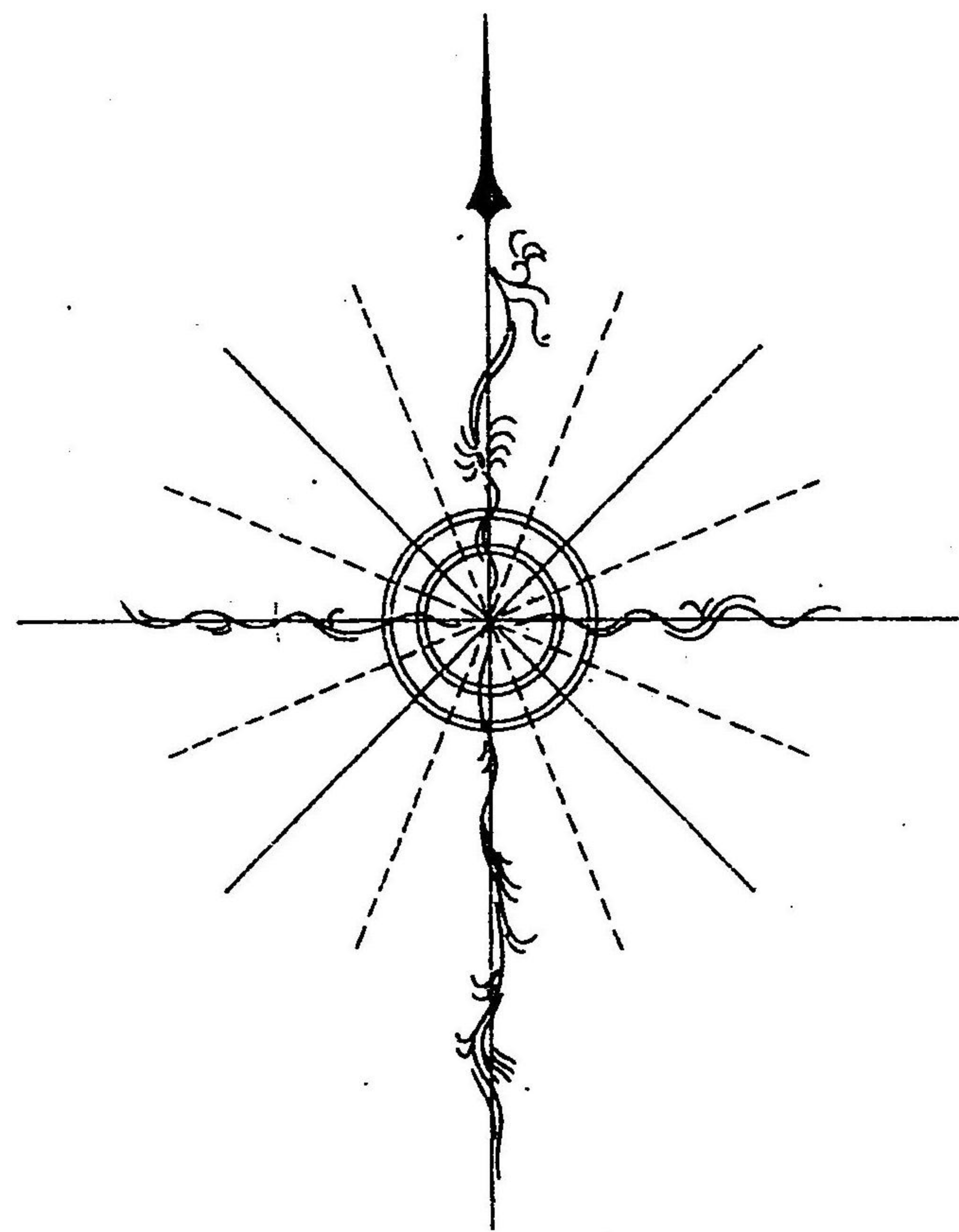
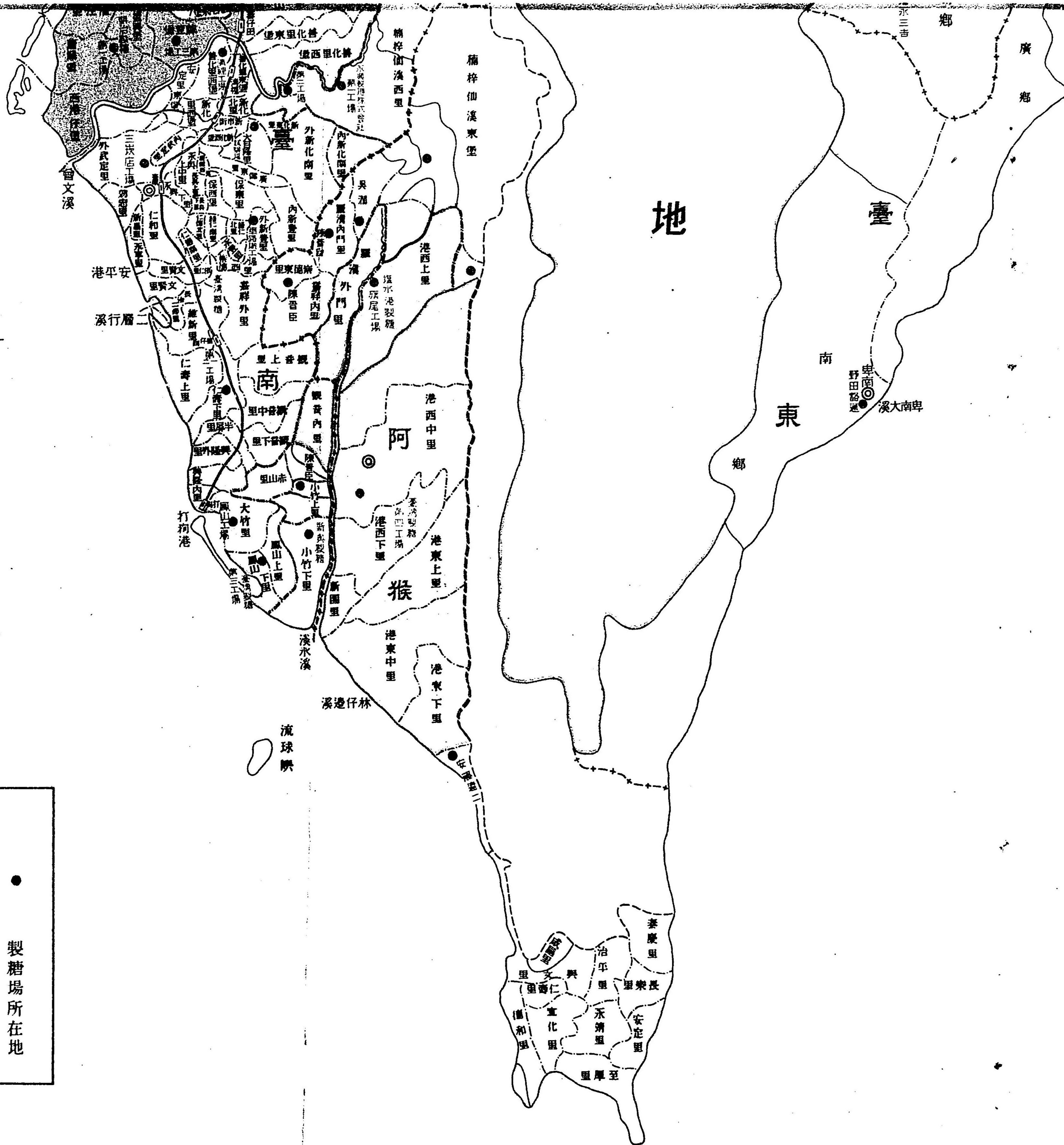








# 地 臺



●	製糖場所在地
◎	廳所在地
—	蕃地界
—	廳界
—	堡界
—	鐵道及停車場
—	河川
—	原料採取區域界
○	海

著作兼發行印刷者 齊藤武治郎  
 東京市麻布區廣尾町七十番地  
 振替口座 二二二九三  
 發行所 糖業研究會事務所  
 東京市麻布區廣尾町七十番地  
 印刷所 小林印刷所  
 東京市麹町區幸町三十一番地  
 (定價金五拾錢)

第一章 帝國糖業法規

臺灣糖業獎勵規則 明治三十五年六月 律令第五號

第一條 甘蔗ノ耕作又ハ砂糖製造ニ從事スル者ニシテ臺灣總督ニ於テ適當ト認ムル者ハ... 第二條 臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ獎勵金... 第三條 甘蔗耕作ノ... 第四條 前條ニ依リ業主權ヲ付與セラレタル者ハ第一條ニ依リ開墾費ヲ... 第五條 甘蔗耕作ノ爲ニ灌漑又ハ排水工事ヲ施行セントスル者ハ... 第六條 此ノ規則ニ... 第七條 蔗園ノ灌漑又ハ排水ニ關シ獎勵金又ハ現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ蔗園ニ他物ヲ耕作シ又ハ其ノ蔗園以外ニ灌漑スルコトヲ得ス... 第八條 製糖機械器具費又ハ現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタルモノ竝ニ依リ補助金ヲ受ケタル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ廢業シ又ハ製造季節一期間以上ニ涉リ休業スルコトヲ得ス... 第九條 第四條乃至第八條ノ規定ハ之ヲ其ノ承繼人ニ適用ス... 第十條 此規則ニ依リ下付セララルヘキ現金及下付セラレタル現品ハ第三者ノ權利ノ爲メ之ヲ差押ノ目的物ト爲ス事ヲ得ス... 第十一條 臺灣總督ハ此ノ規則ニ依リ獎勵金、補助金又ハ現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ糖業ニ關シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得... 第十二條 第四條及第六條乃至第八條又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ臺灣總督ハ獎勵金又ハ補助金ノ停止若ハ返還又ハ土地現品ノ返還ヲ命スルコトヲ得... 第十三條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル命令ニ依リタル處分ニ對シテハ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス... 第十四條 此ノ規則ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣糖業獎勵規則施行細則 明治三十五年六月 府令第四十三號

第一條 臺灣糖業獎勵規則第一條ニ依リ獎勵金ノ下付ヲ受ケントスル者ハ第一號

乃至第四號書式ニ依リ願書及其ノ附屬書類ヲ製調シ所轄官廳ニ差出スヘシ... 第二條 臺灣糖業獎勵規則第三條及第五條ニ依リ官有地ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ第五號又ハ第六號書式ニ依リ願書及其ノ附屬書類ヲ製調シテ所轄地方廳ニ差出スヘシ... 第三條 地方廳前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ地名ノ異同官民有地ノ境界公密ノ有無等調査ヲ遂ケ之ヲ所轄官廳ニ送付スヘシ... 第四條 臺灣糖業獎勵規則第一條ニ依リ下付スヘキ獎勵金ノ歩合ハ毎年度ノ初期ニ於テ告示スヘシ... 第五條 臺灣糖業獎勵規則第二條ニ依リ補助金ノ下付ヲ受ケントスル者ハ第四號書式ニ準シ願書ヲ製調シテ所轄官廳ニ差出スヘシ... 第六條 臺灣糖業獎勵規則第三條ニ依リ官有地ノ貸付ヲ受ケタル者全部成功ノ後業主權ノ付與ヲ出願セントスルトキハ第七號書式ニ依リ願書ヲ製調シ所轄地方廳ニ差出スヘシ... 第七條 臺灣糖業獎勵規則第一條ニ依リ願書ヲ附シ當該官廳ニ送付スヘシ... 第八條 臺灣糖業獎勵規則第一條ニ依リ獎勵金ハ左ニ掲クル者ニシテ當該官廳ニ於テ適當ト認ムル者ニ限リ之ヲ下付ス、一甘蔗苗費又ハ肥料費ハ一甲以上ヲ耕作スル者、二開墾費ハ五甲以上ヲ開墾スル者、三灌漑費又ハ排水費ハ千圓以上ヲ要スル工事若ハ當該官廳ニ於テ特ニ指定スル設備ヲ爲ス者四製糖機械器具費ハ當該官廳ニ於テ指定スル製糖機械器具ヲ裝置スル者... 第九條 臺灣糖業獎勵規則第二條ニ依リ補助金ハ左ニ掲クル者ニシテ當該官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限リ之ヲ下付ス、一一日(十二時間)一萬二千圓以上原料ヲ消費スル機械ヲ裝置シテ粗製糖業ニ從事スル者、二一日(十二時間)二千四百圓以上ノ粗糖原料ヲ消費スル機械ヲ裝置シテ精製糖業ニ從事スル者... 第十條 臺灣糖業獎勵規則第三條ニ依リ貸付スヘキ土地ノ面積ハ五十甲以内トス但シ其土地ノ狀況又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此ノ制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ... 第十一條 前條ノ貸付地成功期限ハ左ノ標準ニ依ルヘシ但シ同條但シ書ノ場合ニ於テハ相當ノ年限ヲ指定ス十甲以内二箇年二十甲以内三箇年五十甲以内五箇年... 第十二條 臺灣糖業獎勵規則ニ依リ官有地ノ貸付ヲ受ケタルモノハ其全部ヲ成功スルニ非ラサレハ同一ノ目的ノ爲メニ他ノ土地ノ貸付ヲ受ケルコトヲ得ス但シ相當ノ資格アリテ成功スルモノ得ルモノト認メタルトキニ此ノ限リニアラス... 第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル蔗園ノ業主權又ハ物件ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケルニ非ラサレハ賣渡、讓渡、貸渡又ハ質入書入ヲ爲スコトヲ得ス、一臺灣糖業獎勵規則ニ依リ付與セラレタル蔗園又ハ獎勵金ノ下付ヲ受ケ開墾シタル蔗園又ハ獎勵金若ハ現品ノ下付又ハ貸付ヲ受ケ灌漑又

ハ排水工事ヲ施行シタル蔗園、二臺灣糖業獎勵規則ニ依リ下付セラレタ機械、器具  
又ハ獎勵金ノ下付ヲ受ケテ購入シタル機械器具、三臺灣糖業獎勵規則ニ依リ下付ヲ受ケタ  
ル機械、器具ヲ設置セル製糖場及附屬建物●第十二條 臺灣糖業獎勵規則第六條及  
第八條ニ依リ官有地ノ貸付ヲ受ケタル者三箇月以内ニ事業ニ着手セサルカ又ハ其ノ  
事業確定ノ如ク成功セサルトキハ未成功地若ハ全部ヲ返還セシムルコトアルヘシ●  
第十三條 前條ニ依リ貸付地ノ返還ヲ命セラレタルトキ若ハ自己ノ便宜ニ依リ貸付  
地ヲ返還シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者  
ハ當該官廳ノ指定シタル期限内ニ之ヲ撤去スヘシ若シ撤去セサルトキハ當該官廳ハ  
所有者ノ費用ヲ以テ之ヲ施行スルコトアルヘシ●附則臺灣糖業獎勵規則施行前ニ於  
テ臺灣森林原野豫約賣渡規則ニ依リ官有地ノ豫約賣許可ヲ受ケタルモノハ臺灣糖  
業獎勵規則第三條ニ依リ變更ヲ出願スルコトヲ得(書式略之)

### 製糖場取締規則 明治三十八年六月 府令第三十八號

●第一條 全部又ハ一部新式機械ヲ應用シ製糖場ヲ設立セントスル者ハ此ノ規則ニ  
依リ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受ケ可シ設立後工場ノ設計ヲ變更セントスル場合亦  
同シ許可ヲ受ケシテ前項ノ製糖場ヲ設立シ又ハ其ノ變更ヲ爲シタル者アリタルト  
キハ臨時臺灣糖務局長ハ何時ニテモ之ヲ取拂又ハ變更ヲ命スルコトヲ得●第二條  
前條ノ許可ヲ受ケタルモノハ第一號又ハ第二號書式ニ依リ願書ヲ受理シタルトキハ意見  
ヲ調査シ所轄地方廳ニ差出スヘシ地方廳ニ於テ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ意見  
ヲ附シ之ヲ臨時臺灣糖務局長ニ送致スヘシ●第三條 臨時臺灣糖務局長ハ製糖場ノ  
設立又ハ變更ノ許可ヲ與ヘタル場合ニハ其ノ原料採取區域ヲ限定スヘシ原料採取區  
域内ニ於テハ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受ケシテ在來ノ構造ニ依リ糖廠ヲ設立ス  
ルコトヲ得原料採取區域内ノ甘蔗ハ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受ケシテ之ヲ區  
域外ニ搬出シ若ハ砂糖以外ノ製造用原料ニ供スルコトヲ得●第四條 前二項ニ依  
リ原料採取區域ヲ限定シ又ハ其ノ區域ヲ變更シタルトキハ臺灣總督府報ニ之ヲ公  
示スヘシ●第五條 第一條第一項及第三條第二項第三項ニ違背シタル者ハ二百圓以  
下ノ罰金ニ處ス●附則既設ノ製糖場ニシテ第一條ニ該當スルモノハ本令施行後三箇  
月内ニ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ(書式略之)

### 砂糖消費税法 明治三十四年三月 法律第十三號

●第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ノ廢止セント  
スルトキ亦同シ●第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於  
テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ原料トスル砂糖、糖蜜若  
ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ營業スルコトヲ得但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜若  
ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水  
以外ノ物品ノ製造場ト區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス(四三、法三三、本條追  
加)●第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スルモノ、之ヲ販賣スル者、又ハ第八條  
ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出  
入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ(四三、法三三、改正)●第十條 收稅官吏ハ砂糖糖蜜  
又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ  
製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ製造出入ニ關シ帳簿書類及其ノ製造又ハ  
販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ  
爲スコトヲ得(四三、法三三、改正)●第十一條 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖  
蜜又ハ酒糖製造ノ原料トシテ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラレタル砂糖及糖蜜  
ニハ消費稅ヲ課セス前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提  
供セシムルコトヲ得第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取タル後六箇月以内ニ砂糖、糖水  
又ハ酒糖ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ  
政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス●第十二條 前條ノ規定ハ本條ノ場合ニ  
之ヲ適用ス●第十三條 第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及  
引渡ニ之テ適用ス●第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖糖蜜  
製造シタルモノト看做ス(四三、法三三、本條追加)一砂糖ニ加工ヲ爲シテ其種別  
ヲ上昇シタルトキ二砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ  
其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其數量ヲ増加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ  
水ノミヲ混和シタル時ハ此限ニ在ラス●第十五條 規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場  
ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖  
水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此限ニ在ラス●第十六條 第六條又  
ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓以下ノ  
コトヲ得ス●第十七條 政府ニ申告セシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ  
二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第十三條ノ二、第八條ノ二ノ禁令ヲ犯シタル者

### 砂糖消費税法施行規則 明治四十二年七月 府令第五十二號

●第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場、稅關又保税倉庫ヨリ引取ラレタル砂糖糖蜜  
及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス●第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖  
水ヲ使用スルハ其ノ消費稅ト看做ス●第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ(四三、法三三、  
本條改正)一砂糖第一種砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖甲種入黑糖百斤ニ付  
金二圓乙其他ノモノ百斤ニ付金三圓第二種砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖百  
斤ニ付金五圓第三種砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖百斤ニ付金七圓第四種砂  
糖色相和蘭標本第二十一號未滿ノ砂糖百斤ニ付金八圓第五種砂糖色相和蘭標本第二  
十一號以上ノ砂糖百斤ニ付金九圓第六種水砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ  
百斤ニ付金十圓二糖蜜第一種水砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜甲種分ヲ糖蜜トシ  
テ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超ヘサルモノ百斤ニ付金三圓乙其他ノモノ  
種分ヲ糖蜜トシテ計算シタル重量百斤ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額第二  
種其他ノ糖蜜甲種分ヲ糖蜜トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超ヘサルモ  
ノ百斤ニ付金二圓乙其他ノモノ百斤ニ付金三圓三糖水百斤ニ付金八圓●第四條  
前條ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之  
ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以内消費稅ノ徵  
收ヲ擔保スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採  
取スルコトヲ得前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔  
保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ  
殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム●第五  
條 内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラレタル砂糖、糖蜜  
又ハ糖水ニ付テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ得要スル擔保物ノ種類ハ命  
令ヲ以テ之ヲ定ム前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月  
内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ  
擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用  
ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス●第六條 消費稅納付前又ハ擔保提  
供前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ得  
●第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於  
テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得シテ之ヲ製造場外ニ移出  
スルコトヲ得命令ヲ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ得テ消費稅納付又ハ擔保提供前  
砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看

●第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ノ廢止セント  
スルトキ亦同シ●第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於  
テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ原料トスル砂糖、糖蜜若  
ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ營業スルコトヲ得但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜若  
ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水  
以外ノ物品ノ製造場ト區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス(四三、法三三、本條追  
加)●第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スルモノ、之ヲ販賣スル者、又ハ第八條  
ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出  
入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ(四三、法三三、改正)●第十條 收稅官吏ハ砂糖糖蜜  
又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ  
製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ製造出入ニ關シ帳簿書類及其ノ製造又ハ  
販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ  
爲スコトヲ得(四三、法三三、改正)●第十一條 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖  
蜜又ハ酒糖製造ノ原料トシテ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラレタル砂糖及糖蜜  
ニハ消費稅ヲ課セス前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提  
供セシムルコトヲ得第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取タル後六箇月以内ニ砂糖、糖水  
又ハ酒糖ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ  
政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス●第十二條 前條ノ規定ハ本條ノ場合ニ  
之ヲ適用ス●第十三條 第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及  
引渡ニ之テ適用ス●第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖糖蜜  
製造シタルモノト看做ス(四三、法三三、本條追加)一砂糖ニ加工ヲ爲シテ其種別  
ヲ上昇シタルトキ二砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ  
其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其數量ヲ増加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ  
水ノミヲ混和シタル時ハ此限ニ在ラス●第十五條 規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場  
ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖  
水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此限ニ在ラス●第十六條 第六條又  
ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓以下ノ  
コトヲ得ス●第十七條 政府ニ申告セシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ  
二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第十三條ノ二、第八條ノ二ノ禁令ヲ犯シタル者

前二條ノ申告事項及前二異動生シタルトキハ其都度所轄廳ニ申告スヘシ製造ヲ  
 休止セムトスルトキハ其ノ事由休止期間ヲ定メ直ニ申告スヘシ休止期間ヲ變更セ  
 ムトスルトキ亦同シ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ●第四  
 條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムト  
 スル者ハ移出場ヲ設ケ其ノ管理人若ハ營業人ト連署シタル申請書ヲ所轄廳ニ提出シ  
 テ承認ヲ受ケヘシ前項ノ移出場ニ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出セムトスルトキハ其ノ種  
 類、記號、斤量、箇數及移出ノ日ヲ定メ其ノ都度收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ前項ニ  
 依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出シタルトキハ收稅官吏ノ下付シタル移出承認書ヲ移出  
 場所轄廳ノ收稅官吏ニ提出スヘシ(四三、府五四、本條改正)●第五條 製造場、  
 稅關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ左ノ事項ヲ所轄廳ニ  
 申告スヘシ、一引取ノ目的、二引取先、三製糖ノ種類、記號、斤量、箇數四引取ノ日四稅  
 金額(税金相當金額)六徵收猶豫期間(擔保期間)七擔保物製造場ヨリ砂糖、糖蜜、  
 糖水ヲ引取ル場合ニ於テハ前項申告書ニ第廿一條第二項ニ依リ收稅官吏ノ下付シタ  
 ル検査證書ヲ添附スヘシ●第六條 砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ砂糖又ハ糖  
 蜜ヲ引取ラムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ検査證書ヲ添附シ所轄廳ノ  
 承認ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ申告書ニ「一引取ノ目的、二引取  
 先、三製糖ノ種類、記號、斤量、箇數、四税金相當金額、五引取ノ日、六製造場ノ位置  
 七製造ノ時期、八引取者ト製造者ト異ル時ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱前項ノ事項  
 ヲ變更セムトスル時ハ更ニ承認ヲ受ケヘシ●第七條 第五條ノ申告又ハ前條ノ申請  
 書アリタルトキハ總ハ検査證書ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類及斤量ヲ査定シ税金ヲ  
 徵收スヘキモノハ之ヲ徵收シ擔保ヲ提供セシムヘキモノハ之ヲ提供セシム引取承認  
 書ヲ下付スヘシ引取者ノ請求ニ依リ引取ノ日以前ニ於テ引取承認書ヲ下付シタル時  
 ハ其ノ下付シタル日ヲ引取ノ日ト看做ス(四三、府五四、本條改正)●第八條 擔保  
 物ノ種類ハ左ニ掲ケルモノニ限ル、一金錢、二總ニ於テ確實ト認ムル有價證券、三垂  
 灣ニ於ケル工場財團擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外總ノ指定スル所  
 リ依ル(四三、府五四、本條改正)●第九條 擔保ヲ提供セムトスル者ハ左ノ事項ヲ  
 記シタル擔保提供書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ、一擔保スヘキ税金額又ハ税金相當金額、  
 二引取ルヘキ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類及斤量、三擔保物ノ種類、箇數、價格、四擔保期  
 間、五擔保提供ノ原因、六擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱擔保提供ノ場合ニ於テ  
 ハ前項第一號及第二號ノ記載ヲ要セス●第十條 擔保トシテ金錢有價證券ヲ提供セ

ムトスルモノハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ提出スヘシ但シ所轄廳内ニ金庫ナキ時ハ之  
 ナ供託セシテ提供スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ領收證ヲ提供者  
 ニ下付シ擔保物ハ之ヲ供託スヘシ擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ總  
 ハ胎權設定ノ手續ヲ爲スヘシ(四三、府五四、本條改正)●第十一條 總ニ於テ擔  
 保物ノ價格減少シタルト認ムルトキハ擔保提供シタルコトヲ得擔保トシテ直ニ  
 供シタル有價證券ノ償却ヲ受ケルニ至リタルトキハ所轄廳ハ擔保提供者ヲシテ直ニ  
 之ニ代ハルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之  
 ナ提供セサルトキハ廳ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス(四三、府五四、本條改正)●第十二  
 條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セントスル者ハ申請書  
 ニ左ノ書類ヲ添附シ所轄廳ニ提出スヘシ一輸出免狀又ハ之ニ代ハルヘキ書類(四三、府五四、  
 輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類(四三、府五四、  
 本條改正)●第十三條 砂糖消費稅法第十一條ノ一第二項ニ依リ提供シタル擔保ノ解  
 除ヲ請求セムトスル者ハ供託受領證又ハ擔保提供シタル廳ニ申請スヘシ前項ノ場  
 合ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場力擔保解除ヲ申請スヘキ廳ノ所轄外ナルトキ  
 ハ製造場所轄廳ノ下付シタル砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書  
 類ヲ添附スルコトヲ要ス●第十四條 擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告初  
 日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ決行スヘシ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏  
 名又ハ名稱、公賣財產ノ種類、金額、公賣ノ場所及時期ノ他必要ノ事項ヲ記載スル  
 シ(四三、府五四、改正)●第十五條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルト  
 キハ公賣ヲ中止スヘシ●第十六條 砂糖消費稅法第四條第二項但書及第十一條ノ一  
 第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得●第十  
 七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場ヨリ引取ラムトスル者ハ其ノ引取ノ際第七條ノ引  
 取承認書ヲ製造者ニ交付スヘシ製造者ハ前項ノ引取承認書ヲ以テ砂糖、糖蜜、糖水  
 ノ引渡ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ(四三、府五四、本條改正)●第十八條 砂糖、糖  
 蜜、糖水ヲ本島外ニ搬出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ製造場所轄廳ニ申請シ搬出  
 證明書ヲ下付テ受ケヘシ但シ搬出期限ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス(四三、府五四、  
 改正)一製糖ノ種類、記號、斤量、箇數二引取先三引取ノ年月日及引取者ノ住所、  
 氏名又ハ名稱四搬出先五搬出港名六搬出期限七搬出先ヘキ砂糖、糖蜜、糖水ノ藏置場  
 八搬出前砂糖ノ包裝ヲ改裝スルモノニ在リテハ其ノ改裝場ノ所在九搬出者ノ住所、  
 氏名又ハ名稱前項ノ事項ニ異動生シタルトキハ書替ヲ受ケヘシ搬出期限内ニ搬出

ヲ終ラサルトキハ搬出證明書ハ其ノ效力ヲ失フ●第十九條 搬出證明書ハ砂糖、  
 糖蜜、糖水ヲ外國ニ輸出シ又ハ内地ニ移送スル際之ヲ稅關ニ提出スヘシ●第二十條  
 砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ政府ノ承認ヲ得テ砂糖、糖蜜ノ原料トシ  
 砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ一原料引取  
 年月日二原料ノ種類、斤量三製造濟年月日四製造シタルモノノ種類、數量第十三條  
 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス●第二十一條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、  
 糖水ノ製造場又ハ販賣場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水ノ原料品、製造用器具、器械又  
 ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ收稅官吏製造場ニ於テ砂糖、糖蜜、糖水ノ検査ヲ爲シタル  
 トキハ検査證書ヲ製造者ニ下付スヘシ前項ニ依リ砂糖ノ検査ヲ爲シタルトキハ其ノ  
 包裝ニ檢印ヲ捺捺スヘシ●第二十二條 檢印アル包裝ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケルニ  
 非ラサレハ之ヲ再用スルコトヲ得ス●第二十三條 糖汁又ハ糖蜜ノ容器及貯溜所ハ  
 其ノ使用前收稅官吏ノ檢定ヲ受ケヘシ●第二十四條 收稅官吏ハ必要ト認ムルトキ  
 ハ砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ製造用器具、器械ニ封緘其ノ他監督上必要ナル  
 方法ヲ施スコトヲ得●第二十五條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造又ハ販賣ニ關シ收稅官吏カ  
 必要ト認メテ承認ヲ受ケヘキコトヲ命シタルトキハ製造者又ハ販賣者ハ其ノ承認ヲ  
 受ケヘシ●第二十六條 砂糖製造者ハ其ノ製造ニ係ル砂糖ヲ一箇質量百斤トシ「ア  
 ンペラ」包裝ヲ施スヘシ但シ所轄廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラサルコ  
 トヲ得砂糖ノ包裝ヲ改裝セムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ●第二十七條  
 引取濟ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ其ノ製造場内ニ藏置セムトスルトキハ藏置區分及藏置  
 期間ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ検査濟ノ砂糖、糖蜜、糖水ハ製造場内ニ於テ  
 検査濟ノモノトシ之ヲ區分藏置シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケルニ非ラサレハ其ノ位置ヲ變更  
 スルコトヲ得ス(四三、府五四、本條改正)●第二十八條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製  
 造者其ノ製造場内ニ常居スル能ハサルトキハ代理人ヲ定メ所轄廳ニ届出ヘシ●第二  
 十九條 砂糖消費稅法第八條ノ二但書ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ販賣業又ハ砂糖、  
 糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ製造業ヲ兼營セムトスル者ハ所轄廳ニ申請シテ其ノ  
 認許ヲ受ケヘシ前項ノ場合ニ於テ、第二條及第三條ヲ準用ス(四三、府五四、本條  
 改正)●第三十條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ノ砂糖、糖蜜、糖水ニシテ災害其  
 ノ他ノ事故ニ因リ亡失シタル場合ニ於テハ製造者ハ直ニ之ヲ所轄廳ニ申告スヘシ●  
 第三十一條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ  
 於ケル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ(四三、府五四、改正)

一原料ノ種類、斤量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ其ノ價格、引取ノ日及引渡  
 人ノ住所、氏名又ハ名稱ニ使用シタル原料ノ種類、斤量及使用ノ日三製造シタル砂  
 糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、記號、斤量、箇數  
 及製造ノ日四他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル  
 物品ノ種類、記號、斤量、箇數、價格、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱●  
 第三十二條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘ  
 シ一引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數、價格、引取ノ日及引  
 渡人ノ住所、氏名又ハ名稱二販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇  
 數、價格、販賣ノ日及買受人ノ住所、氏名又ハ名稱小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號  
 買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載ヲ要セス●第三十三條 第七條第一項ニ依リ製  
 造者ニ於テ交付テ受ケタル引取承認書ハ交付ノ日ヨリ第三十一條及第三十二條ノ帳  
 簿ハ使用濟ノ日ヨリ各三箇年間保存スヘシ●第三十四條 甘蔗耕作者ハ製糖年期毎  
 ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ届出ヘシ但原料採取區域内ニ於テハ此ノ限ニ在ラス一土地ノ  
 座落、地番、地目二甘蔗ノ種類及其ノ作付甲數三新植、株出ノ別及其ノ株數四收穫  
 見込高五使用ノ目的六引渡先七作付又ハ株出ノ月八耕作者ノ住所氏名前項ノ届書ハ  
 街庄社長ニ於テ其ノ年五月末日限之ヲ取纏メ所轄廳ニ進達スヘシ●第三十五條 原  
 料採取區域ノ限定ヲ受ケタル砂糖製造者ハ毎年六月末日限甘蔗作付區域ノ概況圖ヲ  
 添ヘ第三十四條ノ事項ヲ所轄廳ニ届出ヘシ●第三十六條 前二條ニ依リ届出ノ後更  
 ニ新植、採出ヲ爲シ又ハ災害其ノ他ノ事故ニ因リ甘蔗ノ作付甲數又ハ株數ニ著シキ  
 減差ヲ生スルトキハ直ニ其ノ旨所轄廳ニ届出スヘシ●第三十七條 甘蔗耕作者ハ其  
 ノ耕作地一區域毎ニ左ノ事項ヲ記シタル標本ヲ建ツヘシ一土地番番二甘蔗ノ種類株  
 數三耕作者ノ氏名●第三十八條 收稅官吏蔗園ノ調査ヲ爲ストキハ甘蔗耕作者之ニ  
 立會スヘシ收稅官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ街庄社長、土地整理委員又ハ砂糖製  
 造者ヲ立會セシムルコトヲ得●第三十九條 收稅官吏ニ於テ第三十四條乃至第三十六  
 條ノ届出ニ誤謬アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ之ヲ再調ヲ命スルコトヲ得前項ノ場  
 合ニ於テ甘蔗耕作者又ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス●第四十條  
 第二十八條、第三十四條第一項、第三十五條及第三十六條ノ届出ヲ許シ若ハ怠リタ  
 ル者又ハ第十七條、第二十二條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十七  
 條、第三十三條、第三十七條、第三十八條及第三十九條第二項ニ違反シタル者ハ五  
 十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(四三、府五四、改正)●第四十一條 申告書申請

書及届書ハ別記第一號乃至第十三號ノ様式ニ依ルヘシ第三十一條ノ帳簿記載様式ハ  
 廳長之ヲ定ム(四三)府五四、本項追加)●第四十二條 本令中懸ニ屬スル事務ハ  
 稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ララル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ稅關之ヲ行フ●附則本  
 令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス●第三十四條 第二項及第三十五條ノ期限ハ明治四十

二年ニ限リ本令施行ノ日ヨリ三十日以内トス本令施行以前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜、  
 糖水ヲ製造スル者ハ本令第一條ノ申告ヲ要セス明治三十四年九月府令第五十六號砂  
 糖消費稅法施行細則ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス(別記様式略之)

現行砂糖消費稅及輸入關稅率表

種別	限	糖類	百斤ニ付消費稅	百斤ニ付輸入稅	計
第一種	樽入黑糖、下白糖及和關標本色相第十一號未滿ノモノ	甲 樽入黑糖	二・〇〇〇	和關標本色相八號未滿 一・六五〇	三・六五〇
第二種	和關標本色相第十五號未滿ノモノ	乙 其他	三・〇〇〇	同 八號未滿 一・六五〇	四・六五〇
第三種	同 第十八號未滿ノモノ		五・〇〇〇	同 十一號未滿 二・二五〇	五・二五〇
第四種	同 第二十一號未滿ノモノ		七・〇〇〇	協國 定定 二・二五〇	七・二五〇
第五種	同 第二十一號ヲ超ヘタルモノ		八・〇〇〇	和關標本色相第二十號未滿 三・二五〇	一・〇二五〇
第六種	水砂糖ヲ製造スルトキ生スル糖蜜 角砂糖、棒砂糖及其他其他ノモノ		九・〇〇〇	協國 定定 三・二五〇	一・八二七〇
第一種	水砂糖ヲ製造スルトキ生スル糖蜜 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分 ノ七十ヲ超ヘサルモノ		三・〇〇〇	協國 定定 三・二五〇	一・八二七〇
第二種	其ノ他ノ糖蜜 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分 ノ六十ヲ超ヘサルモノ		三・〇〇〇	協國 定定 三・二五〇	一・八二七〇
乙 其他ノモノ			三・〇〇〇	協國 定定 三・二五〇	一・八二七〇
水			八・〇〇〇	從價六割 〇・八五〇	八・八五〇

砂糖消費稅及改正砂糖輸入關稅率表

種別	限	糖類	百斤ニ對スル消費稅	同輸入稅	計
第一種	樽入黑糖、白下糖及ヒ和關標本色相 第十一號未滿ノモノ	甲 樽入黑糖	二・〇〇〇	二・五〇〇	四・五〇〇
第二種	同 第十五號未滿ノモノ	乙 樽入白下糖	二・五〇〇	二・五〇〇	五・〇〇〇
第三種	同 第十八號未滿ノモノ	丙 其他	三・〇〇〇	二・五〇〇	五・五〇〇
第四種	同 第二十一號未滿ノモノ		七・〇〇〇	三・一〇〇	八・一〇〇
第五種	同 第二十一號ヲ超ヘタルモノ		八・〇〇〇	三・三五〇	一・〇三五〇
第六種	水砂糖、角砂糖棒砂糖其ノ他類似ノモノ		九・〇〇〇	四・二五〇	一・二二五〇
乙 其他ノモノ			七・四〇〇	四・六五〇	一・三六五〇

(丙) 糖水

種別	限	界	(百斤ニ對スル消費稅)	同輸入稅	計
第一種	水砂糖ヲ製造スルトキ生スル糖蜜 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量ノ百分ノ七十 ヲ超ヘサルモノ		三・〇〇〇	二・五〇〇	五・五〇〇
第二種	其ノ他ノ糖蜜 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量ノ百分ノ六十 ヲ超ヘサルモノ		二・〇〇〇	一・三〇〇	三・三〇〇
乙 其他ノモノ			三・〇〇〇	二・五〇〇	五・五〇〇
甲 樽入又ハ樽入ノモノ			八・〇〇〇	一・五三〇	一・三三〇
乙 其他ノモノ			八・〇〇〇	一・〇七〇	一・八七〇



所得稅法要略

明治三十二年二月十三日法律第十七號  
改正三十四年第一七〇號 三十八年第三四號

●第一條 帝國內此法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一ヶ年以上居所ヲ有スルモノハ此法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス ●第二條 前條ニ該當セサルモノハ此法律施行地ニ資産又ハ營業ヲ有シクハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス ●第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス、第一種法人ノ所得千分ノ二十五、第二種此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲナス公債社債ノ利子千分ノ二十、第三種前各種ニ屬セサル所得、十萬圓以上千分ノ十五、五萬圓以上千分ノ十、三萬圓以上千分ノ七、五萬圓以上千分ノ五、一萬五千圓以上千分ノ三、一萬圓以上千分ノ二、千圓以上千分ノ一、五百圓以上千分ノ二、三百圓以上千分ノ一、戶主及其同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム、戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ ●第四條 所得稅ノ稅率ヲ定ム、戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ ●第五條 所得稅ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス、第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依リ、第二種ノ所得ハ其支拂ヲ受クヘキ金額ニ依リ、第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依リ、但シ此法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非ザル貸金、預金ノ利子、此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、歳費、年金、恩給金ハ其收入額ノ豫算年額ニ依リ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依リ田畑ノ所得ハ前三年間所謂平均高ヲ以テ算出スヘシ、前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受タル配當金及此法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス ●第六條 左ニ掲ケル所得ニハ、所得稅ヲ課セズ、一、軍人從軍中ニ係ル俸給、二、扶助料及傷痍疾病者ノ恩給、三、旅費學費金及法定扶養料、四、營利ノ目的トセザル法人ノ所得、營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得、外國又ハ此法律ヲ施行セザル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク、此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及到賦賞與金 ●第七條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ充タサル時ハ所得稅ヲ課セズ但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其合算額三百圓ニ滿シタル時ハ此限ニアラス ●第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業

年度毎ニ此法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其計算書ヲ政府ニ提出スヘシ ●第八條 第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アルモノハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之レヲ決定ス、調査委員會閉會後第三種ノ所得アルモノハ新ニ納稅義務アルヘク申告シタルトキハ政府其所得金額ヲ決定ス ●第九條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付キ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムルモノ、所得金額ヲ調査シ其調査書ヲ製シテ之ヲ所得調查委員會ニ送附スヘシ

所得稅法施行規則

明治四十三年六月十九日  
臺灣總督府令第五十二號

●第一條 所得稅法ニ定メタル稅務署長ノ職務ハ廳長之ヲ行フ ●第二條 納稅義務アル法人ハ各事業年度後左ノ期間内ニ損益計算書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ、一、定時總會ヲ開クモノハ總會後七日、二、定時總會ヲ開カサルモノハ及所得稅法第二條ニ該當スル者ハ事業年度終了後六十日 ●納稅義務アル法人解散シタルトキハ貸借對照表作成後三日以内ニ損益計算書ヲ提出スヘシ ●第三條 所得稅法第二條ニ該當スル法人カ支店營業及資産ノ全部ヲ有セサルニ至リタルトキハ損益計算書ヲ添附シ直ニ所轄廳ニ申告スヘシ ●第四條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其損益ヲ調査ス ●第五條 所得金額ハ廳長之ヲ決定シ納稅義務アル法人ニ通知スヘシ ●第六條 所得稅法第二條ニ該當スル法人ノ納稅地ハ支店所在地トシ支店ヲ有セサル者ハ營業ノ所在地トシ支店及營業ヲ有セサル者ハ資産ノ所在地トス ●第七條 前條ノ法人カ支店、營業又ハ資産ヲ一箇以上ノ廳管内ニ於テ有スルトキハ其一ニ就キ納稅地ヲ定メ其地ノ所轄廳ニ申告スヘシ、前項ノ申告ヲ爲サ、ルトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス ●第八條 前條ノ法人納稅地ヲ變更シタルトキハ新納稅地ノ所轄廳ニ申出スヘシ ●第九條 納稅義務アル法人納稅管理人ヲ定メタルトキハ之レヲ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ所轄廳ニ申告スヘシ納稅管理人更ニ其氏名住所又ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同シ、納稅管理人ハ納稅地所轄廳ノ管内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者タルヲ要ス ●附則 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス ●明治四十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ事業年度終了シ第二條ノ期間ヲ經過若ハ期間内ニ在ル者ハ損益計算書提出期間ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以内トス但シ二十日以内ニ第二條ノ期間滿了セサルモノハ此ノ限ニアラス ●本令施行ノ際第七條及第九條申告ハ本令施行後二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

臺灣製糖及纖維工場胎權規則

明治四十二年  
律令第六號

●第一條 本令ニ於テ工場ト稱スルハ全部新式機械ヲ用ヒ砂糖又ハ纖維製造ノ目的ニ供スル設備ヲ云フ、第二條 工場ノ所有者ハ胎權設定ノ爲メ一箇又ハ數箇ノ工場ニ就キ工場團體ヲ設定スルヲ得、工業所有權、用水權、土地使用權ハ工場團體ニ屬セシムルヲ得、他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押假差押若ハ假所分ノ目的タルモノハ工場團體ニ屬セシムルヲ得、工場團體ニ屬スルモノハ之ヲ處分シ又ハ他人ノ權利差押假差押若ハ假處分ノ目的トナスヲ得、但シ胎權者ノ同意ヲ得テ賃貸ヲナスハ此限リニアラス、工場ノ所有者ハ胎權者ノ同意ヲ得テ工場團體ニ屬スルモノヲ團體ヨリ分離スルヲ得 ●第三條 工場團體ハ設立シ胎權ノ消滅ニ因リ消滅ス登錄ハ第五條第二項第五號ノ期間滿了後二週間ヲ經過スルニアラサルハ之ヲ爲スコト得 ●第四條 工場團體ヲ設定セントスルモノハ工場團體ニ組入ルヘキモノニ對シテ異議ノ申立ノ催告ヲ臺灣總督ニ申請スヘシ、前項ノ申請ニハ工場團體ニ組入ルヘキモノ、目錄ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ之レヲ提出スヘシ ●第五條 前條ノ催告ハ三日以上府廳ニ掲載シ且十日以上地方廳ノ揭示場ニ公示スヘシ、催告ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ、一、工場團體ニ組入ルヘキモノ、二、工場所有住所氏名又ハ名稱、三、第一號ニ掲ケタルモノニ對シテ異議ヲ申立ツヘキ旨ヲ表示四、異議ノ申立ヲ爲サ、ルニ因リ生スル効果五、異議ノ申立期間、前項第五號ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得 ●第六條 前條第二項第五號ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲サル者ハ工場ノ所有者、胎權者又ハ胎權ノ行使ニ因リ工場團體ノ全部若クハ一件ヲ取得シタル者及其承繼人ニ對シテ權利ヲ主張スルコトヲ得、其爲シタル差押假差押及假處分ハ其効力ヲ失フ ●第七條 胎權ノ設定、變更、移轉及消滅ハ登錄ヲナスニ非サレハ其効力ヲ生セス ●第八條 工場團體及其胎權ニ關スル登錄ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ地方廳ニ備付タル工場團體登錄簿ニ之ヲ爲ス、登錄簿ノ株式及記載事項ハ臺灣總督府之ヲ定ム ●第九條 工場團體成立後二月以内ニ胎權設定ノ登錄ヲキトキハ工場團體ハ成立セザルモノト見做ス ●第十條 胎權ヲ設定セントスルトキハ契約書ノ謄本ヲ添ヘ當事者連署シテ之ヲ申請スヘシ ●第十一條 胎權ノ登錄ニ關シテハ登錄稅法第十三條ノ三ノ規定ヲ準用ス ●第十二條 第十條ノ申請アリタルトキハ臺灣總督府ハ當事者、債權額及辨濟期限ヲ三日以上府報ニ掲載シ且十日以上地方廳ノ揭示場ニ公示シ土地及登記アル建物ニ就テハ登記官廳ニ通知スヘシ、前項ノ通知ヲ受ケタル登

臺灣製糖及纖維工場胎權規則施行規則

明治四十三年五月十日  
臺灣總督府令第四十七號

記官廳ハ職權ヲ以テ相當關係内ニ其旨ヲ記入スヘシ ●第十三條 工場ノ所有者債權ノ履行ヲ爲サ、ル時ハ胎權者ハ工場團體ニ付他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得 ●第十四條 工場所有權者カ其事業ヲ廢止シクルトキハ胎權者ハ其權利ヲ實行スルコトヲ得 ●第十五條 工場ノ所有者ハ之ニ代リテ一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡又ハ擔保ノ目的ヲ以テ工場團體ニ屬スルモノヲ第三種ノ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス工場ノ所有者工場團體ニ屬スル物ヲ毀損シ又ハ毀損セシメタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス、前二項ニ規定シタル行為ト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ ●第十六條 本令ニ定ムルモノ、外必要ナル事項ハ臺灣總督府之ヲ定ム ●附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ノ各項ニ違背製造スヘシ●一、土地ニ付テハ座落、地番、等則、地目、甲數ヲ記載スヘシ但シ鐵道用地ハ此限ニアラス●二、工作物ニ付テハ其種類構造及建坪又ハ延長ヲ記載シ且ツ其所在ノ土地ヲ表示スヘシ●三、機械器具、電柱、配置諸管、舟筏其他ノ附屬物ニ就テハ其種類、構造個數、延長ヲ記載シ若製作者ノ氏名又ハ名稱、製造ノ年月日、記號、番號其他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ルヘキ特質アルトキハ其特質ヲモ記載スヘシ但シ輕微ナル附屬物ノ記載ハ概括シテ之ヲ爲ス事ヲ得●四、鐵道及軌道ニ付テハ區間延長、軌間、軌條重量、線路、停車場ノ甲數、構造、經同、延長ヲ記載スヘシ●五、登記シタル船舶ニ付テハ船舶登記規則第十六條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ●六、工業所有權ニ就テハ其權利ノ種類名稱、番號及原簿登錄ノ年月日ヲ記載スヘシ、工業所有權ニ關スル實施權ニ就テハ實施權ノ範圍此本權ノ種類、名稱、番號、原簿登錄ノ年月日及其權利者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ●七、用水權及土地使用權ニ付テハ第一號ニ掲ケタル事項ノ外其權利ノ目的及範圍、存續期間、料金ノ有無及料金額、其支拂時期設定ノ年月日并業主ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ●第八條 工場財團目錄ニハ其每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但申請人カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ定ム●第九條 工場圖面ニハ左ノ事項ヲ表示シ申請人之署名押印スヘシ●一、工場ニ關スル土地及工作物ノ方位形狀並同尺●二、機械並重要ナル附屬物ノ配置●三、工場一部カ工場財團ニ關セサル場合ニ於テハ財團ニ關スル部分ト之ニ關セサル部分トヲ明瞭ニ區分スヘシ●第十條 工場財團ニ組合入ルヘキ者ニ對スル異議ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ臺灣總督ニ提出スヘシ●一、物又ハ權利ノ表示●二、一定ノ申立及其理由並證據方法●三、申立人ノ住所、氏名又ハ名稱●第十一條 前條ノ申立アリタルトキハ臺灣總督府ハ之ヲ申請人ニ通知ス、申請人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ之カ答辭書ヲ提出スヘシ、臺灣總督府ハ異議申立ノ目的タル物又ハ權利ノ除却ヲ命シ又ハ異議申立ヲ却下スルコトヲ得前項ノ處分ハ申請人又ハ異議申立人ニ通知ス●第十二條 工場所有者ハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第三條第二項ノ期間満了後一月以内ニ工場財團設定ノ登錄ノ申請ヲ爲スヘシ但シ期限後ト雖モ異議アリタル事件ト付テハ第十一條第四項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ申請ヲ爲スコトヲ得、前項ノ期間ヲ過リ工場財團設定ノ登錄ヲ申請セザル時ハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第五條ノ備付ハ其効力ヲ失フ、前項ニ依リ備付力其効力ヲ失ヒタルトキハ其旨府報及地方廳ノ揭示場ニ公布ス●第十三條 工場財團設定ノ登錄申請書ニハ第七條ノ目錄及工場圖面ヲ添附

スヘシ●第十四條 工場財團設定ノ登錄ヲナシタルトキハ土地及登記アル建物ニ付テハ之ヲ登記官廳ニ通知シ工業所有權ニ付テハ特許局ニ通知スヘシ、前項ノ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲナシ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第六條ニ依リ効力ヲ失ヒタルモノニ付テハ其登記ヲ抹消スヘシ●第十五條 工場財團目錄ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ工場ノ所有者ハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第六條ニ依リ効力ヲ失ヒタルモノニ付テハ其登記ヲ抹消スヘシ、前項ノ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲ爲スヘシ●第十六條 新ニ工場財團ニ組合入レントスル官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲ爲スヘシ●第十七條 工場所有者カ物又ハ權利ニ就テハ工場財團設定ニ關スル規定ヲ準用ス●第十八條 工場財團ニ關スル工場ノ設計又ハ工事方法ヲ變更セシムルトハ胎權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ警告スヘシ但其期間ハ四十日ヲ下ルコトヲ得ス、胎權者カ異議ヲ申立タルトキハ工場所有者ハ臺灣總督府ノ裁定ヲ申請スヘシ●第十九條 規定ハ胎權者カ豫メ同意シタル場合ニハ之ヲ適用ス●第十八條 工場所有者カ工場財團ニ關スル工場ノ設計又ハ工事方法ヲ變更ニ付キ許可又ハ認可ヲ申請シタル場合ニ於テ臺灣總督府カ必要ト認ムル時ハ工場所有者ヲシテ胎權者ニ對シ異議アラハ申立ナナスヘキ旨ヲ警告セシムル事ヲ得、前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス●第十九條 臺灣製糖及纖維工場ノ胎權規則第九條ノ場合ニハ職權ヲ以テ工場財團ノ登錄ヲ抹消シ土地建物ニ付テハ登記官廳ニ通知シ工業所有權ニ就テハ特許局ニ通知スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲナスヘシ●第二十條 胎權消滅ノ原因發生シタルトキハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第十條ノ規定ヲ準用ス、前三項ノ申請ニ因リ登錄シタルトキハ二日以上府報及地方廳ノ揭示場ニ公示シ土地建物ニ付テハ登記官廳ニ通知シ工業所有權ニ付テハ特許局ニ通知スヘシ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲナスヘシ●第二十一條 工場財團登錄簿ハ臺灣總督府ノ命令ニ因リ廳長之ヲナス記ナシスヘシ●第二十二條 工場財團登錄簿ハ別記様式ニ依リ、工場財團登錄申請書ニ添付セル●第二十三條 工場財團登錄簿ニ登錄ナシタルトキハ工場財團登錄簿ノ一部ト看

做シ其記載ハ之ヲ登錄ト看做ス●第二十三條 登錄ニ關スル書類ハ別記第一號乃至第六號様式ニ依リ提出スヘシ●第二十四條 地方廳ニ於テ登錄申請書ヲ受理シタルトキハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第二條ニ於テ臺灣總督府ハ前項ノ書類ヲ調査シ登錄スヘキモノト認メタルトキハ之ヲ廳長ニ送附シ其登錄ヲ命ス、廳長ハ工場財團登錄簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ直チニ其旨ヲ臺灣總督府ニ報告スヘシ前項ノ報告アリタルトキハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第十二條及本令第十四條第一項第十五條第三項第十九條第一項第二十條第四項ノ手續ハ臺灣總督府之ヲナス●第二十五條 何人ト雖工場財團登錄簿ノ閱覽又ハ謄本、抄本ノ下附ヲ申請スルコトヲ得但シ左ノ手續料ヲ納付スヘシ●一、閱覽一画ニ付金二十錢、謄本又ハ抄本一枚ニ付金二十錢●第二十六條 前條ノ手續料ハ其申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ●第二十七條 第十五條第一項ノ申請ヲナス又ハ第二十七條第一項ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス、附則本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣私設鐵道規則 明治四十二年十二月廿六日 律令 第二十二號

●第一條 鐵道ヲ敷設セントスル者アル時ハ臺灣總督府ノ許可ヲ受ヘシ●第二條 運輸ヲ開始セントスル者ハ臺灣總督府ノ許可ヲ受ヘシ●第三條 鐵道ノ設備ハ臺灣總督府ノ許可ヲ受ルニ非レハ之ヲ運輸ノ用ニ供スル事ヲ得設備ヲ變更シタルトキ又同シ●第四條 臺灣總督ハ當該官吏ヲ派遣シテ鐵道ノ工事設備、運輸、保護、又ハ車輛ニ關スル狀態ヲ監査セシメ不適當ト認ムルトキハ必要ナル命令ヲナスコトヲ得、前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ鐵道ニ關スル帳簿、書類、圖面ヲ檢閲シ當業者、其代理人又ハ使用人ニ之カ説明ヲ求ムルコトヲ得●第五條 鐵道及之ニ附屬スル物件ハ臺灣總督府ノ許可ヲ受ルニ非レハ之ヲ讓渡シ貸渡シ又ハ擔保ノ目的トナスコトヲ得但シ個人ノ專用ニ供スル鐵道ニ付テハ此限ニ非ス●第六條 鐵道ニ關スル事故ハ臺灣總督府ノ定ムル處ニヨリ運送ノ事故ヲ出ヘシ、事故審査上必要ト認ムルトキハ臺灣總督府ハ現狀ヲ存置シ命スルコトヲ得●第七條 當業者カ鐵道ニ關スル法規又ハ法規ニ基キテ發スル命令ヲ遵守セズ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲アリト認ムルトキハ臺灣總督府ハ許可ノ全部又ハ一部ヲ取消シ其他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得●第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス●一、第一條ノ許可ヲ受シテ工事ニ着手シタル者●二、第二條ニ違反シテ運輸ヲ開始シタル者●三、第三條ニ違反シタル者●四、第四條ニ依リ命令ニ違反シタル者●第九條 前條第二號乃至第四號ノ場

合ニ於テ其違反ノ行爲ニ依リテ得タル收入金ハ之ヲ沒收ス收入金ト區別シ難キ他ノ收入金アルトキハ併セテ之ヲ沒收ス、前項ノ沒收金ハ臺灣租稅滯納處分規則ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス但シ其先取特權ハ公課ニ次キ之ヲ行フ●第十條 當該官吏ノ訊問ニ應ジ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依リ●第十一條 第六條ノ届出ヲ怠リ又ハ現狀存置ノ命令ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス●第十二條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ當業者ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス●一、鐵道ニ關スル法規若クハ法規ニ基キテ發スル命令又ハ許可ニ附シタル條件若ハ條件ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ●二、許可ヲ受ヘキ事項ニ關シテ之ヲ受シテ施行シタルトキ●第十三條 個人ノ專用ニ供スル鐵道ニシテ瓦斯力、蒸氣力又ハ電氣力ヲ使用セザルモノニハ本令ヲ適用セズ●第十四條 一般交通運輸ノ用ニ供スル爲公共道路上ニ敷設スル軌道ニ付テハ本令ヲ準用ス、前項ノ軌道敷設ノ爲メ道路ヲ更正シ又ハ擴張シタルトキハ其更正又ハ擴張シ係ル部分ノ敷地ハ之ヲ道路敷地ニ編入ス●第十五條 本令ニ定ムルモノ、外必要ナル事項ハ臺灣總督府之ヲ定ム●附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス、本令施行ノ際現ニ敷設中ノ鐵道ハ本令ニ依リ敷設ノ許可ヲ得タルモノト看做ス

臺灣私設鐵道規則施行細則 明治四十一年十二月二十六日 臺灣總督府令 第七十三號

●第一條 私設鐵道ノ起業者ハ臺灣總督府管内ニ事務所ヲ設クヘシ●第二條 鐵道ヲ敷設セントスルモノハ假許可ノ申請ヲ爲スコトヲ得●第三條 許可及假許可ノ申請書ニハ鐵道敷設ノ目的、鐵道ノ種類、軌間、資本ノ總數及出資ノ方法ヲ記載シ起業者之ニ署名シ其事務所所在地ノ廳長ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ、假許可ノ申請書ニハ左ノ書類圖面ヲ添付スヘシ●一、線路實測圖●二、工事ノ方法●三、工費豫算書、一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ尚左ノ書類ヲ添付スヘシ●四、起業カ公共ノ利益タルモノトシテ證明スル書類●五、運送營業上ノ收支概算書及說明書、前各號ノ圖面及書類ニ記載スヘキ事項並其調製ノ様式ハ臺灣總督府鐵道部長之ヲ定ム、起業者カ法人ナルトキハ其定款并ニ登記ノ謄本ヲ提出スヘシ、臺灣總督府鐵道部長ハ申請ノ審査上必要ト認ムルトキハ更ニ書類圖面ヲ提出シ命シ若ハ起業者自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得●第四條 廳長ハ前條ノ申請書ニ意見ヲ附シ鐵道部長ニ送附スヘシ、起業地方他廳管内ニ亘ルトキハ關係地ノ廳長ト商議シ前項ノ意見書ヲ調記スヘシ●第五條 線

路豫測圖ハ左ノ三種トス一、豫測平面縮尺ハ一吋三十釐トシ線路ノ中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ其經過スル地名及地勢ヲ明記シ停車場ノ位置、名稱及曲線半徑并ニ交角ヲ示シ距離ハ半哩毎ニ記入スベシ二、豫測縱斷面縮尺ノ長サハ平面圖ト同一ニシテ高サハ一吋百五十釐トシ中心線地面ノ高低(黑色)及施工基面ノ高低(赤色)ヲ半哩毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、線路ノ勾配並ニ停車場ノ位置、名稱ヲ記スベシ●第六條 線路豫測圖ノ說明書ニハ線路經過地ノ地勢ヲ詳記シ、街庄社、社寺廟宇、墓地、道路、山川、埤圳、港灣等ノ主ナルモノ及要地トシ關係ヲ明ニスベシ、說明書ニハ縮尺二十萬分ノ一以上ノ地圖ヲ添ヘ既成鐵道トノ關係ヲ明示スベシ●第七條 線路實測圖ハ左ノ諸圖トス一、實測平面縮尺一吋六釐トシ線路ノ左右各十釐以内ノ地勢ヲ明ニス其ノ他附近ノ街庄社、社寺廟宇、墓地、道路、山川、埤圳、港灣、要塞地ヲ示シ境界及磁針方位ヲ記スベシ線路中心線ハ赤地ヲ以テ彩リ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ起終點、半徑及交角、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱及哩程、隧道及橋梁ノ名稱並位置ヲ示スベシ若シ他ノ鐵道線路ト交スルカ又ハ之ニ接スルハ連絡スル所アルトキハ該線路ノ前後各一哩間ノ中心線ヲ記入スベシ、重要ナル建造物ニ接近シ又ハ之ヲ排除シキハ該箇所、重要ナル河川、埤圳ヲ附記シ又ハ之ニ接近スルハ連絡スル箇所ハ一吋三釐ノ縮尺ヲ以テ其箇所ノ地形ヲ附記シ且設計ノ概要ヲ示スベシ、市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺一吋三釐ノ平面圖ヲ添附スベシ、電氣鐵道ニアリテハ別ニ縮尺一吋三釐ヲ以テ表ハセル全線ノ平面圖ヲ添附シ、發電所、變壓所、配電所、電氣線路、電柱、埋線及埋線試驗ノ位置埋線ノ深サ、電氣線路ノ經過地名及附近ノ街庄社名、電柱番號、道路ノ巾、電柱ノ道路ヘノ出巾及其最近地ノ番戶、他人ニ屬スル電燈線、電力線其他電氣鐵道用電線ト交又ハ接近スル箇所、電氣線路ヨリ凡一町以内ノ區域ニ在ル電氣線電話線其他電氣信號線等ノ位置並ニ縮尺ノ一部トシテ大地ヲ使用スル場合ニハ軌道ヨリ凡二町以内ノ區域ニ在ル地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體及發電氣ノ一種ヲ接地スル點ノ位置等ヲ明瞭ナル凡例ヲ掲ゲテ記入スベシ二、實測縱斷面圖、縮尺ノ長サハ一吋三釐高サハ一吋三十釐トシ中心線地面ノ高低(黑色)施工基面ノ高低(赤色)築堤ノ高サ(綠色)及切取りノ深サ(赤色)ヲ一釐毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長サ、種類及箇數、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱、哩路及兩端區域、國道其ノ他重要ナル道路諸切ノ位置並線路ノ勾配ヲ詳記シ且ツ欄外ニ直線及曲線ノ圖表ヲ示スベシ、國道其

ノ他重要ナル道路軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交スル箇所ハ適宜ノ縮尺ヲ以テ其附近ニ於ケル高サノ關係ヲ示シ且設計ノ概要ヲ附記スベシ他ノ鐵道ニ接近シ又ハ之ニ連絡スル箇所ハ其前後各一哩間兩線對比ノ縱斷面圖ヲ添附スベシ三、實測橫斷面圖縮尺適宜トシ縱斷面圖ノミニテ地形ヲ示スニ不充分ナル箇所ニ限リ之ヲ添附スベシ四、實測河川圖、河川、埤圳其他重要ナル河川ヲ橫斷スル箇所ニ限リ之ヲ添附スベシ五、實測縱斷面圖ノ外適宜縮尺ヲ以テ調整シタル橫斷面圖ヲ附シ鐵道線路ノ左右各半哩間ニ於ケル地形、堤塘河庄ノ形狀及其地質、平水位及最高洪水位ヲ示シ且橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入スベシ、實測圖面ニハ別記第一號及第二號樣式ニ依リ曲線表及勾配表ヲ添附スベシ、圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ縱橫各一吋ヲ以テ最小限トス●第八條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ一、單線又ハ復線等ノ區別二、軌間及軌道ノ間隔三、建築定規及車輛定規四、曲線ノ最小半徑及反向曲線間ノ最短直線五、線路ノ最急勾配及縱斷線ノ最小半徑六、施工基面ノ巾、築堤及切取斜面ノ勾配、排水ノ渠ノ寸法及用地ノ巾七、橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ臺脚及礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質、構造、寸法、及所定最大活重並桁各部ノ最大應力及之ニ伴フ撓度八、隧道ノ各種ノ地質ニ應ズル施行断面、坑門、排水渠及待避所ノ構造並各待避所間ノ距離九、軌條及附屬品ノ材質形狀及重量枕木ノ材質寸法及敷設間隔、道床種類及厚サ、轉轍器及軸又ノ構造並ニ曲線ニ於ケル軌間ノ擴張及外方軌條ノ高度十、停車場ニ於ケル諸建物軌條場、貨積卸場、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、貯水器、石灰壘等ノ位置及構造、測線ノ配置、軌又ノ交角用地ノ境界ノ井停車場哩程十一、機關車ノ輛數、形狀、構造、寸法、重量及蒸壓、客車貨車其他ノ車輛ノ車臺、及車輛ノ構造、聯絡具及緩衝器ノ裝置寸法集十二、國道其他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交又ハ之ニ隣接スル箇所ノ防備十三、各種ノ設計ニ依リ施設スベキ工事方法、電氣鐵道ニ在リテハ發電所、變壓所、及配電所ニ内機械器具ノ裝置法、原動器ノ種類、箇數及馬力數、發電機ノ種類、箇數及電氣馬力數、發電氣ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓及其配置法電氣二裝置スル電動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓及馬力數、電氣器具ノ裝置法、電氣方式、配電法、電氣鐵道方式(單線式電氣鐵道電氣鐵道ニ在リテハ軌條ノ接續法ヲモ)電氣線路ノ種類及構造法、保安裝置法ヲ明細ニ記入スベシ、前項第一號、第二號、第四號及第五號ヲ除ク外ハ設計圖面ノ添付ヲ要ス但シ停車場圖ハ縮尺一吋一釐トス●第九條 許可申請ノ際橋梁及

機關車ノ設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ橋梁ニ在テハ適宜縮尺ヲ以テ河川橫斷面圖ニ平水位及最高洪水位ヲ示シ且ツ橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入シタルモノ又機關車ニ在テハ縮尺一吋八釐ヲ以テ表ハセル略圖ニ豫メ確定シ得ヘキ寸法、重量等ヲ記載シタルモノヲ提出シ橋桁又ハ機關車製造者手前ニ詳細ナル設計ヲ定メ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ●第十條 工費豫算書ハ別記第三號樣式ニ依リ其總額及內譯各項毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ●第十一條 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調查ニハ鐵道敷設ヲ必要トスル地方ノ狀況及鐵道敷設ニ因リ從來ノ交通機關ニ比シ運輸出ニ於テ公衆ノ受クヘキ利益等ヲ詳細ニ記載シ別記第四號及第五號樣式ニヨリ旅客表及貨物表ヲ添附スヘシ●第十二條 運輸營業上ノ收支概算書ニハ收入支出ノ總額并ニ其內譯ヲ示シ且資本ニ關スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ、線路延長ノ場合ニ於テハ前項ノ外延長ノ爲メ線路全般ニ及ボスヘキ收入支出ノ概算ヲ記載スヘシ●第十三條 運輸營業上ノ收支概算ノ說明書ニハ旅客貨物交通ノ概況及重要ナル貨物ノ種類ヲ詳記シ別記第六號樣式ニヨリ每一哩ノ建設、貨物噸哩、旅客人哩、貨物收入、旅客收入、營業費及各項ノ合計并純益及其資本ニ對スル割合ヲ掲載シタル表ヲ添附スヘシ●第十四條 鐵道敷設ノ許可及假許可ニハ期限ヲ附シ、假許可ヲ附シタル期限內ニ本許可ノ申請ヲナサ、ルトキ又本許可ニ附シタル期限內ニ鐵道ノ敷設ヲ完了スルコト能ハサルトキハ其期限ノ延長ヲ申請スルコトヲ得、前項ノ申請ハ天災事變ノ止ミタル日ヨリ一月以内ニ之ヲナスコトヲ要ス、自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期限內ニ本許可ノ申請ヲナスコト能ハサルトキ若ハ鐵道ノ敷設ヲ完了シ能ハサルトキハ期限經過前ニ延期ヲ申請スヘシ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得、法令ノ制定ニ依リ工事ノ方法ニ變更ヲ來シタル爲メ期限ニ影響ヲ生スルトキハ臺灣總督府ノ更ニ許可ノ期限ヲ指定スルコトアルヘシ●第十五條 鐵道敷設ノ目的ヲ變更セントスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受ヘシ●第十六條 前條目的ノ變更ニシテ個人若ハ會社ノ專用ニ供スル鐵道ヲ一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニ變更セントスルトキハ其許可申請書ニハ第三條第二項第四號及第五號ノ書類ヲ添付シ若線路又ハ工事ノ方法等シキ變更ヲ來スヘキ場合ハ尙同項第一號乃至第三號ノ書類圖面ヲ添附スヘシ但シ其一部ノ變更ヲ來スニ止マルトキハ其部分ニ關スル書類圖面ヲ添付スルコトヲ得●第十七條 線路若シキ工事ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ鐵道部長ノ認可ヲ受ヘシ●第十八條 工事方法變更認可ノ申請書ニハ理由書、工事方法書、圖面并ニ新舊工費對照表ヲ添附スヘシ但シ停車場關

スル圖面ハ新舊設計ノ對照ヲ明示スルコトヲ要ス●第十九條 工事方法申左ノ變更ハ前條ノ規定ニ準シ書類圖面ヲ添付シ其都度鐵道部長ニ届出ヘシ一、踏切道、道路、河川附着工事ノ伸縮増減二、橋梁(溝橋ヲ含ム)隧道ノ伸縮増減三、停車場ニ於テ乘降場、常置信號機、跨線橋及地下道ノ増設并其他ノ建造物ノ増減及本線路ニ關係ナ有セサル側線ノ伸縮増減四、車輛ノ增加五、車輛ノ改造并車輛ノ用方ヲ變更スルモノハ認可ヲ受クヘシ●第二十條 左ノ各號ニ該當スルトキハ理由書、新舊對照圖并新舊工費對照表ヲ添付シ其都度鐵道部長ニ届出ヘシ一、線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ各五釐以内ニ在ルトキ二、曲線ノ半徑ヲ變更シテコレヲ長カラシムルトキ并之レヲ變更シテ既ニ許可セラレタル最急勾配ヨリ急ナラシメサルトキ、停車場內線路ノ勾配、河川、埤圳其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ナ有スル場合ニ於テハ前項ニ該當スト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス、前二項ノ外線路ノ變更ハ第一項ニ掲ケル書類圖面ヲ添付シ許可ヲ受ケヘシ、第二項中埤圳又ハ著名ノ建造物所在地ニ關係ナ有スル場合及前項線路ノ變更ノ場合ニ於テハ廳長ヲ經由スヘシ、停車場、聯絡所信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ變更シタルトキハ之ヲ鐵道部長ニ届出ヘシ●第二十一條 公共道路、橋梁、河川、埤圳、溝渠ニ關スル施設ハ所轄廳ノ認可ヲ受ヘシ●第二十二條 線路ノ道路ヲ橫斷スル箇所ニハ橋梁ヲ架設シ又ハ地下道若クハ踏切道ヲ設ケ其他危險防止ノ爲メ必要ナル箇所ニハ橋欄、門戶、堤塘溝渠ヲ設ケ又ハ番人ヲ配付スル等充分ノ設備ヲナスコトヲ要ス●第二十三條 假設工事ハ豫メ其使用期限ヲ定メ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ、認可申請書ニハ理由書、圖面、工事方法書及工費豫算書ヲ添付シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ差出ヘシ、工事方法中假設工事ノ變更ニシテ第十九條、第一號乃至第三號及第二十條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル場合ニ於テハ第十八條ニ掲ケル書類圖面等ヲ添付シ工費支出ノ途ヲ明示シ鐵道部長ニ届出ヘシ●第二十四條 左ノ假設工事ヲ施行スルトキハ理由書及圖面ヲ添付シ其ノ都度鐵道部長ニ届出ヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ届出スルノ外即日電信ヲ以テ報告スヘシ一、天災事變ニ際シ一時ノ用ニ供スル假設線路及假建造物二、停車場內ニ於テ側線其ノ他建造物ノ改築工事ヲ施スニ當リ設ケル假設線路及假建造物●第二十五條 第十八條乃至第

二十四條ノ圖面及工事方法書ニ付テハ第七條及第八條ヲ準用ス●第二十六條 許可  
并假許可失効ノ場合ニ於テハ一月以内ニ廳長ヲ經由シテ許可狀又ハ假許可狀ヲ返  
納スヘシ●第二十七條 當業者ハ許可受ケタルトキハ一月内ニ主任技術者ヲ選  
定シ技術ニ關スル事項ヲ擔當セシムヘシ、主任技術者ヲ置キタルトキハ一週内以內  
ニ其履歷書及技術修業ノ證明書ヲ添附シテ鐵道部長ニ届出ヘシ更任アリタルトキ亦  
同シ、鐵道部長ニ於テ主任技術者ヲ不適任ト認メタルトキハ其解任ヲ命スルコトヲ  
得●第二十八條 臺灣私設鐵道規則第五條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一、負債ヲ要スル事由及其金額二、元利償還ノ方法及期限三、利率四、擔保物件ノ  
種類但シ日録ノ添附ヲ要ス五、契約書案六、債權者ノ氏名住所七、既ニ設定シアル  
擔保物件ノ登記簿本●第二十九條 鐵道敷設ニ着手シタルトキハ一週内ニ鐵道部  
長ニ届出ヘシ●第三十條 工事施行中ハ三月毎ニ工程報告ヲ鐵道部長ニ差出スヘシ  
●第三十一條 工事竣工シタル時ハ成功圖面并諸表ヲ添附シ鐵道部長ニ届出ヘシ、  
前項ノ圖面及諸表ノ様式ハ鐵道部長之ヲ定ム●第三十二條 一般運送ノ用ニ供スル  
鐵道ニアリテハ運輸開始前列車發着時刻及度數并ニ運賃額ヲ定メ鐵道部長ノ許可ヲ  
受ヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ、前項ノ認可申請書ニハ運轉圖表及列車發着  
時刻表ヲ添附スヘシ、列車發着時刻表ニハ左ノ事項ヲ記載シ尙聯絡客車ノ等級及種  
類并他ノ鐵道ハ聯絡スヘキ接続時間ヲ附記スヘシ一、驛名二、各驛間ノ距離三、各驛  
累計距離四、列車ノ番號及種類五、發着時刻六、上下列車ノ區別●第三十三條 天  
災事變其他止ムテ得サル事由ニヨリ一時列車ノ發着時刻及度數ヲ變更シタルトキハ  
直ニ鐵道部長ニ届出ヘシ●第三十四條 列車發着時刻及度數變更ノ認可申請書及ビ  
届書ニハ理由ヲ添附スヘシ●第三十五條 鐵道部長ハ公益上必要ト認ムルトキハ運  
賃額ノ變更ヲ命スルコトヲ得●第三十六條 鐵道統計及其他ノ報告ハ鐵道部長ノ定  
ムル處ニヨリ之ヲ差出スヘシ●第三十七條 第十八條但書、第十九條一項第三號及  
第五號ハ簡人ノ專用ニ供スル鐵道ニハ之ヲ適用セス●附則本令ハ臺灣私設鐵道規則  
施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(別記略)

臺灣度量衡規則 明治廿九年四月廿一日 律令 第三號

●第一條 度量衡ノ基本ハ度量衡法第一條ニヨル●第二條 度量衡ノ原器ハ度量衡  
法第二條ニ定メタル原器ヲ以テ之ニ充ツ●第三條 度量衡ノ名稱名位ハ度量衡第三  
條ノ規定ニヨル●第四條 (メートル)法度量衡ハ度量衡法第五條ノ比較ニヨリ之ヲ

定ハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニヨル犯罪ニ之ヲ準用ス●第十八  
條 此規則ニ規定スル者ノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム●附則此ノ規則ハ明  
治三十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス、臺灣度量衡規則ハ之ヲ廢止ス、地積ノ名稱名位  
ハ當分ノ內臺灣地租規則第三條ノ規定ニヨルコトヲ得、臺灣度量衡條例ニヨリ臺灣  
總督ノ檢定ニ合格シタル度量衡器及全條例第八條第一項第一號ニヨル度量衡器ハ此  
規則ノ規定ニ從ヒ之ヲ販賣シ又ハ證明ノ用ニ供スル目的ヲ以テ所持スルコトヲ得、  
從來度量衡器ノ販賣又ハ修繕ノ特許ヲ得タルモノハ更ニ特許ヲ受ルコトヲ要ス此規  
則ノ規定ニ從ヒ特許期間內其營業ヲ繼續スルコトヲ得、臺灣總督ハ必要ト認ムルト  
キハ第三條ニヨリ清國又ハ英國式度量衡ノ比較ヲ定メ此規則ノ規定ヲ適用スルヲ得

甘蔗計量用衡量取締規則 明治四十二年十月十日 臺灣總督府令第七十一號

●第一條 一日三十英噸以上ノ壓搾能力ヲ有ス製糖業者ハ甘蔗計量用トシテ秤量千  
斤以上ノ臺秤並其試驗用分銅百斤以上ヲ設備スヘシ、廳長ニ於テ必要ト認ムルトキ  
ハ前項ノ量ノ種類、種數、種數又ハ其設備スヘキ位置ヲ指定シ又ハ使用上必要ナル  
制限ヲ附スルコトヲ得●第二條 前條ノ臺秤ハ每期其製糖開始前臺灣總督ノ檢定ヲ受  
メル者又ハ其修繕了シタル者ニ非サレバ之ヲ使用スルコトヲ得ス前項ノ檢定又ハ  
修繕了シタル臺秤ニハ左ノ例ニヨリ其臺印ヲ桿ノ末端ニ附ス四三檢(又ハ四三檢)  
地中ノ臺秤ニシテ臺板(グラツト)ヲオム(移動)シ又ハ臺板ト周圍ノ間隙ヲ生シ  
若クハ臺板上ノ軌線ト地面ノ軌線ト接觸ヲ生シタルトキ亦第一項ニ準ス●第三條  
第一條ノ臺秤ニシテ假リ蓋ヲ覆用シ又ハ之ニ代ルヘキ裝置ヲサントスル者ハ其  
構造、仕樣書、圖面及其風袋重量ヲ詳記シ臺灣總督ニ届出ヘシ●第四條 甘蔗  
ノ計量ニ關シ其積載車輛ノ各風袋重量ヲ控除スルニ定期間各車ノ重量又ハ各車ノ平  
均重量ニ依ラントスル者ハ左記事項ヲ詳記シ豫メ臺灣總督ニ届出ヘシ但シ牛車ニ在  
テハ二箇以上ノ平均重量ニ依ルコトヲ得ス(一)各車ノ平均風袋ヲ用フル場合イ、車  
輛ノ種類、物質、箇數、及其各車輛ノ重量(支柱ノ重量ヲ含ム)ロ、車輛ノ構造及仕  
樣書(二)各車別風袋ヲ用フル場合、車輛ニ附屬スル支柱ニシテ取離シ得ル者  
ハ其種類、物質、箇數、寸法及各箇ノ重量●第五條 假リ蓋及積載車輛ノ風袋重量ハ  
第六條規定ノ定差ノ五分ノ一ノ範圍ノモトニ限リ廳長之ヲ秤定ス、前項ノ秤定重量  
ハ廳長之ヲ各車輛ニ表記ス、表記ノ秤定重量ニ變化ヲ生シ又ハ其表記アル風袋ニ加  
工ヲシタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ其秤定申請スヘシ●第六條 假リ蓋又ハ

適法ノモノトシ此規則ノ規定ヲ適用ス●第五條 度量衡器ノ檢定ハ第二條ノ原器  
準據セル檢定原器ニヨリ之ヲ檢定ス●第六條 度量衡器ノ製作、修繕及賣下ノ政府  
ニ專屬ス但シ重量ノ一部修繕ニ限リ特許スルコトアルヘシ、政府又ハ政府ノ特許ヲ  
得タル者ニ非レバ度量衡器ヲ販賣シ又ハ輸入シ若ハ移入スルコトヲ得ス●第七條  
政府ヨリ賣下タル度量衡器ニ非レバ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルコト  
ヲ得ス●第八條 政府ヨリ賣下タル度量衡器又ハ特許ヲ得テ輸入シ若クハ移入シタ  
ル度量衡器ニシテ政府ノ檢定ニ合格シタルモノノ非レバ之ヲ證明ノ用ニ使シ又ハ證明ノ用  
府ニ於テ檢定ノ必要ナシト認メタルモノノ非レバ之ヲ證明ノ用ニ使シ又ハ證明ノ用  
ニ供スル目的ヲ以テ所持スルコトヲ得ス●第九條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ  
度量衡器ノ賣下代金ニ對シ擔保シテ指定ノ有價證券ヲ提供セシメ六ヶ月以内其代金  
ノ延納ヲ許可スル事ヲ得●第十條 當該官吏ハ度量衡器ノ使用者、販賣者、又ハ修  
繕者ニツキ臨檢シ取締上必要ノ處分ヲナス事ヲ得●第十一條 第六條ノ許可ヲ得  
ル者此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ臺灣總督ハ其特許ヲ  
取消シ又ハ營業ヲ停止ヲ命スルコトヲ得●第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ  
五百圓以下ノ罰金ニ處シ其犯罪ニカ、ル度量衡器ハ之ヲ沒收ス一、度量衡器ヲ偽造  
シ又ハ變造シタルモノ二、第六條第二項ニ違反シタルモノ●第十三條 左ノ各號ノ  
一ニ該當スルモノハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第二條第五號ノ場合ニ於テ刑法ニ  
正條アル者ハ刑法ニヨリ、特許ヲ得シテ度量衡器ヲ修繕シタルモノ二、第七  
條第八條ニ違反シタルモノ三、差狂アル度量衡器又ハ不合格ト認メラレタル度量衡  
器ナルコトヲ知リテ之ヲ販賣シ又ハ證明ノ用ニ供シ又ハ販賣者ハ證明ノ用ニ供スル  
目的ヲ以テ所持シタルモノ四、從來慣用ノ本島度量衡器ヲ製作シ販賣シ又ハ證明ノ  
用ニ供シ又ハ販賣者ハ證明ノ用ニ供スル目的ヲ以テ所持シタルモノ五、當該官吏ノ  
臨檢ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタルモノ●第十四條 此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命  
令ノ規定ニ違反シタルモノハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス●第  
十五條 業務上、度量衡ノ所持ヲ必要トスルモノ其代理人、戶主、家族、同居者、  
雇人其他ノ從事者ニシテ其業務ニ關シ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定  
ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサレバ之ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス●第  
十六條 未成年者又ハ共治產者カ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違  
反シタル時ハ其罰則ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其營業ニ關シ成年者ト全一ノ能力ヲ  
有スル未成年者ニ付テハ此限ニアルス●第十七條 明治廿三年法律第五十二號ノ規

積載車輛ノ重量ニシテ左ノ定差ヲ越セルモノハ之ヲ甘蔗計量ニ使用スルコトヲ得ス

種類	車輛又ハ假リ蓋ノ重量	定差
最大	二千斤以上	五十斤
大	二千斤未滿	三十斤
中	千斤未滿	二十斤
小	二百斤以上	十斤

●第七條 臺秤ノ使用者ハ第五條ノ秤定風袋重量ニ變化ヲ生シ又ハ其疑アル者ハ直  
ニ當該風袋ノ使用ヲ停止シ更ニ其秤定申請スヘシ●第八條 廳長ニ於テ必要アリ  
ト認ムルトキハ第三條及第四條ノ風袋ニ對シ臨時臨檢スルコトヲ得●第九條 廳長  
ニ於テ假リ蓋又ハ積載車輛ノ風袋ニ異狀ヲ生シ又ハ其重量ニ變化ヲ生シタル疑アリ  
ト認ムルトキハ直ニ其使用ヲ停止シ相當ノ處理ヲ命スルコトヲ得●第十條 臺秤ニ  
風袋縫ヲ用ヒテ當該風袋重量ヲ控除ノ用ニ供セント欲スル者ハ第五條秤定ノ第一條  
均風袋重量ヲ詳記シ所轄廳長ノ證明書ヲ添ヘ積産局長ニ其賣下申請スヘシ●第十  
第一條 第一項ニ該當スル製糖場ニ於テ計量ノ重量ニ相違ノ疑アルトキ又ハ計量方法  
不適當ナリト認ムルトキハ廳長ハ計量甘蔗ノ受授者ハ其計量ヲ停止シ相當ノ處理ヲ  
命スルコトヲ得●第十二條 第五條秤定ノ風袋ニシテ其使用ヲ廢止シタルトキハ其  
種類、箇數、物質及秤定重量ヲ詳記シ所轄廳長ニ届出ヘシ●第十三條 臺秤ノ使用  
者ハ當ニ其臺板上又ハ其周圍ノ間隙ニ堆積スル雜物ヲ清掃スヘシ●第十四條 第一  
條第一項又ハ第二項ノ指定ハ制限、第二條第一項第三項、第三條、第四條、第五條  
第三項、第六條、第七條、第十二條及第十三條ニ違反シ又ハ第八條、第九條及第十  
一條ニヨリ臨檢若ハ命令ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス●附則本令ハ發布ノ  
日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣銀行法

明治三十年四月一日、法律第三十八號、  
總理大臣、大臣訓令改正三十二年第一七號、  
三十二年第三四號、三十九年第三號

●第一條 臺灣銀行ハ株式會社トシ、臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設ケス●第二條 臺  
灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ニ「コレレ  
スポンデンス」ヲ締約スルコトヲ得、主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスル  
トキハ銀行ニ命シ之ヲ設置スルコトアルヘシ●第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置  
免許ノ日ヨリ滿二十年トシ但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルト  
キハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得●第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス

●第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ管ムモノトス第一、爲換手形其他商業手形ノ割引  
 第二、爲換及荷爲替第三、平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取扱第四、爲  
 實ナル擔保アル貸付第五、諸預リ金及當座貸越勘定第六、金銀貸買金屬及諸證券ノ  
 保護預リ第七、地金銀ノ買買第八、他銀行ノ業務代理、右ノ外營業ノ都合ニ由リ國  
 債證券、地方債券、勸業債券、農工債券又ハ興業債券ヲ買入ル、コトヲ得●第六條  
 臺灣銀行ハ此法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲナスコトヲ得ス●第七條 政府  
 ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲナサシムルコトアルヘシ●第八條 臺灣銀行ハ券  
 面金額一金以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得、前項ノ銀行券ハ臺灣銀行本店ニ於  
 テ營業時間中何時ニテモ金貨ト引換フルモノトス但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金  
 ノ到達スヘキ時間其引換ヲ延期スルコトヲ得●第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ  
 對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其支拂準備ニ充ツヘシ、前項準備ニ依レル外銀行  
 券ヲ發行セントスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券  
 又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得コノ場合ニ於テ  
 政府ノ定ムルトコロニ依リ一ヶ年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ  
 ●第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ納  
 收シ充ツルコトヲ得●第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲メ必要ナル物件ヲ買入レ又ハ  
 債務辨濟ノ爲メ引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス  
 ●第十二條 臺灣銀行ニ頭取副頭取各一人理事二人以上監査役三人以上ヲ置ク●第  
 十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主ヨリ政府ノ任命シ其任期ヲ五ヶ年  
 トス但其任期滿後再任ヲ命スルコトヲ得、理事ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ  
 株主發會ニ於テ二倍候補者ヲ選舉シ政府其中ヨリ之ヲ任命シ任期ヲ四ヶ年トス但其任  
 期滿限ノ後本條ノ手續ニヨリ再任ヲ命スルコトヲ得、監査役ハ卅株以上ヲ所有スル  
 株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其任期ヲ三ヶ年トス但シ其任期滿限ノ後再選  
 スルコトヲ得、理事及監査役ハ選舉ノ六ヶ月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有ス  
 ル者ニ限ル●第十四條 頭取、副取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又  
 ハ開業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニアラス●第  
 十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其事務ヲ總理ス、副頭取ハ頭取事故アルトキ其職  
 務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其職務ヲ行フ、副頭取理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業  
 務ヲ分掌ス監査役ハ臺灣ノ業務ヲ監査ス●第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種ト  
 ス、通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ頭取之ヲ召集ス、臨時株主

總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ召集スコトヲ得、監査役又ハ株  
 金ノ五分一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ヲ召集テ頭取ニ請求  
 スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ●第十七條 株主總  
 會ニ於テハ株主ハ決議權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但シ法律上ノ  
 代理人ハ此限リニアラス●第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理ヲ置キ臺灣銀行ノ業務  
 ナ監視セシム●第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ命庫、帳簿及諸  
 般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得、臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何  
 時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得、臺灣  
 銀行監理官ハ株主總會其他諸般ノ會議ニ出席シ意欲ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ  
 數ニ加ハルコトヲ得ス●第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備トシテ資本ノ決損ヲ陳フ爲メ  
 利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲メ利益ノ百分ノ二以  
 上ヲ積立ツヘシ●第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サルハ株主ニ  
 配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス●第二十二條 臺灣銀行ハ其定款ヲ變更セントスル  
 時ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ●第二十三條 主務大臣ハ必要ナルト認ムルトキハ  
 臺灣銀行ノ銀行券發行高、貸附金額及貸附方法ヲ制限スルコトヲ得●第二十四條 主  
 務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此法律又ハ定款シ背展シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト  
 認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ●第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其營業  
 ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ、臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及支拂  
 準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ●第二十六條 臺  
 灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ  
 百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副  
 頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ、一第六條ノ規定ニ反シ此法律ニ記載セサル業  
 務ヲ營ミタルトキニ、第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキニ、第二十條ノ  
 規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ、附則第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ  
 置キ其設立ノ免許ヲ與フルマテ其發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム●第二十八  
 條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス●第二十九條 創立  
 委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許  
 ナ申請スヘシ●第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其事務ヲ臺灣銀行  
 頭取ニ引渡スヘシ●第三十一條 設立初度ノ理事及監査役第十三條ニヨリ所有スヘ  
 キ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限リニアラス

●第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス第一、爲換手形其他商業手形ノ割引  
 第二、爲換及荷爲替第三、平常取引ノ諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取扱第四、爲  
 買ナル擔保アル貸付第五、諸預リ金及當座貸越勘定第六、金銀貸貸金屬及諸證券ノ  
 保護預リ第七、地金銀ノ賣買第八、他銀行ノ業務代理、右ノ外營業ノ都合ニ由リ國  
 債證券、地方債券、物業債券、農工商券又ハ興業債券ヲ買入ル、コトヲ得●第六條 政府  
 臺灣銀行ハ此法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲナスコトヲ得ス●第七條 政府  
 ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲナシムルコトアルヘシ●第八條 臺灣銀行ハ券  
 面金額一金以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得、前項ノ銀行券ハ臺灣銀行本支店ニ於  
 テ營業時間中何時ニテモ金貨ト引換フルモノトス但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金  
 ノ到達スヘキ時間其引換ヲ延期スルコトヲ得●第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ  
 對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其支拂準備ニ充ツヘシ、前項準備ニ依レル外銀行  
 券ヲ發行セントスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券  
 又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得コノ場合ニ於テ  
 政府ノ定ムルトコロニ依リ一ケ年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ  
 ●第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ納  
 收シ充ツルコトヲ得●第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲メ必要ナル物件ヲ買入レ又ハ  
 債務擔保ノ爲メ引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス  
 ●第十二條 臺灣銀行ニ頭取副頭取各一人理事二人以上監查役三人以上ヲ置ク●第  
 十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主ヨリ政府ノ任命シ其任期ヲ五ヶ年  
 トス但シ其任期滿限後再任ヲ命スルコトヲ得、理事ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ  
 株主發會ニ於テ二倍候補者ヲ選舉シ政府其中ヨリ之ヲ任命シ任期ヲ四ヶ年トス但其任  
 期滿限ノ後本條ノ手續ニヨリ再任ヲ命スルコトヲ得、監查役ハ廿株以上ヲ所有スル  
 株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其任期ヲ三ヶ年トス但シ其任期滿限ノ後再選  
 スルコトヲ得、理事及監查役ハ選舉ノ六ヶ月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有ス  
 ル者ニ限ル●第十四條 頭取、副取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又  
 ハ開業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニアラス●第  
 十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其事務ヲ總理ス、副頭取ハ頭取事故アルトキ其職  
 務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其職務ヲ行フ、副頭取理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業  
 務ヲ分掌ス監查役ハ臺灣ノ業務ヲ監查ス●第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種ト  
 ス、通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定ムタル時期ニ於テ頭取之ヲ招集ス、臨時株主

總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ招集スコトヲ得、監查役又ハ總株  
 金ノ五分一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ヲ招集シ頭取ニ請求  
 スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ●第十七條 株主總  
 會ニ於テハ株主ハ決議權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但シ法律上ノ  
 代理人ハ此限リニアラス●第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理ヲ置キ臺灣銀行ノ業務  
 ナ監視セシム●第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸  
 般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得、臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何  
 時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得、臺灣  
 銀行監理官ハ株主總會其他諸般ノ會議ニ出席シ意欲ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ  
 數ニ加ハルコトヲ得ス●第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備トシテ資本ノ決損ヲ陳フ爲メ  
 利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲メ利益ノ百分ノ二以  
 上ヲ積立ツヘシ●第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ株主ニ  
 配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス●第二十二條 臺灣銀行ハ其定款ヲ變更セントスル  
 時ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ●第二十三條 主務大臣ハ必要ナルト認ムルトキハ  
 臺灣銀行ノ銀行券發行高、貸附金額及貸附方法ヲ制限スルコトヲ得●第二十四條 主  
 務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此法律又ハ定款シ背反シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト  
 認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ●第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其營業  
 ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ提出スヘシ、臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及支拂  
 準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ●第二十六條 臺  
 灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ  
 百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副  
 頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ、一第六條ノ規定ニ反シ此法律ニ記載セサル業  
 務ヲ營ミタルトキニ、第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキニ、第二十條ノ  
 規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ、附則第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ  
 置キ其設立ノ免許ヲ與フルマテ其發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム●第二十八  
 條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス●第二十九條 創立  
 委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許  
 ナ申請スヘシ●第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其事務ヲ臺灣銀行  
 頭取ニ引渡スヘシ●第三十一條 設立初度ノ理事及監查役第十三條ニヨリ所有スヘ  
 キ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限リニアラス

## 第二章 臺灣各製糖會社及內地糖商人名錄



# 第一鹽水港製株式會社

(一手販賣) 鈴木商店 安部幸兵衛

本社臺灣嘉義廳下新營庄  
 取締役員 橋本貞夫  
 支配人(旗尾工場) 數田輝太郎  
 同(岸内庄工場) 電話 本局三三九五  
 取締役員 藤崎三郎助  
 主事 荒井一郎  
 會計 松屋德二郎

## 一、四十四年度決算

第五回(自明治四十三年七月)決算公告

貸借對照表

貸方(負債)	借方(資産)
株別定額積立金 7,500,000.00	未拂込株 4,000,000.00
法定積立金 1,000,000.00	土地 1,000,000.00
配當準備積立金 1,000,000.00	建物 1,000,000.00
職員工賃積立金 500,000.00	器具什 1,000,000.00
職員退職積立金 500,000.00	機械 1,000,000.00
積立引当金 500,000.00	農具 1,000,000.00
高砂貯蓄預金 1,000,000.00	受取手形 1,000,000.00
保入積立金 1,000,000.00	銀行預金 1,000,000.00
未納拂入金 1,000,000.00	債権 1,000,000.00
未受納金 1,000,000.00	現金 1,000,000.00
未拂込金 1,000,000.00	未払金 1,000,000.00
損前繰越金 1,000,000.00	未払金 1,000,000.00
合計 15,500,000.00	合計 15,500,000.00

### 三、役員

取締役員長 藤田四郎、専務 山本悌二郎、常務 武智直道、益田太郎、九田治太郎、圖師 民嘉、監査役 岡本貞然、村井吉兵衛、賀田金三郎、相談役 益田孝、ロバートウオルカアルウイン

### 四、重なる株主(壹千株以上)

内蔵頭吉田醇一、井上勝之助(東京)今村繁三(東京)井上武子(東京)井上千代子(東京)猪早鼎(東京)稻垣恒吉(京都)今井又治郎(東京)池田文藏(東京)ロベルト、ウオルカー、アルウイン(東京)原六郎(東京)林博太郎(東京)原富太郎(神奈川)新田忠純(東京)川原金三郎(東京)西脇彌三郎(新潟)細川護成(東京)高木兼寛(東京)陳中和(臺灣)太田清藏(東京)張文選(臺灣)大村徳敏(東京)大久保忠一(東京)岡本貞然(東京)渡邊富三郎(神奈川)渡邊享(東京)桂興一(東京)加藤正義(東京)賀田金三郎(東京)武智直道(東京)瀧澤吉三郎(東京)相馬順風(東京)岡田孝吉(東京)中島伊平(東京)村井吉兵衛(東京)村上大三郎(東京)村井耕次郎(東京)村井きし(東京)山口俊作(東京)山本悌二郎(東京)山本達雄(東京)鈴木徳五郎(山口)山本榮太郎(東京)益田太郎(東京)益田孝(東京)松田英三(長崎)古河虎之助(東京)藤田小太郎(東京)藤田四郎(東京)瀧崎桂輔(東京)藤田平太郎(大阪)古郷時待(神奈川)淺田吉太郎(東京)兒玉幾太郎(東京)原田二郎(大阪)小池國三(東京)福原有信(東京)安部幸兵衛(神奈川)菅田順三郎(大阪)青田綱三(東京)朝吹英二(東京)阿部泰藏(東京)佐伯岩藏(東京)齋藤捨藏(東京)佐藤潤泉(朝鮮)三枝代三郎(東京)三井物産會社(東京)三野村安太郎(東京)三島通真(東京)志賀直温(東京)重永道次(臺灣)毛利元昭(東京)毛利元秀(東京)毛利五郎(東京)鈴木藤三郎(東京)杉孫七郎(東京)細川護立(東京)

### 五、同上各工場製造元

第一工場は三十五年の創立當時の新式機械にして第二、後壁林、阿綴、車路境の各工場は米布最新式のものにて布哇アイオンウオークス會社の製造にかゝり當時同島第一の新式製造工場と稱する灣裡工場は獨國式、三嵌店、鳳山工場は英國式なり

## 四、重なる株主(一千株以上)

鈴木辨藏(横濱)伊藤義五郎(東京)村上先(東京)賀田金三郎(臺灣)濱口吉右衛門(東京)酒井静雄(東京)齋藤武彦(東京)藤崎英雄(東京)石田大吉(新潟)田中善助(横濱)伊藤恕一(東京)安部幸之助(横濱)川崎宗助(東京)川野田久太夫(三重)小菅劍之助(三重)勝榮三郎(東京)古郷時待(横濱)横野(臺灣)榎武(東京)賀京松太郎(臺灣)吳錦堂(兵庫)藤崎三郎助(東京)荒井泰治(臺灣)伊藤徳次郎(臺灣)安部幸兵衛(横濱)安藤達二(横濱)

## 五、以上各工場製造元

岸内庄第一工場は同社創立當時の新設にかゝる者、新營庄工場、旗尾工場、岸内庄第二工場は何れも英國ハービー會社の製造にて白糖装置の岸内第二工場は最新式と稱する能力五百五十噸にて岡田技師長設計の下に英國ハービー會社にて製造せられたるものなり、其構造はカーボネーション、サルフレーション、ローシユガー何れにも應用せらるべき新式のものにて目下一蘭人を招致し試験的に白糖製造中なり

△旗尾工場 英國ハービー式能力一千噸岡田技師長田中技師の設計にかゝり建物坪數千三百坪十二ローラ、クラゼウスキークラツシヤ、百二十キロ、同四十キロシーメンス式電氣二臺、パブコックウイルクソックスポイラ三個、デュイスタンク二千ギヤロンもの三個、ヒータア三個、濾過機八臺、エリミナタア四個、サブサイダア二十個、四重効用罐、二十五噸パン三個、分密機二十個、エーアポンプ一臺、コンデンサ三個、ケーンキヤリア長さ百二十呎、クリスタライザア十四個、最高建物の高さ七十五呎とす、同工場にて持記すべきはギアアの何れもマシンカットなる事にて他に其の比なしと云ふ

△自作農場 同工場には三千甲の自作園あり本期内一千甲を植

## 損益計算

一金五百七拾七萬八千八百八拾參圓六拾四錢六厘	總益金	7,500,000.00
一金四百貳拾壹萬壹千四百五拾參圓八拾七錢五厘	總損金	4,000,000.00
差引金百五拾五萬九千四百貳拾九圓七拾七錢壹厘	利益金	3,500,000.00
外金四拾五萬八千圓	元高砂引繼利益金	1,000,000.00
計金貳百零萬七千四百貳拾九圓七拾七錢壹厘	機械建物固定資本消却金	1,000,000.00
内金百萬圓	純益金	2,000,000.00
差引金百零萬七千四百貳拾九圓七拾七錢壹厘	前期純益金	1,000,000.00
配當計算	当期純益金	3,000,000.00
一金百零萬七千四百貳拾九圓七拾七錢壹厘	法定積立金	750,000.00
一金拾萬圓	職員工賃積立金	500,000.00
一金五萬圓	職員退職積立金	500,000.00
一金拾萬圓	積立引當金	500,000.00
一金參拾萬圓	高砂貯蓄預金	1,000,000.00
一金參拾萬圓	保入積立金	1,000,000.00
一金貳拾貳萬壹千五百九拾圓拾錢四厘	未納拂入金	1,000,000.00
同	未受納金	1,000,000.00
同	未拂込金	1,000,000.00
同	損前繰越金	1,000,000.00
同	合計	15,500,000.00

## 二、工場、能力、所在地

岸内庄第一工場 一、二〇〇 嘉義廳下岸内庄 技師長 岡田祐二  
 岸内庄第二工場 五五〇 同 上 同  
 新營庄工場 一、〇〇〇 嘉義廳下新營庄 工場長 山田權三郎  
 旗尾工場 一、二〇〇 阿綴廳下旗尾庄農場長 佐々木幹三郎  
 同 上 技師 松下三郎

## 三、役員

取締役員長 荒井泰治、常務 橫哲、同 藤崎三郎助、堀宗一、賀田金三郎、酒井静雄、安藤達二、監査役 安部幸兵衛、村上先、岩崎總十郎、劉神嶽



付く一甲平均收穫十二萬斤にて一千甲一億二千萬斤を得べく豫定にて、會社の設計によれば毎年二千甲を植付け一千甲を休閑なすと云ふ

△今期の製品豫定 自作地一千甲の外に小作地とを併せて同工場の豫定は製品十五萬俵なり  
 △來期の擴張 來期には五百五十噸の工場増設を爲すと云ふ  
 △農場と農具 同社全く大農組織にて十八馬力のステアームプラオにて耕作に従事す其功程一日四丁歩  
 △線路 九曲堂より同工場に至る線路は四十六哩五噸車三百六十六臺、十二噸八噸のロコ七臺を有す  
 △黄水牛 五百頭を使用するの計劃なり  
 △採取區域面 田園一萬一千二百八〇甲内、田三千九百五十六甲園五千三百九十六甲原野一千九百二十七甲尤も此内には三光公司分をも含有す

### 第三◆東洋製糖株式會社

(一手販賣大阪糖業會社其他)

本社臺灣嘉義廳下南靖庄  
 取締役 淺田 知定  
 主事 篠島 桂太郎  
 諏訪 駒雄  
 東京出張所京橋區日吉町十二番地 電話 新橋二七八六  
 取締役 青木 磐雄  
 遠藤 外與吉

### 三、役員及社員

取締役専務淺田知定、常務青木磐雄、岩崎定三郎、田川柳助、高津彼面、松方五郎、監査役園田實徳、木下新三郎、香野藏治、橋本善右衛門、海峯猪勇彦、渡邊甚吉

### 四、重ナル株主(一千株以上)

岩崎幸(東京)岩崎定三郎(大阪)岩崎利兵衛(大阪)イー、エツチ、ハンター(兵庫)  
 大西梅吉(大阪)小田桐藤吉(大阪)渡邊榮吉(岐阜)渡邊甚吉(岐阜)和田シヅ(大阪)  
 阪)賀田金三郎(東京)土橋平治(大阪)村上太三郎(東京)野村徳七(大阪)久保正吉(東京)松方五郎(東京)藤田繁之(大阪)高津彼面(大阪)淺田知定(臺灣)澤田米藏(東京)三輪滿次郎(東京)

### 五、同上工場製造元

第一、二工場とも英國グラスゴー市マリースワットソン會社の最新式と稱され製造開始以來毫も故障なく圓活に運轉さる

### 第四◆明治製糖株式會社

(一手販賣 増田 増藏)

本社臺灣嘉義廳下蘇莖  
 取締役 相馬 半治  
 主事 高木 鐵男  
 庶務課長 東條 榮二  
 會長 小川 鈞吉  
 主事 有島 健介  
 庶務 原澤 由太郎  
 會計 小平 濱二郎  
 東京出張所日本橋區北島町一 電話 全上 五九二八

### 一、四十四年度決算

第五期決算公告(自明治四十三年七月一日起至同四十四年六月三十日)

#### 貸借對照表

資産之部		負債之部	
拂込株	機械器具	銀行預金	送金
一、五〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	七、三〇〇,〇〇〇	七、三〇〇,〇〇〇
二、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇
三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇
四、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	一一,〇〇〇,〇〇〇	一一,〇〇〇,〇〇〇
六、〇〇〇,〇〇〇	六、〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇
七、〇〇〇,〇〇〇	七、〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇
八、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇
九、〇〇〇,〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇
一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇
一一,〇〇〇,〇〇〇	一一,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇
一二,〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇
一三,〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇
一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇
一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇
一六,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇
一七,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇	二三,〇〇〇,〇〇〇	二三,〇〇〇,〇〇〇
一八,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	二四,〇〇〇,〇〇〇
一九,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇
二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇
二一,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇
二二,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇
二三,〇〇〇,〇〇〇	二三,〇〇〇,〇〇〇	二九,〇〇〇,〇〇〇	二九,〇〇〇,〇〇〇
二四,〇〇〇,〇〇〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇
二五,〇〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇	三一,〇〇〇,〇〇〇	三一,〇〇〇,〇〇〇
二六,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇
二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇,〇〇〇
二八,〇〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇	三四,〇〇〇,〇〇〇	三四,〇〇〇,〇〇〇
二九,〇〇〇,〇〇〇	二九,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇
三一,〇〇〇,〇〇〇	三一,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇,〇〇〇
三二,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇
三三,〇〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇,〇〇〇	三九,〇〇〇,〇〇〇	三九,〇〇〇,〇〇〇
三四,〇〇〇,〇〇〇	三四,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇
三五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇
三六,〇〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇	四二,〇〇〇,〇〇〇	四二,〇〇〇,〇〇〇
三七,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇
三八,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇	四四,〇〇〇,〇〇〇	四四,〇〇〇,〇〇〇
三九,〇〇〇,〇〇〇	三九,〇〇〇,〇〇〇	四五,〇〇〇,〇〇〇	四五,〇〇〇,〇〇〇
四〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇	四六,〇〇〇,〇〇〇	四六,〇〇〇,〇〇〇
四一,〇〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇	四七,〇〇〇,〇〇〇	四七,〇〇〇,〇〇〇
四二,〇〇〇,〇〇〇	四二,〇〇〇,〇〇〇	四八,〇〇〇,〇〇〇	四八,〇〇〇,〇〇〇
四三,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇	四九,〇〇〇,〇〇〇	四九,〇〇〇,〇〇〇
四四,〇〇〇,〇〇〇	四四,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇

### 二、工場、能力、所在地

第一工場 一、〇〇〇 嘉義廳下南靖庄 工場長 村上 藤吉  
 技手 賴 澤 壽一  
 農場主任 永富 仙太郎  
 第二工場 七五〇 嘉義廳下烏樹林庄 工場長 佐藤 信壽  
 技師 馬屋 原 四郎

### 一、四十四年度決算

第五期(自明治四十三年七月一日起至同四十四年六月三十日)

#### 貸借對照表

資産目録		負債目録	
株主資本	準備金	借入金	未払金
一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	七、三〇〇,〇〇〇	七、三〇〇,〇〇〇
二、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇
三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇
四、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	一一,〇〇〇,〇〇〇	一一,〇〇〇,〇〇〇
六、〇〇〇,〇〇〇	六、〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇
七、〇〇〇,〇〇〇	七、〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇
八、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇
九、〇〇〇,〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇
一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇
一一,〇〇〇,〇〇〇	一一,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇
一二,〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇
一三,〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇
一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇
一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇
一六,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇
一七,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇	二三,〇〇〇,〇〇〇	二三,〇〇〇,〇〇〇
一八,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	二四,〇〇〇,〇〇〇
一九,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇
二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇
二一,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇
二二,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇
二三,〇〇〇,〇〇〇	二三,〇〇〇,〇〇〇	二九,〇〇〇,〇〇〇	二九,〇〇〇,〇〇〇
二四,〇〇〇,〇〇〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇
二五,〇〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇	三一,〇〇〇,〇〇〇	三一,〇〇〇,〇〇〇
二六,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇
二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇,〇〇〇
二八,〇〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇	三四,〇〇〇,〇〇〇	三四,〇〇〇,〇〇〇
二九,〇〇〇,〇〇〇	二九,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇
三一,〇〇〇,〇〇〇	三一,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇,〇〇〇
三二,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇
三三,〇〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇,〇〇〇	三九,〇〇〇,〇〇〇	三九,〇〇〇,〇〇〇
三四,〇〇〇,〇〇〇	三四,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇
三五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇
三六,〇〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇	四二,〇〇〇,〇〇〇	四二,〇〇〇,〇〇〇
三七,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇
三八,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇	四四,〇〇〇,〇〇〇	四四,〇〇〇,〇〇〇
三九,〇〇〇,〇〇〇	三九,〇〇〇,〇〇〇	四五,〇〇〇,〇〇〇	四五,〇〇〇,〇〇〇
四〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇	四六,〇〇〇,〇〇〇	四六,〇〇〇,〇〇〇
四一,〇〇〇,〇〇〇	四一,〇〇〇,〇〇〇	四七,〇〇〇,〇〇〇	四七,〇〇〇,〇〇〇
四二,〇〇〇,〇〇〇	四二,〇〇〇,〇〇〇	四八,〇〇〇,〇〇〇	四八,〇〇〇,〇〇〇
四三,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇	四九,〇〇〇,〇〇〇	四九,〇〇〇,〇〇〇
四四,〇〇〇,〇〇〇	四四,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇

### 二、工場、能力、所在地

第一工場 七五〇 嘉義廳下蕭壠 技師長 千葉 技師長  
 工場長 佐々木 貞吉  
 第二工場 一、〇〇〇 嘉義廳下蘇莖 工場長 安田 工場長  
 第三工場 一、〇〇〇 臺南廳下蘇頭庄 工場長 喜多村 貞吉  
 三、役員  
 取締役會長 小川 鈞吉、専務相馬 半治、淺田 正文、薄井 佳久、植村 澄三郎、監査役 山本 直良、武井 守正



同 同 鐵 鐵 同 同  
道 道 鐵 鐵 同 同  
掛 掛 掛 掛 同 同  
長 長 掛 掛 同 同

東京出張所麴町區内幸町一丁目一番地電話番三〇三六  
主任 牧山清砂  
會計 片山善之助

一、四十四年度決算

帝國製糖株式會社第壹期決算報告

貸借對照表(明治四十四年六月三十日現在)

負債之部	資本	5,000,000.00	貯蓄	5,000,000.00
員積立	8,000,000.00	銀行	3,333,333.33	未收
約受	3,333,333.33	未收	3,333,333.33	未收
支拂	1,666,666.67	未收	1,666,666.67	未收
當利	1,666,666.67	未收	1,666,666.67	未收
合計	10,000,000.00	未收	10,000,000.00	未收
土地建物	3,000,000.00	現貨	3,000,000.00	現貨
鐵道機械等建築費	3,000,000.00	貸付	3,000,000.00	貸付
未償還	3,000,000.00	未償還	3,000,000.00	未償還
合計	9,000,000.00	合計	9,000,000.00	合計
損益計算		利息	1,000,000.00	利息
收入之部		雜利	1,000,000.00	雜利
一金壹萬四千七百八拾六圓九拾四錢		營業	1,000,000.00	營業
一金參千四百七拾壹圓五拾壹錢五厘		費	1,000,000.00	費
合計	18,187,411.94	備	1,000,000.00	備
支出之部		却	1,000,000.00	却
一金七千參百拾四圓參錢五厘				
一金壹萬五百七拾五圓二拾二錢				
合計	12,816,948.77			
合計	5,370,463.17			

收支差引  
 一金參百四拾九圓二拾錢  
 利金金處分  
 一金參百四拾九圓二拾錢

一、工場、能力、所在地  
 第一工場 七五〇 臺灣臺中廳下臺中 技師長 鹽崎農學士  
 第二工場 三〇〇 同上

二、役員及社員  
 取締役社長 山下秀實、專務取締役 松岡富雄、常務取締役 松方正  
 熊、取締役 山口誠太郎、安部三男、安部幸之助、山中隣之助、  
 榎瀬軍之佐、林季商、監査役 松元泰正、高島義恭、田中善助、  
 林烈堂

四、重ナル株主(一千株以上)  
 安部幸兵衛(横濱) 平山正之(東京) 松本泰正(東京) 山口誠太郎(東京) 山下秀實  
 (東京) 松岡富雄(臺中) 安部三男(臺南) 林烈堂(臺中) 林季商(臺中) 安部幸之助  
 (横濱) 近藤嘉惠門(大阪) 松方正熊(東京) 高島義恭(東京) 山中隣之助(東京) 小鹽  
 元太郎(臺中) 榎山中三郎(東京) 古郷時待(横濱) 山田陽朝(東京) 近藤虎三郎(東  
 京) 藤田岩松(東京) 川上久義(東京) 守山又三(大阪) 榎瀬軍之佐(臺北) 田中善助  
 (横濱) 金子圭介(山口) 小島勇之助(東京) 三好徳三郎(臺北)

五、製造元及工場  
 同社工場は獨乙サンガアハウジン會社の製造にて林本源會社の  
 工場と姉妹工場たり能力七百五十噸其設計は黒板工學士堀農學  
 士の設計せし處にて總建物敷地千五百坪、鐵骨材料總重量六百  
 五十噸、屋上の最高は七十三呎、ボイラよりケーシングキャリヤー  
 の長さ三百二十呎、ボイラはバゾコックウイルコック式にてド  
 ーム四組此外補助釜二個あり、總熱面四千七百八十平方呎のも

の四個あり、ミル機はコーリス式にて、ミルは九ローラミル、  
 ロールの大きさは三四時倍七二時のもの九本、クラッシュヤーは二  
 八時倍七二時のロール二本にて鑄物は特に長所ありと云ふ、ロ  
 ールの重量千噸と稱す、其基礎工事には煉瓦二十三萬本を要し、  
 コンクリートの厚さ三呎、煙突の高さ地上より百六十三呎同會  
 社製にて是か基礎煉瓦三十四萬本を要し、コンクリートは五呎  
 にて、堪震煙突の構造なり、工場内には十五噸のクレーンを有  
 し、ダイナモ十二キロのもの二個何れもシーメンス式なり其電  
 力は電燈、クリスタライザ、キャリヤー、エレベーター等の補  
 助機に應用し、エンヂンはバアチカルコンパウンドローランド  
 式とす、サンドフィルタア五個、エアポンプはスライドバ  
 ルプ式、石灰乳タンク二個、エレベーター、ライムジュースタン  
 ク三個、沈澱タンク十個、シラップ沈澱タンク六個、デミング  
 式ヒーター三個、フィルタプレッス八臺、クオドループル効用  
 罐一個、コンデンサア高さ六四呎、エリミナタ二個、パン二十  
 五噸三個内コイル二個エクスプレッス一個、クリスタライザア  
 十個何れもオツプントツブクライ形、分密機十個何れもモラッ  
 セステストキャツプアランジメントにて、ステームも水も引得  
 る特長を有す、ドライア一個、池は六百ギャロンの水を容れへ  
 く石疊にして濾過装置なり其費用二萬圓内外を要したり、  
 △同新式工場と第二工場 第一工場たる同新式工場は昨年二  
 十二日より製造を開始し 第二工場は今月より赤糖を開始した

△本期原料と製品高 原料は豊富なるを以て豫定通り十萬俵以  
 上を製造すべしと云ふ

△専用鐵道 原料運搬の同鐵道は草湖線五哩六十鎖何厝線十六  
 哩十七鎖五十節、梯形レール五十哩を有す

△區域擴張 從來の原料採取區域の外に今回臺中廳下四堡十三  
 庄内田一千四百四十七甲畑三千五百十五甲計四千九百六十三甲  
 を擴張せり

△來年度植付 同社は採取區域内に官有地七百甲小作地三百甲  
 を有せしに今回林季商の田畑三百甲を譲受けたるより合計千三  
 百甲の自作地となりて何れも新植をなし他の七百甲は株出其他  
 一千甲の植付見込あるを以て全甘蔗面三千甲と註せらる

△製品マーク ダイアモンド内TSにして分密糖商標は  
 T S A、T S B、T S C等あり

第七 斗六製糖株式會社  
 (一手販賣)

本社臺灣嘉義廳斗六堡大崙庄四百二十七番地電話  
 取締役 松江春次  
 主事 江口音三  
 出張所東京市京橋區弓町四番地電話京橋一、二七九番  
 主任 益田 卓



四、重なる株主(二千株以上)

高島小金次(東京)高島直一郎(東京)大倉喜八郎(東京)門野重九郎(東京)香川敏三(東京)大倉喜七(東京)濱田澄子(東京)安部幸兵衛(横濱)安部幸之助(横濱)有馬彦吉(静岡)佐々松賢藏(東京)吳汝祥(東京)

五、工場製造元

彰化工場は英國グラスゴ市マリスワットソン會社の製造にて東洋第一二と同一式なり第一工場の大莆林工場は英國ハーベ―式を採用せり何れも新式と稱さる

第十一 北港製糖株式會社

(一手販賣鈴木商店)

本社嘉義廳下北港電話

取締役 宮尾 麟  
同技師長 辻 湊  
神戸出張所神戸市榮所三丁目電話  
取締役 日向利兵衛

一、四十四年度決算

第壹回決算

貸借照對表(明治四十四年六月卅日現在)

資本金	3,000,000	借入金	1,000,000
準備金	1,000,000	未払金	100,000
利益剰余金	1,000,000	未払利息	100,000
未償還債	1,000,000	未償還利息	100,000
未償還利息	100,000	未償還税金	100,000
未償還税金	100,000	未償還雑費	100,000
未償還雑費	100,000	未償還其他	100,000
未償還其他	100,000	未償還合計	1,000,000
未償還合計	1,000,000	未償還合計	1,000,000

二、工場、能力、所在地

第一工場 一、〇〇〇 嘉義廳大糖榔東頂堡北港街 技師長 辻 湊

月眉工場 四〇〇 臺中廳月眉庄 技師農場主任 橋本直也

庶務課長 加藤力之助  
原料主任 淺川高吉  
技師 森川 泰  
同 太田幾二郎

三、重なる役員

取締役社長小松楠彌、常務取締役宮尾麟、日向利兵衛、金子圭介、辻湊、後藤鐵二郎、監査役加藤尚志、中村啓次郎、佐々木紀綱

四、重なる株主(二千株以上)

増田斜(兵庫)岩本善助(大阪)松田茂太郎(兵庫)小松楠彌(兼備)有光竹之助(兵庫)傍土榮吉(兵庫)鈴木富五郎(兵庫)日野千代太郎(兵庫)

五、工場製造元及工場

神戸の鈴木一派を以て組織せる同社の北港新工場は辻湊氏の設計にかゝりミルは英國ゼーマクチール會社の製造にて他諸機械は獨乙ハレツシー會社の製造にかゝり、能力千噸建物敷地千二百坪内百呎倍三十一呎室二箇百三十呎倍五七呎室一箇、百十一呎倍六七呎室一箇、其他ラボレットリ、フィルタプレス室百五八呎倍二十呎、ミルハウス五九呎倍百二十六呎、シンシヨツブ百三十六呎倍三十一呎、ボイラアはパブコックウイルクソック

第十二 中央製糖株式會社

(一手販賣 増田 増藏)

本社南投廳南投堡南投街 常務取締役 近藤 武義

出張所東京市日本橋區蠣殻町一丁目三番地電話 浜花五四八

社長 關 清 英  
取締役 中村房次郎  
同 中園 慎 吾  
主事 朝 日 胤 一

一、四十四年度決算

中央製糖株式會社第壹期決算

貸借對照表(明治四十四年六月卅日現在)

資本金	5,000,000	借入金	1,000,000
準備金	1,000,000	未払金	100,000
利益剰余金	1,000,000	未払利息	100,000
未償還債	1,000,000	未償還利息	100,000
未償還利息	100,000	未償還税金	100,000
未償還税金	100,000	未償還雑費	100,000
未償還雑費	100,000	未償還其他	100,000
未償還其他	100,000	未償還合計	1,000,000
未償還合計	1,000,000	未償還合計	1,000,000

二、工場、能力、所在地

第二工場 七五〇 南投廳南投街 工場係長技師 磯 适 次 郎

式六個、壓搾機は十二ロールにしてロールは三四吋倍七八吋、クラベウスキークラツシャ―はロールの長さ二六吋倍七二吋、ギアはトツグル式にて英國マリスワットソン會社の製造にかゝり、烟突の長さ百八十五呎、十六噸のクレーンを有し、エ―アポンプ一個、石灰タンク四個、何れも二千ギャロンを容るべし、ヒーター三箇、フィルタプレス十箇、四重効用罐、クリスタライザア十三箇、分密機十三箇、ドライヤー二組バン二十五噸もの三箇、沈澱タンク十二箇、コンデンサア、等あり

▲原料採取區域と製造高 同會社は今期自作蔗園の開墾百甲來年度には千七百甲開墾の計劃なり、今期の植付、新植二千七百甲株出三百甲合計三千甲一甲平均四萬斤として一億二千萬斤月眉工場分七五〇甲一甲平均四萬斤として三千萬斤外に區域外より三千萬斤合計一億八千萬斤なれば十八萬俵内外を得べし

▲製品マーク 丸北印にして製品はH S A、H S B、H S C 等なり

▲月眉工場 臺中廳下後里庄の同工場は採取區域七千三百八十八甲にして大甲原野の沃土なる約三千甲を有す同工場は能力四百噸ロールは英國マリスワットソン會社の製造する所にして始業は二月よりの豫定なり

▲北港本線 鐵道は二七哩十五噸ロコ二臺五噸ロコ五臺、營業線は嘉義より北港本社まで十一哩にして一日八圓約一ヶ月三百圓内外の收入あり

- 製糖係長技師 寺田俊一
- 鐵道係長技師 藤井策郎
- 庶務係長 藤本大藏
- 庶務課 中神長文
- 秘書兼調度係長 藤井米八郎
- 會計係長 藤田三郎
- 會計部長 松本柳右衛門
- 原料係長 中根範一
- 農業係長 村木忠次

### 三、役員及社員

取締役社長關清英、常務取締役中村房治郎、近藤武義、取締役今井喜八、小曾根喜一郎、谷井千次郎、中園慎吾、牟田口元學、清浦啓吉、監査役伊藤市平、吉田幸作、梅浦精一、吳鸞旂、澁谷正吉、施學賢

### 四、重なる株主(二千株以上)

關經雄(東京)原富太郎(神奈川)高松杉二郎(佐賀)近藤武儀(臺灣)增田增藏(神奈川)關清英(東京)中村房次郎(神奈川)永野光(東京)吳鸞旂(臺灣)簡有義(臺灣)桑原伊十郎(廣島)細川護成(東京)古川源太郎(東京)朝田又七(神奈川)今井喜八(東京)花田元直(臺灣)西村明道(東京)李春生(臺灣)林獻堂(臺灣)林子瑾(臺灣)小曾根喜一郎(兵庫)小野光景(神奈川)簡茂林(臺灣)谷井千次郎(京都)山崎次郎(東京)松本柳右衛門(臺灣)增田與一(神奈川)增田源次郎(神奈川)華顯榮(臺灣)古賀三千人(臺灣)清浦敬吉(東京)準平麒(東京)澁谷正吉(東京)茂木そら(神奈川)茂木保平(神奈川)

### 五、工場製造元及工場

同社の工場は英國マリーヌワットソン會社の製造にかゝり能力七百五十噸谷井技師長の設計にかゝり建物敷地千八一坪ケーン

主事 成富小十  
取締役 高橋虎太  
主任 澤野荒太郎

### 一、四十四年度決算

貸借對照表(明治四十四年六月三十日現在)

資本	3,000,000.00	未拂込資本	2,300,000.00
社員身元保証積立金	500,000.00	什器及器具	3,750.00
仕拂手形	3,000,000.00	預金	40,000.00
假受金	5,120.00	興業費未決算	8,500.00
損益勘定(常期利益金)	3,329.99	甘蔗耕作資金前貸	3,329.99
合計	3,329,999.99	銀行預金	4,923,330.00
		現金	1,492,369.99
		合計	3,329,999.99

財産目録、貸借對照表資産ノ部ト同一ニ付之ヲ省略ス  
損益計算(自明治四十三年八月廿五日  
至明治四十四年六月三十日)

一金壹萬九千參百拾貳圓五拾七錢	總收入	2,300,000.00
一金壹萬九千百拾圓五拾八錢壹厘	總支出	2,300,000.00
差引	總利益	3,329.99
金貳百貳拾壹圓九拾八錢九厘	常期利益	3,329.99
利益金處分	後期繰越	0.00
一金貳百貳拾壹圓九拾八錢九厘	總利益	3,329.99

### 二、工場、能力、所在地

第一工場 五〇〇噸臺北廳大加 堡下塚庄  
技師長 勝又 獎  
農場主任 小幡勇吉

### 三、役員及社員

取締役社長木下新三郎、專務取締役村松一造、取締役松方五郎、取締役高橋光威、同高橋虎太、同澁谷嘉助、同梅原龜吉、監査

キャリヤの長さ百四十呎、パブコックスウイルコックス式ボイラア四個内ドーム八個あり、熱面各四千六百八十平方呎、ロール七二吋倍三四吋にして九ロール式、クラベウススキークラツヤ一を供ふ、烟突の高さ百六十呎、十五噸のクレインあり、ミルエンデンはコーリス式にて、エアポンプ、石灰乳タンク、何れも其設備に従ひ。沈澱タンク十個、ヒータア三個、濾過機六個、四重効用罐、コンデンサ、クリスタライザア十二個、三個のパン、分密機十個、ドライヤー一個にて英國同會社の製造として臺灣に於ける最新のものと稱さる

△會社鐵道本線 二八水驛より同本社までの營業線十二哩餘にして昨年十二月開業當時に一日五圓乃至八圓の收入ありたり、△植付面積と製造高 今期植付は千六百二十五甲にして平均一甲六萬斤の收穫豫定にて九千七百五十萬斤の豫定なり尤も區域外よりの收穫豫定もあれば十萬俵以上は製造するならんと云ふ△來年期の植付と小作權 同社の田園面積は最近の調査に田一千六百八十六甲園六千〇二三甲合計七千七百九甲なるが今回同社は田の植付甘蔗の方面に優れるを實驗したるにより更に同地の地主と交渉をなし千甲の小作權を得たる由なれば來期の收穫は豫想外ならん

### 第十三 臺北製糖株式會社

(一手販賣 湯淺商店)

本社臺灣臺北廳大加蚋堡下塚庄  
社長 木下新三郎  
取締役 村松一造

役、山中隣之助、吉村鐵之助、林熊徵、石原雄熊

### 四、重ナル株主

澁谷嘉助(東京)島津忠清(東京)成富小十(臺灣)久保正吉(東京)木下新三郎(臺灣)林熊徵(臺灣)吉村鐵之助(東京)高橋虎太(東京)村上太三郎(東京)梅原龜七(大阪)内田直三(東京)山中隣之助(東京)松方五郎(東京)松方正熊(東京)柴田辰次郎(大阪)

### 五、製造元及工場

同工場は米國グイヤー會社の製造にかゝり敷地十五甲步建物敷地五百坪屋上最高七十呎白糖裝置もありて能力五百噸、九ローラア、コーリスエンデン式、木製ケーンキヤリア、ホイラア四個、總熱面一萬三千立方呎、亞硫酸裝置にして五百ギヤロンのタンク四個、ヒータア、サブサイダー、エリミメタア、フィタルタアプレッス、皆罐、パン、第二亞硫酸裝置あり

△蔗園レール 十哩  
△植付甲數 千二百甲にして一甲平均六萬斤の收穫ありと云ふ

△今期製品高 七萬二千俵の豫定なり

### 第十四 埔里社製糖株式會社

本社臺灣南投廳埔里社 常務 藤澤 靜象  
東京出張所京橋區南鍋町二丁目五番地電話新橋 二二六八  
常務 小塚 貞義

### 役員

社長桂二郎、常務藤澤靜象、同小塚貞義、取締役岩崎武一郎、同三宅國太郎、同有山寅穂、同後宮信太郎、同松浦孝次郎、監査役羅金水、同藤田論一、同木村泰治

重ナル株主（一千株以上）

藤澤静泉、後宮信太郎、松浦孝二郎、羅金水、林盛壽、桂二郎、藤田謙一、小塚貞義、益田英作、山本桑太郎、林烈野、林祖壽、川澄惠之

第十五沖繩製糖株式會社

（二手販賣 安部商店）

本社沖繩縣中頭郡小谷村

出張所大阪府南區末吉橋通壹丁目電話南六三二番

常務 香野一太郎  
同 矢野慶太郎

一、四十四年度決算

第一回決算報告（明治四十四年七月三十一日現在）

貸借対照表 (Balance Sheet) table with columns for assets (株、支、未、當、臨、合) and liabilities (貸、方、債、部). Includes values for 1911 and 1912.

二、工場製造元及能力

第一噸吧時工場は能力三百噸英國フエチャイ會社の製造にして新式の分密糖機械なり、第二噸重溪工場は百二十噸の赤糖工場なり

三、資本金

資本金六十萬圓にして五十圓一萬二千株なり現時の拂込三十二萬圓なり

四、社員

技師長 大和哲三  
主事 伊藤主事  
庶務課長 陳仰樞

第十七南日本製糖株式會社

本社 臺灣新竹廳下新竹  
出張所 東京市日本橋區南橫町二番地、電話特八二三、京橋八二三

一、役員

取締役社長竹内綱、常務増田次郎、同秋山一裕、取締役秋山善一、前川太兵衛、山本久顯、澁谷正吉、監査役大川平三郎、岡崎久次郎、白石元治郎、村松甚藏、伊藤政重

一、資本金

一金五百萬圓也

二、工場、所在地、能力

中頭郡小谷村 五〇〇

三、役員及社員

取締役社長安部幸之助、常務取締役香野一太郎、同矢野慶太郎、取締役横井藤四郎、同西尾小五郎、監査役香野藏治、伊藤常次郎、蓬來林太郎

四、重ナル株主（一千株以上）

安部幸之助（横濱）横井元一（兵庫）香野藏雄（大阪）香野一（大阪）奈良原繁（東京）矢野慶太郎（大阪）香野一太郎（大阪）横井藤四郎（兵庫）香野藏治（大阪）

五、同工場製造元及工場

同工場は能力四百噸にして位置は沖繩縣中頭郡にあり本年の製出豫想高は分密一萬八十噸、黒糖五千丁を得る豫定なり、同社は内地に於る唯一の分密糖工場なり

第十六永興製糖株式會社

（二手販賣 安部商店）

本社所在地 臺灣臺南廳下噸吧啤  
事務所 臺南市 電話 三一六

一、役員

取締役會長陳鴻鳴同常務蘇有志同江曉青同林子科同吳純仁同張作人監査役顏振聲鳳江以忠同棚瀬

臺灣に於る糖商

Table listing sugar merchants in Taiwan with columns for location (臺南廳下), name, address, and phone number.

### 臺灣糖業聯合會規約

臺灣糖業聯合會と稱す、聯合會本部を東京市内設置す、臺灣に於て分蜜糖製造場を有する會社又は個人を以て組織す、會社共同の利益を保護増進し斯業の進歩發達を計るを以て目的とす、會員は信認金として壓搾能力千噸に付參千圓宛を聯合會に供託し以て聯合會の決議を尊重するの保證たらしむ、本會一切の會務は協議會の決議に依り會長之を執行す、聯合會は協議會を開

き聯合會員は各自協議員を選定して聯合會議に臨席せしむ協議員は會社にありては其代表者又は主なる使用人より又個人にありては本人出席せざる場合には使用人より各三名以内の協議員を選出す、會長壹名會計監督一名主事一名事務若干名を置く、副會長は當分之を置かず、會長は協議會の議長となり外部に對し本會員全部を代表す、入會の申込は協議會に於て無記名投票に依り會員議決權三分二以上の同意を以て之を決す、

## 臺灣製糖場現勢表

工場名	資本	金	拂込	高	能	力	株式相場(一月)	昨年製糖高
臺灣製糖株式會社	二五、五〇〇、〇〇〇	一六、五〇〇、〇〇〇			米	五、六五〇	五十圓券八一、十二圓半券二七、	一一一、一〇〇、〇〇〇
第一工場(橋仔頭)					英	一、九八〇		
第二工場(橋仔頭)					英	三、四五〇	(廿五圓)六〇、	五六、〇九九、六〇〇
第三工場(後壁林)					英	五〇〇		
第四工場(緜阿)					英	三〇〇		
灣裡工場					英	五〇〇		九、二八二、七〇〇
車路墘工場					英	三〇〇		
三炭店工場					英	三、四五〇	(廿五圓)六〇、	五六、〇九九、六〇〇
鳳山工場					英	三、四五〇	(廿五圓)六〇、	五六、〇九九、六〇〇
新興製糖株式會社	六〇〇、〇〇〇				英	五〇〇		
永興製糖株式會社	六〇〇、〇〇〇				英	三〇〇		
鹽水港製糖株式會社	七、五〇〇、〇〇〇				英	三、四五〇	(廿五圓)六〇、	五六、〇九九、六〇〇
第一工場(岸內庄)					英	三、四五〇	(廿五圓)六〇、	五六、〇九九、六〇〇
第二工場(新管庄)					英	三、四五〇	(廿五圓)六〇、	五六、〇九九、六〇〇

第三工場(岸內庄)	旗尾工場	明治製糖株式會社	第一工場(蕭壠)	第二工場(蒜頭)	第三工場(蒜荳)	北港製糖株式會社	北港工場(北港)	月眉工場(後里庄)	東洋製糖株式會社	第一工場(南靖庄)	第二工場(烏樹林庄)	斗六製糖株式會社	大日本製糖臺場工場	第一工場(五間厝)	第二工場(五間厝)	埔里社製糖株式會社	中央製糖株式會社	新高製糖株式會社	第一工場(大莆林)	第二工場(同上)	彰化工場(彰化)	帝國製糖株式會社	第一工場(臺中)	第二工場(臺中)	
一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
米	米	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英
七四、二〇〇	七四、二〇〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、七五〇	一、七五〇	一、七五〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
三七、七八九、七〇〇	三七、七八九、七〇〇	(二十圓)二六、二〇〇	(二十圓)二六、二〇〇	(二十圓)二六、二〇〇	(二十圓)二六、二〇〇	(二十五圓)三一、五〇〇	(二十五圓)三一、五〇〇	(二十五圓)三一、五〇〇	(三十五圓)六一、八〇〇	(三十五圓)六一、八〇〇	(三十五圓)六一、八〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇	(二十圓)四七、二〇〇





阿	內	狗	吳	平	野	東	臺
阿	內	狗	吳	平	野	東	臺
阿	內	狗	吳	平	野	東	臺
阿	內	狗	吳	平	野	東	臺
阿	內	狗	吳	平	野	東	臺

一噸千五百十二斤、能力八掛、歩留八歩五厘、作業日數百二十日

糖商人名錄

- 東京市芝區二葉町
- 東京市芝區櫻田本郷町
- 東京市日本橋區通り四丁目
- 東京市日本橋區龜島町一丁目
- 東京市日本橋區北島町一丁目
- 東京市日本橋區小網町三丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區小網町二丁目
- 東京市日本橋區伊勢町

- △ 後藤長兵衛
- △ 松本喜三郎
- △ 殿木市太郎
- △ 小林彌兵衛
- △ 增田屋合名會社
- △ 伊藤常次郎
- △ 安部幸兵衛出張店
- △ 鈴木東京出張所
- △ 高津次盛
- △ 増田増藏支店
- △ 湯淺東京支店
- △ 山村商店
- △ 保井萬次郎
- △ 堤德藏
- △ 芳保井萬次郎

- 東京市日本橋區伊勢町
- 東京市神田區鍛冶町
- 東京市神田區豐島町
- 東京市日本橋區伊勢町
- 東京市日本橋區本材木町
- 東京市日本橋區本材木町二丁目
- 東京市日本橋區松代町一丁目
- 東京市日本橋區本町三丁目
- 東京市京橋區銀座三丁目
- 東京市日本橋區駿河町
- 東京市日本橋區西川岸
- 東京市日本橋區佐内町八
- 東京市四谷區麴町一三ノ八
- 東京市京橋區越前堀一ノ一〇
- 東京市神田區小川町一六
- 東京市神田區西小川町二ノ一
- 東京市神田區和泉町一
- 東京市京橋區弓町五

- △ 關根萬次郎
- △ 光岡兵藏
- △ 鈴木音松
- △ 九三貿易商會
- △ 北垣内勝太郎
- △ 和田木勘七
- △ 岡常吉
- △ 大倉組米糖部
- △ 三井物産砂糖部
- △ 田村商會支店
- △ 鈴木利平
- △ 岩井半次郎
- △ 岩田長作
- △ 稻垣傳次郎
- △ 稻垣常吉
- △ 林紋藏
- △ 橋本角次郎

一、二三、七九〇  
七四〇、二七四  
四九三、五一六  
四九三、五一六  
四九三、五一六  
四九三、五一六

- 東京市麴町區麴町三ノ三
- 東京市赤坂區新町三ノ一四
- 東京市日本橋區箱崎町一ノ一
- 東京市日本橋區箱崎町一ノ一
- 東京市千住中組五九
- 東京市神田區一橋通一六
- 東京市日本橋區通一ノ一三
- 東京市四谷區傳馬町二ノ一四
- 東京市麻布區六本木町四七
- 東京市日本橋區本材木町一ノ八
- 東京市芝區本芝二ノ五
- 東京市淺草區駒形町二二
- 東京市京橋區南傳馬町一ノ三
- 東京市芝區源助町一五
- 東京市牛込區神樂町二ノ六
- 東京市淺草區北清島町七
- 東京市淺草區茶屋町二
- 東京市日本橋區南茅場町六〇
- 東京市日本橋區大傳馬町一三
- 東京市麻布區谷町二九
- 東京市日本橋區小網町二ノ二
- 東京市麻布區飯倉四丁目
- 東京市芝區三田二ノ一
- 東京市芝區三田一ノ一

- 長谷川金藏
- 豐島幸太郎
- 富田幾
- 沼上房吉
- 折原周藏
- 大坪善右衛門
- 田柳助
- 加藤留三郎
- 川村太兵衛
- 鈴木龜吉
- 矢角二郎
- 田延二郎
- 田崎七郎左衛門
- 矢幡七右衛門
- 高橋藤兵衛
- 高橋常吉
- 武川萬吉
- 副田晁輔
- 中村宙藏
- 中村市之助
- 中川若英
- 全村甚藏出張所
- 字津木辰五郎
- 字津木島吉

- 東京市京橋區南八丁堀二ノ五
- 東京市日本橋區蠣殼町二ノ七
- 東京市本郷區湯島六ノ二一
- 東京市赤坂區青山北町五ノ一八
- 東京市日本橋區室町一ノ三
- 東京市芝區西應寺町一五
- 東京市京橋區八丁堀仲町二九
- 東京市日本橋區元大阪町一〇
- 東京市本郷區三ノ一二
- 東京市芝區櫻田本郷町二二
- 東京市芝區神明町一一
- 東京市京橋區松屋町二ノ七
- 東京市芝區芝口一ノ五
- 東京市日本橋區蠣殼町一ノ四
- 東京市淺草區馬道三ノ一四
- 東京市芝區琴平町三
- 東京市深川區東森下町三
- 東京市牛込區通寺町五九
- 東京市本郷區本郷五丁目六番地
- 東京市京橋區南八丁堀一ノ一四
- 東京市深川區東森下町一六
- 東京市淺草區元鳥越町三五
- 東京市本所區橫網町二ノ六七
- 東京市芝區兼房町二一
- 東京市日本橋區堀留町二ノ一六

- △ 上原卯之吉
- △ 上原源次郎
- △ 桑原謙三
- △ 八木重吉
- △ 山脇治助
- △ 山崎源七
- △ 山城多平
- △ 眞山新作
- △ 町野金次郎
- △ 三木忠右衛門
- △ 松永福松
- △ 杉村定吉
- △ 竹内増次郎
- △ 松本半治郎
- △ 田村盛吉
- △ 森藤盛七
- △ 藤崎角次
- △ 古澤豐次郎
- △ 小西助松
- △ 大河逸太郎
- △ 後藤伊三郎
- △ 鈴井源吉

東京市京橋區稻葉町一六  
 東京市麴町五ノ六  
 東京市日本橋區南茅場町五三  
 東京市本郷區森川町三九  
 東京市本郷區西片町一八  
 東京市神田區今川小路一ノ一  
 東京市神田區三崎町二ノ一  
 東京市神田區松枝町一〇  
 東京市京橋區竹川町二  
 東京市神田區花田町六  
 東京市麴町區飯田町二ノ三八  
 東京市小石川區關口水道町四六  
 東京市下谷區阪本町四ノ二一  
 橫濱市南仲通り三丁目  
 橫濱市本町通  
 橫濱市元町  
 橫濱市山下町英一番  
 橫濱市住吉町  
 橫濱市花咲町  
 橫濱市吉田町  
 橫濱市吉末町  
 橫濱市長者町  
 橫濱市山下町五一  
 橫濱市太田町三ノ四一  
 橫濱市綠町一ノ一

① 藍 金 七 横濱市青木町二二〇  
 ② 渥美 文 次 郎 横濱市内田町八ノ三八  
 ③ 新井 春 吉 横濱市深間町七四八  
 ④ 鈴木 喜 太郎 横濱市青木町三  
 ⑤ 佐藤 安 兵衛 横濱市境町二ノ三六  
 ⑥ 十川 祚 胤 横濱市高島町五ノ一一  
 ⑦ 澤田 三 吉 横濱市山下町七五  
 ⑧ 酒井 榮 吉 横濱市山下町一九〇  
 ⑨ 關戸 多 三 郎 神戸市榮町  
 ⑩ 竹井 歡 吉 神戸市榮町  
 ⑪ 鹽澤 千 代 吉 神戸市海岸通四丁目三七  
 ⑫ 島津 一 良 代 神戸市多聞通五丁目一一  
 ⑬ 鈴木 秀 造 神戸市三川口町三丁目三二  
 ⑭ 安部 幸 兵衛 本店 神戸市小野柄通二丁目九九  
 ⑮ 増田 増 藏 本店 神戸市元町六丁目二五〇  
 ⑯ 田邊 幸 七 神戸市下山手通二丁目一七  
 ⑰ 杉山 謙 造 神戸市戸場町四三  
 ⑱ 小林 彌 三 郎 神戸市海岸通四丁目三三  
 ⑲ 吉川 辨 次 郎 神戸市南逆瀬川町一丁目四三  
 ⑳ 安藤 信 太郎 神戸市榮町  
 ㉑ エンタースワイルド 神戸市元町二二九  
 ㉒ 吉田 喜 郎 神戸市小野柄通五丁目二七  
 ㉓ 分 渡 邊 郡 藏 神戸市海岸通一丁目八八  
 ㉔ 分 渡 邊 郡 藏 神戸市榮町二丁目四八  
 ㉕ 分 渡 邊 郡 藏 神戸市榮町二丁目四五

① 加藤 八 郎 右衛門  
 ② 川口 末 藏  
 ③ 吉田 平 七  
 ④ 高木 儀 兵衛  
 ⑤ 山田 勘 七  
 ⑥ 小宮 善 三  
 ⑦ 山田 勘 七  
 ⑧ 湯淺 竹 之 助  
 ⑨ 鈴木 合 名 會 社  
 ⑩ 今川 平 兵衛  
 ⑪ 奧村 芳 助  
 ⑫ 勘角 長 吉  
 ⑬ 吉山 長 三 郎  
 ⑭ 田宮 卯 一  
 ⑮ 高石 種 治  
 ⑯ 高井 石 松  
 ⑰ 武田 由 助  
 ⑱ 中澤 德 藏  
 ⑲ 福和 裕  
 ⑳ 梅田 房 太 郎  
 ㉑ 前田 吉 之 助  
 ㉒ 張 秋 (清國人)  
 ㉓ 紀 木 峻 (清國人)  
 ㉔ 周 安 邦 (清國人)

神戸市  
 神戸市三ノ宮一丁目二九四  
 大阪市南區末吉橋通  
 大阪市南區安堂寺橋通  
 大阪市東區北久寶寺町  
 大阪市東區淡路町一ノ四六  
 大阪市西區北堀江町六ノ六〇  
 大阪市西區四貫島二九三  
 大阪市西區西道頓堀五ノ三四  
 大阪市西區新南三ノ九  
 大阪市南區心濟橋一ノ一七九  
 大阪市西區靱南一ノ九地ノ七  
 大阪市西區北堀江六ノ九九  
 大阪市南區末吉橋二ノ二九  
 大阪市南區鹽町一ノ二九

田村 商 會 大阪市南區末吉橋三ノ八三  
 下田 太 三 郎 大阪市西區立賣堀南五ノ五五  
 安部 幸 兵衛 支店 大阪市西區京町堀上五ノ六九  
 増田 増 藏 支店 大阪市東區唐物二ノ五七  
 高津 久 右衛門 大阪市西區南堀江上四ノ一七  
 伊藤 茂 七 大阪市南區西新瓦屋一〇二  
 石田 庄 七 大阪市西區北堀江町六ノ一〇一  
 大阪糖業株式會社 大阪市南區安堂寺橋二ノ一二二  
 前田 嘉 助 大阪市南區順慶町二ノ一三〇  
 湯淺 竹 之 助 支店 大阪市北區天神橋三ノ三一  
 島崎 商 店 大阪市西區北堀江下四ノ一五六  
 藤田 助 七 大阪市西區立賣堀南六ノ一五  
 水谷 茂 之 助 大阪市西區西道頓堀五ノ六一  
 得能 寅 藏 大阪市南區末吉橋一ノ一地  
 伊東 定 吉 大阪市東區唐物町二ノ五三  
 伊藤 音 吉 大阪市南區順慶町二ノ一二七  
 飯田 才 藏 大阪市南區南堀江町三ノ四八  
 波名城 政 助 大阪市西區南堀江町三ノ四八  
 八田 理 助 大阪市東區南久寶寺一ノ二二地  
 榑本 仁 兵衛 大阪市南區順慶町四ノ一二  
 濱本 勝 之 助 大阪市南區難波新地一番八地  
 橋本 源 吉 大阪市東區瓦町二ノ六三地  
 西川 伊 太郎 大阪市東區南久寶寺町二ノ一六  
 西村 伊 兵衛 大阪市北區天神橋二ノ一二一  
 西村 國 松

土井 庄 兵衛  
 中島 德 次 郎  
 尾崎 清 七  
 大橋 秀 一 郎  
 大西 富 三 郎  
 大西 菊 次  
 大塚 孝 太 郎  
 大野 原 竹 松  
 太田 庄 次 郎  
 扇屋 福 田 商 店  
 岡本 奈 良 吉  
 和田 佐 太 郎  
 梶田 繼 次 郎  
 河本 米 次 郎  
 鍵本 孝 三 郎  
 鍵本 善 次 郎  
 米村 金 助  
 田中 彌 太 郎  
 今村 仙 次 郎  
 谷口 武 太 郎  
 橋嘉 藏  
 高橋 嘉 藏  
 竹田 勘 兵衛  
 坪井 善 兵衛

大阪市北區西現田六二七〇三地  
大阪市南區安堂寺橋二ノ三八地  
大阪市南區鰻谷西ノ六六  
大阪市北區會根崎新地一ノ二〇五  
大阪市南區日本橋一ノ二二三  
大阪市南區末吉橋二ノ七  
大阪市南區鹽町一ノ二八地  
大阪市北區中島五ノ三地  
大阪市南區末吉橋二ノ一八  
大阪市西區西道頓堀五ノ一七  
大阪市南區鹽町一ノ三〇地  
大阪市阿波座中一ノ七三  
大阪市東區備後町一ノ二二地  
大阪市南區安堂寺橋二ノ一一四  
大阪市北區天神橋一ノ二六  
大阪市南區二ツ井戸一六  
大阪市西區江戶堀北二ノ九地ノ一五  
大阪市西區南堀江町四ノ三一  
大阪市西區阿波堀四ノ八三  
大阪市東區南本町二ノ一二  
大阪市東區上難波北一〇九  
大阪市北區老松町一ノ五八  
大阪市北區老松町一ノ五八  
大阪市東區北久太郎町一ノ四一四地  
大阪市末吉橋二ノ四〇

榎木 松枝  
關本 豐次郎  
根來 與助  
中谷 金三郎  
中村 直七  
村瀬 傳兵衛  
柳本 源七  
山本 嘉兵衛  
安井 重治郎  
松野 清次郎  
松本 重次郎  
正岡 ウラ  
同井 市兵衛  
増井 市兵衛  
増田 種七  
藤谷 常七  
福井 清七  
福岡 増次郎  
小西 藤南  
小本 繁太郎  
小寺 大吉  
香野 一太郎  
香野 九太郎  
香野 三太郎  
高津 宇三郎

大阪市南區二ツ井戸一五五  
大阪市南區難波櫻川三ノ一三六一地  
大阪市西區北堀江下六ノ七九  
大阪市西區南堀江上五ノ二地  
大阪市西區本田二ノ五六地  
大阪市東區博勢町一ノ三六  
大阪市南區鹽町一ノ二四地  
大阪市北區安治川  
大阪市南區末吉橋二ノ二二地  
大阪市西區南堀江町三ノ一一一  
大阪市北區北野東之一八八六  
大阪市南區鹽町二ノ八〇  
大阪市南區瓦屋町三番八三地  
大阪市西區土佐堀一ノ二五  
大阪市南區安堂寺橋二ノ九地  
大阪府堺甲斐町東一丁目二  
大阪府住吉住吉驛前東ノ辻北角岸和田  
京都市二條川端東入六三  
京都市三條大橋東入三五  
京都市下立亮干本東入三  
京都市堀川下立賣南入七  
京都市松原高倉西入一四  
京都市姉小路柳馬場東入六  
京都市四條小橋西入四八  
京都市三條寺町東入二二

高津 久本店  
帝國氷糖合資會社  
安部 平七  
阿彌 藤之進  
佐伯 吉松  
佐藤 德良  
堺 忠七  
笹山 作兵衛  
北村 清助  
北村 萬七  
宮野 榮次郎  
宮城 茂兵衛  
平内 松太郎  
本道 留藏  
鈴木 留藏  
金田 伊兵衛  
河口 愛一郎  
井上 新兵衛  
林 猶次郎  
原田 芳章  
金谷 勝三郎  
山本 忠三郎  
谷口 嘉吉  
王水 新太郎  
辻川 喜作

四二

京都市松原西洞院西入二五  
京都市寺町夷川北入一四  
京都市河原町三條南入一四  
京都市新島九二條北八八  
京都市島九三條南入二六  
京都市西堀川下長者町南入三  
京都市寺町五條北入三三  
京都市七條大宮東入六  
京都市三條猪熊西入二六  
京都市四條富小路東入二一  
京都市五條橋東二丁目四  
京都市府新舞鶴三條初瀬北九八一  
京都市府伏見深草村字稻荷中ノ一八  
京都市府伏見町字堀ノ上一〇  
京都市府舞鶴町字平野屋  
京都市府福和山町字東長二四  
京都市府福和山町字菱屋六六  
京都市府龜岡町余部  
京都市府龜岡町安町  
京都市府龜岡町紺屋町  
京都市府園部町寶町九四  
京都市府園部町上本町二二  
京都市府園部町本町五四  
京都市府宮津町住吉六八  
京都市府同町魚屋町九八八

永井 富次郎  
野村 源助  
野村 治助  
野村 源助  
野澤 治右衛門  
熊谷 得之助  
久保 田儀助  
久保 源之助  
山名 音次郎  
寺島 幸助  
平野 久右衛門  
西村 和市  
高田 由松  
上田 龜太郎  
大石 増藏  
鹽見 庄兵衛  
池尻 直次  
中井 丑太郎  
奧田 増四郎  
齊藤 善兵衛  
山名 清吉  
大槻 平次  
佐井 孝三郎  
小倉 安治  
谷口 新七

京都市府宮津町白柏九〇  
京都市府峰山町室  
京都市府峰山御袴一七  
京都市府今町吳服一八  
京都市府口大野村  
京都府八幡町魚屋町中  
名古屋市西區上園町  
名古屋市西區木挽町  
名古屋市西區茶屋町  
名古屋市西區下園町  
名古屋市西區下園町  
名古屋市小島町  
名古屋市西區大船町  
名古屋市西區大船町  
名古屋市西區名道町  
名古屋市西區和泉町六  
名古屋市中區橋町一七七八  
名古屋市東區相生町一七八  
名古屋市東區宮町四丁目一四  
名古屋市西區鹽町四丁目六  
名古屋市東區研屋町一丁目一  
名古屋市東區宮町一八  
名古屋市西區本町一〇〇  
名古屋市上園町一四一  
名古屋市中區新柳町五丁目一三七

上山 宇七  
宮田 伊七  
島崎 清三郎  
關口 龜七  
伊東 定吉  
尾野 田合名會社  
西脇 吉右衛門  
西崎 合名會社  
井筒 商會  
神谷 宗八  
水野 丈右衛門  
安部 幸兵衛出張店  
増田 屋合名會社  
鈴木 商店出張店  
安井 善太郎  
伊藤 小七  
伊藤 庄兵衛  
石田 鎮  
長谷川 與三兵衛  
長谷川 與兵衛  
同 人  
長谷川 とも  
坂房 次郎  
道家 清一  
川出 光治郎

四三

名古屋市西區木挽町一〇  
 名古屋市東區赤塚町一丁目一一五  
 名古屋市西區傳馬町一丁目甲一〇三  
 名古屋市西區傳馬町四三  
 名古屋市南區熱田神戶町四八  
 名古屋市東區坂上町三四  
 名古屋市西區長者町一丁目九  
 名古屋市中區古渡町三七  
 名古屋市西區上園町一六七  
 名古屋市東區鍋屋町七八  
 名古屋市中區東橋町一七五  
 名古屋市東區赤塚町一一六  
 名古屋市西區傳馬町九九  
 名古屋市西區大船町三丁目四四  
 名古屋市東區吳服町三六  
 名古屋市東區針尾町九四  
 愛知縣西枇杷島町大字下小川井甲二一六  
 愛知縣半田町九六六  
 愛知縣龜崎町一七  
 愛知縣龜崎町七一  
 愛知縣津島町八九三  
 愛知縣西尾町看町一二  
 愛知縣刈谷町二四五  
 愛知縣新川町三五  
 愛知縣竹々鼻町三七六

高木熊次郎  
 棚橋新藏  
 中山庄次郎  
 野崎惣兵衛  
 山田甚三郎  
 小寺治兵衛  
 加藤平兵衛  
 青井榮吉  
 青井欽吉  
 木下金兵衛  
 櫻井藤助  
 三谷岩藏  
 水野野保  
 水野安兵衛  
 水野英之助  
 森五三郎  
 橫井彦八  
 鈴木兵衛  
 長谷川為治郎  
 萩原半之助  
 服部岩吉  
 谷部熊次郎  
 加藤新右衛門  
 片山梅太郎  
 五島才吉  
 愛知縣北方町四三九  
 愛知縣松坂町大字日野町一二四  
 愛知縣一宮中町  
 愛知縣一宮下馬町  
 尾州半田町  
 三州豐橋市魚町  
 三州豐橋市荊谷  
 三州豐橋市上傳馬町  
 三州豐橋市曲尺手四一  
 豐橋市魚町一〇〇  
 豐橋市魚町二二  
 豐橋市上傳馬乙一二五  
 岡崎市廣幡町大字能見六  
 岡崎市岡崎村大字柱七  
 岡崎市矢作町大字矢作四五  
 岡崎市岡崎町大字六地藏二  
 岡崎市連尺町八四  
 岡崎市能見町七  
 岡崎市橫町三九  
 岡崎市六地藏一  
 新瀉市上大川前通  
 新瀉市本町通  
 新瀉市本町通  
 新瀉市上大川前通十番町一九一三  
 新瀉縣高田兩替町三〇

林民造  
 弓矢茂三郎  
 小川喜代藏  
 柴田兼治郎  
 鈴木市之助  
 田中田新  
 太田平右衛門  
 福谷藤七  
 白井佐吉  
 鳥井新三郎  
 瀧崎安之助  
 稻谷藤七  
 小林善太郎  
 太田平右衛門  
 小林濱五郎  
 岡田種三郎  
 小田林寅造  
 佐野德太郎  
 宮脇繁三郎  
 藤田喜太郎  
 九橋藤太郎  
 高橋藤太郎  
 五十嵐忠次郎  
 大井健治郎  
 齋藤繁藏

新瀉縣見附本町五三  
 新瀉縣柏崎大洲村大久保四七四  
 新瀉縣直江津新町七三九  
 新瀉縣新町二七八ノ一  
 新瀉縣直江津河端町  
 新瀉縣三條門前町二  
 新瀉縣二ノ町二五五  
 新瀉縣字上町一八五  
 新瀉縣字上町一九三  
 新潟縣一ノ木戸九  
 長岡市表二ノ町  
 長野市後町通  
 長野市西門町  
 長野市表權堂町  
 長野市東町一一二  
 長野市大門町四八  
 長野市東町八  
 長野縣屋代町  
 長野縣稻荷山  
 長野縣稻荷山町  
 長野縣小諸町  
 長野縣小諸町  
 長野縣上諏訪町  
 長野縣上諏訪町  
 長野縣赤穂町

山崎廣藏  
 中野熊治郎  
 金谷平吉  
 宮崎紋治郎  
 土肥久作  
 本間權八  
 外山得四郎  
 清水喜一郎  
 高橋健治郎  
 高橋勇造  
 神山敬太郎  
 岩崎國松  
 村田屋常右衛門  
 宮澤久吉  
 湯田彌兵衛  
 小林仁輔  
 增田儀三郎  
 若林桓太郎  
 若林桓太郎  
 港屋次郎兵衛  
 高村字一郎  
 小宮山權兵衛  
 小原重右衛門  
 上原甲子次郎  
 飯田權七  
 春日喜一  
 長野縣岡谷町  
 長野縣上田海野町四九一  
 長野縣上諏訪町  
 長野縣上田紺屋町一八六八  
 長野縣上田松尾町七〇五  
 長野縣上田原町七二七  
 長野縣上田下房山三ノ六六二  
 長野縣上田原町七〇五  
 長野縣上諏訪桑原町九二三  
 長野縣上諏訪泉町三二七  
 長野縣上諏訪角留町四一五一ノ一  
 長野縣岩村田字中宿町一〇九  
 長野縣岡谷平野村新屋敷六五三  
 甲府市柳町  
 甲府市柳町  
 甲府市泉町  
 甲府市泉町  
 甲府市綠町  
 甲府市綠町  
 甲府市御澤町  
 甲府市御澤町  
 武州熊谷町  
 武州熊谷町  
 武州深谷町  
 武州深谷町  
 武州八王子寺町七  
 武州八王子寺町七  
 武州八王子橫山町五〇  
 武州八王子橫山町五〇  
 武州八王子八日町八二

林歌治  
 伴得次郎  
 林歌次支店  
 林掛源七  
 林掛健太郎  
 合名會社小林商店  
 小笠原孟治  
 柳澤敬助  
 飯田權七  
 岩瀨源吉  
 藤秀宗治郎  
 河松金五郎  
 上原甲子次郎  
 村松甚藏  
 野尻竹次郎  
 山口治郎兵衛  
 鈴木產七  
 雨宮英一郎  
 加藤彌太郎  
 坂田廣三郎  
 日向松五郎  
 安部彦平  
 加藤常三郎  
 松村利兵衛  
 岸兵衛

埼玉縣川越町川越三五七  
高崎市本町  
高崎市田町  
高崎市連雀町六六  
高崎市田町八四  
前橋市堅町五八  
前橋市堅町三〇  
前橋市堅町四二  
前橋市桑町  
前橋市曲輪町  
上州伊勢崎町  
宇都宮市上河原町五〇  
宇都宮市上河原町三五  
宇都宮市大町二七  
宇都宮市本郷町二四  
宇都宮市大工町二五  
宇都宮市大工町一五  
宇都宮市日野町  
宇都宮市大工町  
宇都宮市大工町  
栃木縣日光字御幸五八八  
栃木縣足利三五  
栃木縣片柳字湊町一八八  
群馬縣伊勢崎南町九九二  
群馬縣本町二丁目六一九

伊藤長三郎  
小林彌七  
新井勘治  
小杉橋彦次郎  
佐々木金三郎  
八木原勝太郎  
小島半造  
近藤半造  
藤岡與兵衛  
桑原壽平  
橋本新平  
大森勝之助  
辻由兵衛  
村山元三郎  
保田忠吉  
阪本利平  
矢野藤吉  
上野文吉  
鈴木繁三郎  
相馬繁三郎  
大木沼峰八郎  
小井沼熊吉  
岡田清平  
若村源左工門  
茨城縣土浦町四一一  
茨城縣石岡町六二二  
茨城縣下館町  
茨城縣下館町  
茨城縣結城町  
野州朽木町  
野州佐野町  
野州足利町  
群馬縣桐生新町四丁目八一  
群馬縣桐生新町四丁目三五九  
群馬縣本町一丁目六〇二

新井欽太郎  
田沼米藏  
藤村峰次郎  
長谷川高藏  
遠藤熊吉  
伊藤芳次郎  
田島榮吉  
谷島捨吉  
吉田元次郎  
野村太助  
花塚仁兵衛  
大川健介  
山崎岩治郎  
海田市兵衛  
高松四郎兵衛  
松田福太郎  
武藤久兵衛  
黒須小右工門  
増田繁藏  
三村平助  
赤萩藤太郎  
塙藤榮治郎  
遠藤榮治郎  
立原俊之助  
二川宗兵衛

松本市本町  
松本市本町  
松本市伊勢町  
松本市安原  
松本市中町  
松本市六九町  
松本市本町  
松本市新橋  
千葉縣千葉郡生實濱野  
千葉縣成田  
千葉縣一ノ宮町三〇九一  
千葉縣一ノ宮町二九二四  
千葉縣八日市場本町二、九〇六  
千葉縣木更津柳町八八  
磐城白河町  
磐城中村町  
磐城中村町  
磐城原町  
磐城小高町  
岩代須賀川町  
岩代須賀川町  
岩磐白石町  
岩磐白石町  
陸前石ノ巻

山岸長三郎  
竹内國次郎  
鈴木孫一郎  
堀内元一郎  
中村屋龜三郎  
丸山源六  
寺村徳兵衛  
小原市十  
飯豐幸十郎  
長谷川松兵衛  
齋藤重次郎  
齋藤勝次郎  
山下嘉兵衛  
野尻竹次郎  
大槻久之助  
志賀辰次郎  
中村商店  
松永七之助  
岡田喜八  
根本文助  
眞船岩五郎  
鈴木富太郎  
山田文五郎  
石津屋寅吉  
泉和泉金右衛門  
陸前石ノ巻  
陸前石ノ巻  
陸前石ノ巻  
陸前鹽釜  
仙臺市河原町  
仙臺市本鍛冶町  
仙臺市元寺小路  
仙臺市大町  
仙臺市二日町  
仙臺市名掛町  
仙臺市北鍛冶町  
仙臺市國分町一二  
仙臺市新河原町七  
仙臺市名掛町八四  
仙臺市田町一一九  
仙臺市大町五丁目二〇六  
若松市博勞町九六  
若松市桂林寺町四五  
若松市材木町  
福島縣郡山町本町五七  
福島縣郡山町大町八八  
福島縣平區四丁目二四  
福島縣平町三丁目二五  
福島縣新川町一七

鈴木吉兵衛  
堀河治郎兵衛  
梅祐作  
遊佐壽助  
西村金六  
矢内安兵衛  
小林直藏  
菊地嘉兵衛  
安藤新之助  
八嶽仲助  
佐賀伊右衛門  
鎌田復三  
武者庄之助  
庄司久吉  
庄司慶藏  
島貫建藏  
篠木新三郎  
大庭せつ  
渡部清治  
山下安吉  
橋本敬助  
渡邊綾之助  
阿部唯次郎  
大津賀善吉  
吉田定太郎

福島縣二本松字本町一ノ一八  
 福島縣須賀川字西四丁目一  
 福島縣須賀川西五丁目八  
 福島縣川俣字中町四三  
 福島縣喜多方上町四、六〇五  
 福島市仲町  
 福島市本町  
 福島縣桑折町  
 福島市柳町  
 福島市仲町  
 若松市七日町  
 若松市大町  
 若松市大町  
 岩代郡山町  
 岩代郡山町  
 岩代郡山町  
 盛岡市本町  
 盛岡市穀町  
 盛岡市穀町  
 盛岡市肴町  
 陸中一ノ關  
 陸中花巻  
 青森市米町  
 青森市大町  
 弘前市和徳町

重富常作 弘前市松森町  
 鏡沼新兵衛 秋田市茶町  
 根元源七 秋田市肴町  
 渡邊嘉兵衛 羽後土崎  
 五十嵐太右衛門 羽後土崎  
 山口吉助 山形市旅籠町  
 大沼平兵衛支店 山形市旅籠町  
 大沼平兵衛 山形市旅籠町  
 長澤末吉 山形市七日町  
 折橋照造 山形市十日町五一五  
 相田虎三郎 山形市十日町五一五  
 白岩徳三郎 山形縣鶴岡七日町通甲六二  
 岸兄弟商會 山形縣下着町通  
 高田熊吉 山形縣新庄十日町萬場町一〇六ノ一  
 根本祐太郎 山形縣金江一、〇三〇  
 佐藤傳吉 山形縣上ノ山町十日町九〇一  
 岡田鶴松 山形縣天童町甲一四五  
 岡田源太郎 米澤市免許町  
 岡田喜助 米澤市銅谷町  
 岡田金太郎 米澤市割出町  
 藤原勇五郎 函館末廣町  
 宮田支店 函館末廣町  
 宮田支店 函館西濱町  
 中村與助 函館地蔵町  
 佐々木彦太郎 函館西濱町  
 千葉金作 函館西濱町

對島忠次  
 三浦千代助  
 三浦傳六  
 加賀屋孫兵衛  
 小林榮太郎  
 西谷重次郎  
 中村喜兵衛  
 中村利兵衛  
 中村善次郎  
 笹原清吉  
 笹原清吉  
 五十嵐兵太郎  
 九共商會  
 後藤安太郎  
 船山吉三郎  
 和田清左工門  
 鈴木益五郎  
 鈴木好五郎  
 渡邊源太郎  
 目貫禮三  
 伊藤藤太郎  
 久保支店

函館末廣町  
 函館  
 小樽港堺町  
 小樽港堺町  
 相州藤澤町  
 相州藤澤町  
 相州平塚町  
 相州平塚町  
 相州小田原新玉町  
 相州小田原新玉町  
 相州小田原新玉町  
 横須賀市逸見町五四四  
 横須賀市元町二九  
 神奈川縣戶塚町矢部七七  
 神奈川縣浦賀町新町四一  
 神奈川縣三島町五四五  
 神奈川縣入江町新富二七九  
 神奈川縣清水町上二丁目三〇三  
 神奈川縣藤枝本字長樂寺町一七九  
 神奈川縣青島村前島字芝田五六ノ一一  
 神奈川縣掛川町一二九  
 伊豆三島町  
 駿州御殿場  
 駿州沼津町  
 駿州沼津町  
 駿州沼津町

小島商店  
 三忠支店  
 石田幸八  
 廣海支店  
 雨宮與左工門  
 石垣本店  
 山口平太郎  
 後藤眞吉  
 江島商店  
 深井峰次郎  
 松本作五郎  
 太田久兵衛  
 宮井啓治郎  
 小川豊三  
 非柳八百吉  
 志田市太郎  
 小澤定次郎  
 石橋元次郎  
 杉山銃三郎  
 河合權三郎  
 室伏徳兵衛  
 橋本九市  
 土井由平  
 木村道太郎  
 石原商店  
 駿州沼津町  
 駿州吉原  
 駿州江尻入江町  
 駿州燒津  
 静岡市馬場町  
 静岡市上魚町  
 静岡市鑄物師町二三  
 静岡市鑄物師町一〇  
 静岡市傳馬町九六  
 静岡縣沼津本町三三三  
 静岡縣沼津本町二四〇  
 静岡縣袋井高尾二、一七〇  
 静岡縣金谷本町  
 遠州相良  
 遠州見附  
 濱松市旅籠町  
 濱松市  
 兵庫縣龍野町五五  
 兵庫縣龍野町七一〇  
 兵庫縣飾磨須賀町一八六  
 兵庫縣洲本外通町二〇五  
 兵庫縣外通町乙一八一  
 兵庫縣三田町一九七  
 兵庫縣篠山立町一五一

岡田喜平  
 矢部庄七  
 川島耕造  
 野村清左工門  
 八木多左工門  
 鈴木榮吉  
 川口萬吉  
 長谷川文吉  
 長谷川金八  
 望月伊三郎  
 勝地近太郎  
 味岡與一  
 豐田嘉七  
 村松作一郎  
 八木市藏  
 宮城仁平  
 杉浦定太郎  
 渡邊兼次郎  
 龍野砂糖合名會社  
 長現砂糖合名會社  
 前田利助  
 太田文太郎  
 米田文平  
 内田吉之助  
 篠山砂糖合資會社

兵庫縣篠山立町五〇  
姫路市龍野町六丁目二  
姫路市米田町一八  
姫路市俵町三七  
姫路市橋之町七  
姫路市福中村六  
長崎市本五島町二三  
長崎市西濱町四二ノ三  
長崎市東濱町三八  
岐阜市笹土居町三〇  
岐阜縣大垣西船町八三  
津市上濱町二〇八  
三重縣四日市堅町八  
三重縣四日市濱田二六三  
三重縣山田會根町八三  
三重縣山田河崎町一八九  
三重縣山田河崎町二七  
三重縣山田一志久保町  
三重縣桑名本町八二  
滋賀縣彦根町大字川原七二  
滋賀縣大津市柳町一五  
滋賀縣大津市松本町二八七  
滋賀縣大津市橋本町五

木村莊兵衛  
永尾木三郎  
黒田佐市  
山野熊次郎  
八尾利商店  
三ツ星商會  
脇山啓次郎  
山口茂一郎  
宮田萬藏  
淺井善三郎  
名倉卯三郎  
上田重助  
伊藤太七  
佐伯又太郎  
山路伊三郎  
田口程吉  
中村彦八  
榎木三右衛門  
佐野豹八郎  
伊藤嘉平  
水谷留吉  
竹村伊平  
大石岩次郎  
酒部唯四郎  
北川喜藏

滋賀縣大津市丸屋町五四  
滋賀縣大津市弓徳町三四  
福井縣敦賀町浪花三七  
福井縣敦賀町末廣一一  
金澤市木新保五番町一五  
金澤市下近江町一二  
金澤市青草町一八  
金澤市笠市町五四  
金澤市安江町三六、二、三七ノ二、合併  
金澤市觀音町一丁目四七  
金澤市片町一九ノ二  
岡山縣西大寺町本町一、二、二〇  
岡山縣倉敷町土手町一、二、六八  
岡山縣倉敷町阿知町四六五  
岡山縣笠岡町二、九〇一  
岡山縣笠岡町二、八五九  
岡山縣玉島町西新井五九四  
岡山市兵團一〇  
岡山市野田尾町二六七  
岡山市天瀬細堀一二  
岡山市片瀬町三五  
岡山市山崎町七  
岡山市橋本町四八  
岡山市久山町二四  
岡山市上石井一一

北田藤助  
水谷政次郎  
中村七左衛門  
中村喜三郎  
植田忠平  
宇野藤作  
松岡喜六  
示野太兵衛  
島林源三  
下村三郎  
關喜一郎  
岡本健太郎  
河原宇吉  
則武源吉  
田中傳吉  
平井佐平  
赤澤仙治郎  
堀崎安治郎  
小野源八  
小野德十郎  
阿田定吉  
安井龍助  
前川小次郎  
藤原元太郎  
佐藤元三

岡山市紙屋町八三  
廣島縣福山字府中町二二  
廣島縣福山字神島町中町三七四  
廣島縣福山字東町六九一  
尾ノ道市十四日町六三一  
尾ノ道市十四日町五九五  
吳市明神町一四四  
廣島市西引御堂町二八  
廣島市京橋町三九  
廣島市堺町一丁目二三ノ一  
廣島市塚本町五  
山口縣岩岡魚町  
山口縣柳井町大字柳井澤  
山口縣柳井町大字柳井澤  
山口縣佐渡町  
山口縣山口町大字西門前二七  
山口縣山口町大字荒高三四  
山口縣下ノ關東西南部町一〇四  
山口縣西南部町一八  
山口縣西南部町一五  
山口縣東南部町一八四  
山口縣西南部町五九  
山口縣岬ノ町七九  
門司市櫻町一丁目一六八六  
門司市港町貳丁目

白神善次郎  
奧田梅太郎  
村上寅吉  
福山製糖株式會社  
生酒萬兵衛  
大山新助  
井上千顯  
石尾シズ  
和田佐太郎  
大黒庄平  
鈴木榮助  
西村來助  
長谷川虎之助  
藤川徳三郎  
貞廣太吉  
内山儀助  
葛谷關三郎  
井筒商會  
井内折之助  
梶谷夕ケ  
中野啓藏  
中島榮助  
安村熊藏  
江口五三郎  
鹽山惣八

小倉市魚町一三八  
熊本市細工町五丁目二八  
熊本市鹽屋町裏一番町二九  
熊本市新町三丁目一五  
熊本市小幡町三八  
熊本市新町三丁目五〇  
熊本市妙體寺町一〇二  
佐賀縣久留米通町一八六  
佐賀縣久留米通町二六八  
佐賀縣久留米通町十丁目四〇八  
佐賀縣久留米通町四六  
佐賀縣久留米通外町七  
和歌山市洲崎町五  
和歌山市橋向町一九  
和歌山市西鍛冶屋町三  
和歌山市北休賀町四  
和歌山市縣新宮町  
和歌山縣新宮町  
和歌山縣田邊町大字北新町  
和歌山縣田邊町大字榮町  
鹿兒島市潮見町  
沖繩縣那霸區  
沖繩縣島尻郡高峯村  
沖繩縣那霸  
清國上海  
清國福州南臺

越知龜太郎  
高木嘉三郎  
村田敬八  
山内榮作  
佐竹新太郎  
木村市平  
鹽山長次郎  
堤榮次郎  
鹿兒島龜太郎  
檜野幾次郎  
上野利兵衛  
眞田竹次郎  
濱村重太郎  
西村喜兵衛  
中谷忠八  
山崎八十吉  
前山富次郎  
杉浦留楠  
鈴木安右衛門  
中川長助  
鹿兒島糖商組合  
琉球砂糖株式會社  
高峯村生產販賣組合  
沖繩製糖會社  
安部政二郎  
鈴木洋行











# 大日本製糖株式會社

粗糖并精糖  
製造販賣

本社 東京府東葛飾郡砂村  
東京出張所 東京市日本橋區蠣殼町參丁目  
東京工場 東京府東葛飾郡砂村  
大阪工場 大阪府東成郡城北村  
大里工場 福岡縣大里町  
臺灣工場 嘉義廳五間厝

世界の産糖額 (據クルーゲル氏糖業年鑑)

各國國別産額 (紐育一九一〇年三月ウイーンツァンター單位噸)

亞米加利	自一九〇五年至一九〇六年	自一九〇六年至一九〇七年	自一九〇七年至一九〇八年	自一九〇八年至一九〇九年	自一九〇九年至一九一〇年
ルイジアナ	1,000,000	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000
テキサス	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000
キューバ	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000	1,600,000
プエルトリコ	1,300,000	1,400,000	1,500,000	1,600,000	1,700,000
英領西印度	1,400,000	1,500,000	1,600,000	1,700,000	1,800,000
トリニダッド	1,500,000	1,600,000	1,700,000	1,800,000	1,900,000
バルバドス	1,600,000	1,700,000	1,800,000	1,900,000	2,000,000
ジャマイカ	1,700,000	1,800,000	1,900,000	2,000,000	2,100,000
セントキッツ	1,800,000	1,900,000	2,000,000	2,100,000	2,200,000
セントパウル	1,900,000	2,000,000	2,100,000	2,200,000	2,300,000
セントニコラス	2,000,000	2,100,000	2,200,000	2,300,000	2,400,000
セントビンセント	2,100,000	2,200,000	2,300,000	2,400,000	2,500,000
セントクリストファー	2,200,000	2,300,000	2,400,000	2,500,000	2,600,000
セントピエール	2,300,000	2,400,000	2,500,000	2,600,000	2,700,000
セントジョンズ	2,400,000	2,500,000	2,600,000	2,700,000	2,800,000
セントルシア	2,500,000	2,600,000	2,700,000	2,800,000	2,900,000
セントマーティン	2,600,000	2,700,000	2,800,000	2,900,000	3,000,000
セントエズラ	2,700,000	2,800,000	2,900,000	3,000,000	3,100,000
セントパウル	2,800,000	2,900,000	3,000,000	3,100,000	3,200,000
セントニコラス	2,900,000	3,000,000	3,100,000	3,200,000	3,300,000
セントクリストファー	3,000,000	3,100,000	3,200,000	3,300,000	3,400,000
セントピエール	3,100,000	3,200,000	3,300,000	3,400,000	3,500,000
セントジョンズ	3,200,000	3,300,000	3,400,000	3,500,000	3,600,000
セントルシア	3,300,000	3,400,000	3,500,000	3,600,000	3,700,000
セントマーティン	3,400,000	3,500,000	3,600,000	3,700,000	3,800,000
セントエズラ	3,500,000	3,600,000	3,700,000	3,800,000	3,900,000
セントパウル	3,600,000	3,700,000	3,800,000	3,900,000	4,000,000
セントニコラス	3,700,000	3,800,000	3,900,000	4,000,000	4,100,000
セントクリストファー	3,800,000	3,900,000	4,000,000	4,100,000	4,200,000
セントピエール	3,900,000	4,000,000	4,100,000	4,200,000	4,300,000
セントジョンズ	4,000,000	4,100,000	4,200,000	4,300,000	4,400,000
セントルシア	4,100,000	4,200,000	4,300,000	4,400,000	4,500,000
セントマーティン	4,200,000	4,300,000	4,400,000	4,500,000	4,600,000
セントエズラ	4,300,000	4,400,000	4,500,000	4,600,000	4,700,000
セントパウル	4,400,000	4,500,000	4,600,000	4,700,000	4,800,000
セントニコラス	4,500,000	4,600,000	4,700,000	4,800,000	4,900,000
セントクリストファー	4,600,000	4,700,000	4,800,000	4,900,000	5,000,000
セントピエール	4,700,000	4,800,000	4,900,000	5,000,000	5,100,000
セントジョンズ	4,800,000	4,900,000	5,000,000	5,100,000	5,200,000
セントルシア	4,900,000	5,000,000	5,100,000	5,200,000	5,300,000
セントマーティン	5,000,000	5,100,000	5,200,000	5,300,000	5,400,000
セントエズラ	5,100,000	5,200,000	5,300,000	5,400,000	5,500,000
セントパウル	5,200,000	5,300,000	5,400,000	5,500,000	5,600,000
セントニコラス	5,300,000	5,400,000	5,500,000	5,600,000	5,700,000
セントクリストファー	5,400,000	5,500,000	5,600,000	5,700,000	5,800,000
セントピエール	5,500,000	5,600,000	5,700,000	5,800,000	5,900,000
セントジョンズ	5,600,000	5,700,000	5,800,000	5,900,000	6,000,000
セントルシア	5,700,000	5,800,000	5,900,000	6,000,000	6,100,000
セントマーティン	5,800,000	5,900,000	6,000,000	6,100,000	6,200,000
セントエズラ	5,900,000	6,000,000	6,100,000	6,200,000	6,300,000
セントパウル	6,000,000	6,100,000	6,200,000	6,300,000	6,400,000
セントニコラス	6,100,000	6,200,000	6,300,000	6,400,000	6,500,000
セントクリストファー	6,200,000	6,300,000	6,400,000	6,500,000	6,600,000
セントピエール	6,300,000	6,400,000	6,500,000	6,600,000	6,700,000
セントジョンズ	6,400,000	6,500,000	6,600,000	6,700,000	6,800,000
セントルシア	6,500,000	6,600,000	6,700,000	6,800,000	6,900,000
セントマーティン	6,600,000	6,700,000	6,800,000	6,900,000	7,000,000
セントエズラ	6,700,000	6,800,000	6,900,000	7,000,000	7,100,000
セントパウル	6,800,000	6,900,000	7,000,000	7,100,000	7,200,000
セントニコラス	6,900,000	7,000,000	7,100,000	7,200,000	7,300,000
セントクリストファー	7,000,000	7,100,000	7,200,000	7,300,000	7,400,000
セントピエール	7,100,000	7,200,000	7,300,000	7,400,000	7,500,000
セントジョンズ	7,200,000	7,300,000	7,400,000	7,500,000	7,600,000
セントルシア	7,300,000	7,400,000	7,500,000	7,600,000	7,700,000
セントマーティン	7,400,000	7,500,000	7,600,000	7,700,000	7,800,000
セントエズラ	7,500,000	7,600,000	7,700,000	7,800,000	7,900,000
セントパウル	7,600,000	7,700,000	7,800,000	7,900,000	8,000,000
セントニコラス	7,700,000	7,800,000	7,900,000	8,000,000	8,100,000
セントクリストファー	7,800,000	7,900,000	8,000,000	8,100,000	8,200,000
セントピエール	7,900,000	8,000,000	8,100,000	8,200,000	8,300,000
セントジョンズ	8,000,000	8,100,000	8,200,000	8,300,000	8,400,000
セントルシア	8,100,000	8,200,000	8,300,000	8,400,000	8,500,000
セントマーティン	8,200,000	8,300,000	8,400,000	8,500,000	8,600,000
セントエズラ	8,300,000	8,400,000	8,500,000	8,600,000	8,700,000
セントパウル	8,400,000	8,500,000	8,600,000	8,700,000	8,800,000
セントニコラス	8,500,000	8,600,000	8,700,000	8,800,000	8,900,000
セントクリストファー	8,600,000	8,700,000	8,800,000	8,900,000	9,000,000
セントピエール	8,700,000	8,800,000	8,900,000	9,000,000	9,100,000
セントジョンズ	8,800,000	8,900,000	9,000,000	9,100,000	9,200,000
セントルシア	8,900,000	9,000,000	9,100,000	9,200,000	9,300,000
セントマーティン	9,000,000	9,100,000	9,200,000	9,300,000	9,400,000
セントエズラ	9,100,000	9,200,000	9,300,000	9,400,000	9,500,000
セントパウル	9,200,000	9,300,000	9,400,000	9,500,000	9,600,000
セントニコラス	9,300,000	9,400,000	9,500,000	9,600,000	9,700,000
セントクリストファー	9,400,000	9,500,000	9,600,000	9,700,000	9,800,000
セントピエール	9,500,000	9,600,000	9,700,000	9,800,000	9,900,000
セントジョンズ	9,600,000	9,700,000	9,800,000	9,900,000	10,000,000
セントルシア	9,700,000	9,800,000	9,900,000	10,000,000	10,100,000
セントマーティン	9,800,000	9,900,000	10,000,000	10,100,000	10,200,000
セントエズラ	9,900,000	10,000,000	10,100,000	10,200,000	10,300,000
セントパウル	10,000,000	10,100,000	10,200,000	10,300,000	10,400,000
セントニコラス	10,100,000	10,200,000	10,300,000	10,400,000	10,500,000
セントクリストファー	10,200,000	10,300,000	10,400,000	10,500,000	10,600,000
セントピエール	10,300,000	10,400,000	10,500,000	10,600,000	10,700,000
セントジョンズ	10,400,000	10,500,000	10,600,000	10,700,000	10,800,000
セントルシア	10,500,000	10,600,000	10,700,000	10,800,000	10,900,000
セントマーティン	10,600,000	10,700,000	10,800,000	10,900,000	11,000,000
セントエズラ	10,700,000	10,800,000	10,900,000	11,000,000	11,100,000
セントパウル	10,800,000	10,900,000	11,000,000	11,100,000	11,200,000
セントニコラス	10,900,000	11,000,000	11,100,000	11,200,000	11,300,000
セントクリストファー	11,000,000	11,100,000	11,200,000	11,300,000	11,400,000
セントピエール	11,100,000	11,200,000	11,300,000	11,400,000	11,500,000
セントジョンズ	11,200,000	11,300,000	11,400,000	11,500,000	11,600,000
セントルシア	11,300,000	11,400,000	11,500,000	11,600,000	11,700,000
セントマーティン	11,400,000	11,500,000	11,600,000	11,700,000	11,800,000
セントエズラ	11,500,000	11,600,000	11,700,000	11,800,000	11,900,000
セントパウル	11,600,000	11,700,000	11,800,000	11,900,000	12,000,000
セントニコラス	11,700,000	11,800,000	11,900,000	12,000,000	12,100,000
セントクリストファー	11,800,000	11,900,000	12,000,000	12,100,000	12,200,000
セントピエール	11,900,000	12,000,000	12,100,000	12,200,000	12,300,000
セントジョンズ	12,000,000	12,100,000	12,200,000	12,300,000	12,400,000
セントルシア	12,100,000	12,200,000	12,300,000	12,400,000	12,500,000
セントマーティン	12,200,000	12,300,000	12,400,000	12,500,000	12,600,000
セントエズラ	12,300,000	12,400,000	12,500,000	12,600,000	12,700,000
セントパウル	12,400,000	12,500,000	12,600,000	12,700,000	12,800,000
セントニコラス	12,500,000	12,600,000	12,700,000	12,800,000	12,900,000
セントクリストファー	12,600,000	12,700,000	12,800,000	12,900,000	13,000,000
セントピエール	12,700,000	12,800,000	12,900,000	13,000,000	13,100,000
セントジョンズ	12,800,000	12,900,000	13,000,000	13,100,000	13,200,000
セントルシア	12,900,000	13,000,000	13,100,000	13,200,000	13,300,000
セントマーティン	13,000,000	13,100,000	13,200,000	13,300,000	13,400,000
セントエズラ	13,100,000	13,200,000	13,300,000	13,400,000	13,500,000
セントパウル	13,200,000	13,300,000	13,400,000	13,500,000	13,600,000
セントニコラス	13,300,000	13,400,000	13,500,000	13,600,000	13,700,000
セントクリストファー	13,400,000	13,500,000	13,600,000	13,700,000	13,800,000
セントピエール	13,500,000	13,600,000	13,700,000	13,800,000	13,900,000
セントジョンズ	13,600,000	13,700,000	13,800,000	13,900,000	14,000,000
セントルシア	13,700,000	13,800,000	13,900,000	14,000,000	14,100,000
セントマーティン	13,800,000	13,900,000	14,000,000	14,100,000	14,200,000
セントエズラ	13,900,000	14,000,000	14,100,000	14,200,000	14,300,000
セントパウル	14,000,000	14,100,000	14,200,000	1	



臺灣、臺南廳下大日降糖業試驗場 場長心得 金田政四郎

糖業書目及雜誌名

- Kruger Dr. W. Das zueherrohr und Seine Kultur.  
 Stubs. Dr W. C. Sugar cane.  
 Bannert, Prof. Dr. B. Die Zuckerfabrikation.  
 Bass. W. L. Azucar de Canna-cane Sugar.  
 Bonchereau, Louisiana Sugar Report.  
 Machintosh. Technology of Sugar.  
 Myrick. The American Sugar Industry.  
 Neumann. K. C. Kalender.  
 Deutsche Zuckerindustrie, Die. Berlin. M. 24.  
 Licht's J, O, Wochenbericht für die Röhren Zuckerindustrie.  
 Beet Sugar Gazette. Chicago.  
 International Sugar Journal. Manchester.  
 Louisiana Planter and Sugar Manufacturers. N. O.  
 Sugar. London.  
 Sugar Journal and Tropical Cultivator. Queensland.  
 Weekly Price Current. Czarnikow, London.  
 Archief voor de Java-suikerindustrie, Soerabaya.  
 Bulletin de Association des Chemistes de Sucrierie et de  
 Distillerie de France et des Colonies.  
 Cirkulaire Hebdomadaire du Syndicat des Fabricants de sucre  
 de France.  
 El. Azucar. Monatschrift. Habana.

貨幣及度量衡比較表

內外貨幣比較表

純分比價ノ部	凡我
英吉利 磅(二十志) 志(十二片) 片(四「フアシング」) 「フアシング」	九、七六・三〇 四八・八一 四・七 一・〇二
北米合衆國 弗(百仙) 馬克又ハ麻(百布) 布	二、〇〇・六〇 二・〇 四七・八〇 四八
獨逸 馬克又ハ麻(百布) 布	三六・七〇 三八 三八・七〇 三八
佛蘭西 法郎(百卷) 法郎(百卷) 法郎(百卷)	三六・七〇 三八 三八・七〇 三八
瑞西 「リナ」(百卷) 「リナ」(百卷) 「リナ」(百卷)	三六・七〇 三八 三八・七〇 三八
伊太利 「クローン」 「クローン」 「クローン」	五三・八〇 八・六〇 三八・七〇 三八
丁蘭 「ギルド」 「ギルド」 「ギルド」	二、一六・八〇 八・八〇 四〇・七〇
和蘭 「ギルド」 「ギルド」 「ギルド」	一、三三・三〇 一・三 一、〇〇・三〇 一・〇〇
西班牙 「ピセタ」 「ピセタ」 「ピセタ」	
葡萄牙 「ピセタ」 「ピセタ」 「ピセタ」	
土耳其 「ピセタ」 「ピセタ」 「ピセタ」	
匈太利 「ピセタ」 「ピセタ」 「ピセタ」	
露西亞 「ピセタ」 「ピセタ」 「ピセタ」	
比律賓 「ピセタ」 「ピセタ」 「ピセタ」	

第四章 貨幣及度量衡比較表





封度(十六石) 同 九十九匁五分餘  
 「オンス」又は「馬」 同 七匁五分六厘弱  
 量 「アン」(Ann) 同 一匁七毛二八弱  
 「ロード」(Load)(材木量) 同 五十一立方尺弱  
 同 (皮を削らるるもの) 同 四十一立方尺弱  
 同 (厚板) 同 六百七平方尺強  
 同 七石〇三升三合三勺強  
 倫敦「クチャーター」(石炭量) 同 一萬九千五百八十三立方尺弱  
 英領セルシール島「フェルギース」(Vergees) 同  
 露 西 亞  
 「アルミン」(Arshino) 凡我二尺三寸四分六厘九毛強  
 同 五平方尺五〇三  
 同 七尺〇四分〇八毛弱  
 「サーゲン」(Sagane) (三「アルミン」) 同 九町四十六間五尺強  
 「ヴェルネ」(Vern) 五百「サーゲン」 同 六斗八合餘  
 「ヴェド」(Vedro) 同  
 「ボーチカ」(四十「ヴェド」) 同 六斗八升三合八勺弱  
 「コネリー」(Korie) 同 一石一斗二升八合二勺  
 「チホフ」(Chever) 同 一匁一分三厘八毛  
 「ソロトニーク」(九十六「ドローヤ」) 同 百九匁二分強  
 「フント」(Fund) (九十六「ソロトニーク」) 同 四貫三百六十八匁二分九厘六毛弱  
 「プウ」(Pood) (四十「フント」) 同 四十三貫六十八匁三分七厘強  
 「バーク」(Berkoets) 同 一町一反四百八歩  
 「デシアチン」(Desiatine) 同 二百十九立畝八七九四  
 「クラフタ」(Krafter) 同 百六十七立方尺八八八五五  
 「スタンダード」(Standard) 同 一升八合五勺弱  
 (露都に於ける材木量用)  
 「ガレニク」(Garnice) 同 二石二斗二升二合三勺強  
 波 蘭 「ラスト」(Last) 同 十七町一反二畝二十八歩強  
 「ヴロカ」(Vloeka) 同  
 獨 逸  
 「ラント」(Last) 凡我五百四十貫八百九十二匁強  
 (二「メトリック噸」)  
 普 魯 西 「ペンナチン」(Penner) 同 十三貫七百二十一匁四分八厘弱

同 「ラスト」 同  
 同 「モルゲン」(Morgen) 同  
 「ブレンス」(Brens) 同  
 「ニエーレン」(Nieren) 同  
 塊大利匈牙利  
 「ヨツホ」(Yotso) 同  
 維納斯「セントニル」 同  
 匈牙利「チツヤ」(Oke) 同  
 同 「同」 同  
 白 耳 義  
 「ラスト」(Last) 同  
 和 蘭  
 「ラスト」 同  
 丁 抹  
 「ブンド」(封度) 同  
 「セントニル」 同  
 「ミナ」(Min) (距離) 同  
 「ミル」(地理學上) 同  
 「タンナ」(Tonne) (穀類) 同  
 「アンナ」(Ann) (Tondand) 同  
 瑞 典、 諾 威  
 「ブンド」(Rund) (封度) 凡我百三十三匁三分弱  
 「セントニル」 同 十一貫三百三十三匁七分七厘弱  
 「アンナ」(Tunna) 同 八斗七升九合二勺強  
 「タンナ」(Tannand) 同 四反九畝二十二歩強  
 同 十三貫三百三十八匁六分九厘強  
 同 五反五畝十五歩弱  
 希 臘  
 「ドラクム」(Drachme) 凡我三匁七分八厘弱

「リトル」(Little) 同 百三十三匁〇五厘四毛弱  
 「リット」(Litter) 同 三百四十三匁五分二厘強  
 「キントル」 同 十四貫九百二匁〇三厘二毛弱

土 耳 古  
 共 通  
 「カンタル」(Kantar) 凡我十五貫八十三匁九分二厘四毛強  
 「チッタ」(Oke) 同 三百四十二匁一分二厘弱  
 「ピク」(Pik) 同 二尺三寸三分九厘弱  
 亞細亞「キントル」 同 十五貫百十九匁七分五厘六毛  
 土其古「カンタル」(ダマソニ) 同 六十九貫五百五十八匁八分八厘弱  
 シリヤ「ロントル」(Rontle) 同 六百九十五匁五分強  
 パレスチン「ロントル」 同 七百二十五匁七分四厘八毛  
 歐洲土其古「ララチヤ」(ララチヤ) 同 六合六勺強  
 伊 太 利  
 凡  
 「カンタロ」 我二十一貫百六十七匁六分五厘強  
 「サルム」(Salm) 同 五十九貫二百六十九匁四分四厘弱  
 「カフィン」(Caffino) 同 一斗一升三合三勺強  
 「バレル」(稅關) 同 二斗三升九合三勺弱

西 班 牙  
 「リソラ」 凡我百二十二匁七分弱  
 「フライル」(Frail) (乾葡萄酒) 同 六貫四十七匁九分強  
 「バレル」(Barrel) (同) 同 十二貫九十五匁八分強  
 「ラスト」(Last) (鹽) 同 五百七十五貫七百六十匁三分強  
 「アローン」 同 三貫六十七匁四分九厘六毛強  
 同 八升九合五勺強  
 同 三斗一升二合四勺強  
 「テシアチン」(Desiatine) 同 三斗三升五合八勺強  
 「フアチガ」(液體量) 同 二石九斗四升八合三勺弱  
 「ブント」(Butt) (酒量) 同 九寸一分九厘四毛弱  
 「カホ」(Pie) 同 二尺七寸五分八厘強  
 「ツアラ」 同 十二貫二百六十六匁三分六厘弱  
 カスチル「キントル」

葡 萄 牙  
 「アカラット」(Arrote) 或は「リソラ」 凡我百二十二匁二分九厘弱  
 「リソラ」(Libra) 同 同  
 「アローン」(Arroba) 同 三貫九百十六匁六分二厘強  
 「アルム」(Almude) 同 九升二合八勺強  
 北亞米利加  
 合 衆 國  
 哩(一七六〇碼) 凡我十四町四十五間餘  
 碼(三呎) 同 三尺一分七厘餘  
 呎(十二吋) 同 一尺五厘八毛餘  
 同 八分三厘八毛餘  
 凡我三百七十貫九百四十六匁  
 (但普通千六百八十斤二百  
 六十八貫八百目を用ふ)  
 重 噸 (二十本) (二十二百) 同 二百四十一貫九百十六匁  
 (千五百十二斤) 同 十三貫五百四十七匁三分弱  
 本 (Cwt) (百十二封度) 同 百二十九匁九厘八餘  
 封度(十六石) 同 八匁三分弱  
 「オンス」又は「馬」 同 九十九匁五分餘  
 輕 噸 (二千封度) 同 七匁五分六厘弱  
 量 「オンス」 同 一匁七毛二八弱  
 「ケレン」 同 二升九勺八七七八  
 同 一斗九升五合三七強  
 同 四反二十四歩強  
 凡我十三貫五百四十七匁三分弱  
 同 百二十二匁七分三厘強  
 同 十二貫二百六十六匁強  
 同 三十六貫二百八十七匁四分一厘強  
 同 一升三合一勺強  
 同 三斗二〇合三勺弱  
 墨 西 哥 「フラスコ」 同  
 「フアチガ」

「パレル」  
「バラ」

中央亞米利加

共通「セントロ」(Venturo)  
同「フアチガ」(Faneaga) (乾量)  
同「リブラ」(Libra)  
同「ヴァラ」(Vara)  
同「カラグロ」(Manzana) (Manzanav)  
同「ミリア」(Milla)  
同「サルバドール」(Manzana)  
同「コスタリカ」(Manzana)  
同「ホンダエラス」(Milla)

南亞米利加

「アローベ」(Carolo)  
「キンタル」(Quintal)  
「ヴァラ」(Vara)  
「グアドラ」(Gudra)

ウルクワイ

「リゲ」又は「レグア」  
(Leque) (地積)  
「リブラ」(Libra)  
「フアチガ」(シメナル)

亞爾然丁國

「リブラ」  
「アローベ」(Aruba) (乾量)  
「キンタル」  
「フラスコ」(Francos)  
「パレル」(Baril)  
「モエ」  
「バラ」  
「グアドラ」

同 四斗二升一合四勺強  
同 二尺七寸五分六厘強

凡我八升九合五勺弱  
同 三斗〇七合六勺強

同 百二十六分一分六厘弱  
同 二尺七寸五分五厘一毛強

同 七反十四步  
同 十六町五十六間強

同 七反十四步  
同 七反四畝二十四步強

同 十六町五十七間強  
凡我三貫二十三匁九分五厘強

同 十二貫九十五匁八分強  
同 二尺八寸四分九厘八毛弱

同 二百三十八尺七分八毛弱  
同 八平方尺一七一三

同 千六百四十五町六反十二步強  
凡我百二十二匁六分八厘八毛弱

同 七斗五升九合六勺強  
同 一石五斗一升九合二勺強

同 八反一畝十八步強  
同 二千二百三十四反三畝七步強

同 二千二百三十四反三畝七步強  
(即二千七百クアドラ)

凡我百二十二匁四分九厘強  
同 三貫〇六十二匁三分五厘五毛弱

同 十二貫二百六十七匁五分六厘強  
同 一升三合二勺弱

同 四斗二升一合四勺強  
同 九寸五分三厘強

同 二尺八寸六分弱  
同 一町七反一畝餘

伯刺西爾

「アローベ」  
「キンタル」  
「リブラ」  
「アローベ」

ベ子ゾエラ

同 (液體量)  
「フアチガ」  
「バラ」

秘

「リブラ」  
「キンタル」  
「バラ」

智

「リブラ」  
「キンタル」  
「フアチガ」  
「バラ」

ボリツ非ヤ

「マルク」(Mark)  
「キエラソ」島「ヴァラ」(Vara)  
西印度諸島

玖

「リブラ」  
「アローベ」  
「フアチガ」  
「ヴァラ」  
(液體量)

支

「リブラ」  
「アローベ」  
「フアチガ」  
「ヴァラ」

「斤チン」(Catty)  
「擔」(Picul)  
「兩」(Ry)  
「分」(Fen)  
「寸」(Sun)  
「尺」(Chi)  
「丈」(Chang)

同 三貫九百十六匁六分二厘二毛弱  
同 十五貫七百三十一匁八分強

同 百二十二匁九分〇五毛弱  
同 三貫七十二匁六分二厘五毛弱

同 八升九合五勺弱  
同 三斗一升二合四勺弱

同 二尺七寸九分八厘二毛弱  
同 百二十二匁六分八厘八毛弱

同 十二貫二百六十六匁強  
同 二尺七寸九分六厘八毛弱

同 百二十二匁六分五厘一毛強  
同 十二貫二百六十六匁強

同 五斗〇三合強  
同 二尺七寸九分六厘八毛弱

同 六十一匁三分二厘六毛弱  
同 二尺七寸九分七厘餘

凡我百二十二匁七分七厘強  
同 三貫六十七匁強

同 八升九合五勺弱  
同 三斗一升二合四勺弱

同 二尺七寸九分八厘強  
同 二尺七寸九分八厘強

凡我百六十一匁二分七厘八毛弱  
同 十六貫百二十七匁七分四厘弱

同 十匁強  
同 一分一厘七毛強

同 一尺一寸七分三分五毛弱  
同 一尺一寸七分三分五毛弱

同 一丈一尺七寸三分五厘弱  
同 一丈一尺七寸三分五厘弱

「バリル」 同 四斗二升一合四勺強  
「バラ」 同 二尺七寸五分六厘強

中央亞米利加

共通モンタゴ (Montano)  
同 「フアナガ」 (Fuanaga) (乾量)  
同 「リアラ」 (Liala)  
同 「ウアラ」 (Uara)  
同 「カラグワ」 (Kargwa) (Manzana)  
同 「ミリア」 (Miria) (Nila)  
同 サルバードル (Manzana)  
同 コスタリガ (Manzana)  
同 ホンデラス (Miria)

南亞米利加

「アロース」 (Aloos) 凡我三貫二十三匁九分五厘強  
「キンタル」 (Quinta) 同 十二貫九分五厘八分強  
「ウアラ」 (Uara) 同 二尺八寸四分九厘八毛強  
「グアドラ」 (Guadra) 同 二百三十八尺七分八毛強  
同 八平方尺一七一三  
同 「リアラ」 (Liala) 凡我百二十四匁四分九厘強  
同 「アローバ」 (Aroba) (乾量) 凡我百二十四匁三分五厘五毛強  
同 「キンタル」 同 十二貫二百六十七匁五分六厘強  
同 「フラスコ」 (Frasco) 同 一升三合二勺弱  
同 「バリル」 (Baril) 同 四斗二升一合四勺強  
同 「ビエ」 同 九寸五分三厘強  
同 「バラ」 同 二尺八寸六分弱  
同 「グアドラ」 同 一町七反一畝餘

亞爾然丁國

「リアラ」 凡我百二十四匁四分九厘強  
「アローバ」 (Aroba) (乾量) 同 三貫六十二匁三分五厘五毛強  
「キンタル」 同 十二貫二百六十七匁五分六厘強  
「フラスコ」 (Frasco) 同 一升三合二勺弱  
「バリル」 (Baril) 同 四斗二升一合四勺強  
「ビエ」 同 九寸五分三厘強  
「バラ」 同 二尺八寸六分弱  
「グアドラ」 同 一町七反一畝餘

伯刺西爾

「アローバ」  
「キンタル」

「リアラ」

ベ子ゾエラ

同 (液體量)  
「アローバ」  
「フアナガ」

「バラ」

智

「リアラ」  
「キンタル」

利

「フアナガ」  
「バラ」

西印度諸島

「リアラ」  
「アローバ」

玖

「フアナガ」  
「ウアラ」

支

「リアラ」  
「アローバ」

馬

「フアナガ」  
「ウアラ」

「アローバ」 (液體量) 凡我百二十三匁弱  
「リアラ」 同 三貫六十七匁強  
「フアナガ」 同 八升九合五勺弱  
「ウアラ」 同 三斗一升二合四勺弱  
同 二尺七寸九分八厘強  
凡我百六十一匁二分七厘八毛弱  
同 十六貫百二十七匁七分四厘弱  
同 十匁強  
同 一分一厘七毛強  
同 一寸一分七厘三毛強  
同 一尺一寸七分三分五毛弱  
同 一丈一尺七寸三分五厘弱

第五章 ブラツセル會議規則  
第六章 運賃  
第七章 糖業術語集

里「(L)」 同 五町五十四間三尺三寸強  
 交趾「(A)」 同 十匁二分八〇毛弱  
 支那「(C)」 「チール」(Tiel) (金聲)

暹羅  
 「ダー」(Wah) 凡我六尺六寸  
 「セン」(Sen) 同 十三丈二尺  
 「ライ」(Rai) 同 一段六畝  
 「チカレ」(Tial) 同 四畝  
 「カンチー」(Catty) 同 三百二十匁  
 「ユンレ」(Yun) (Piaoh) 同 十六貫  
 「カナム」(Kanah) 同 五合二勺強  
 「タンク」(Tang) 同 一斗四合五勺  
 「サント」(Sut) 同 一斗三升  
 「クイナム」(Kwien or Coyun) 同 十石四斗

印度  
 「ボンガカレ」(Bongkal) 凡我十四匁三分七厘七毛弱  
 「シール」(Sear) 同 二百十九匁二分四厘弱  
 「マウンド」(Maund) 同 九貫九百五十三匁一分一厘八毛弱  
 「フアズム」 同 六尺〇三分  
 孟買「カンディー」(Candy) 同 六十三貫九百八十六匁八分強  
 (注意「カンディー」は七百八十四封なり)  
 マドラス「カンディー」 同 六十貫四百七十九匁強

波新  
 「バヌン」(Bannun or Tubin) 凡我七百八十五匁一厘八毛弱  
 東印度諸島  
 「カッチー」(Catty) 凡我二百五十六匁四分三厘一毛強  
 「ピクル」(Picul) 同 十六貫百二十七匁七分四厘弱  
 「ボウ」(Bow) 凡米國の七千九百六平方米突五  
 「カッチー」 凡我百六十三匁三分弱  
 「ピクル」 同 十六貫三百四十一匁四分三厘強  
 「ボウ」 同 三百七十四貫四百二十七匁八分

比律賓「ピクル」 同 十六貫六百八十匁一分強  
 ホルチチ、セレンス「ピクル」 同 十六貫四百六匁七分四厘三毛  
 「ラツカ」(馬來牛島)「カッチー」 同 百六十三匁三分弱

亞弗利加  
 「アルテル」(Ariel) 凡我百三十五匁四分七厘四毛弱  
 「ガントル」(Gantar) 同 十三貫六百六十八匁二分六厘弱  
 「フアチガ」(Fang) (輕重) 同 八貫四百六十七匁〇六厘強  
 (純量) 同 十四貫二百七十三匁〇五厘弱  
 「アラバ」(Ardeb) 同 四貫二百三十三匁五分三厘二毛弱  
 「フェダム」(Beddun) 同 一石五斗二〇合五勺強  
 「チツケ」 同 四反二畝  
 「ラック」(Pie) 同 三百二十九匁三分強  
 同 一尺七寸八分強

ブラツセル會議

(千九百二年三月五日成立)

砂糖の取扱に關する條約

獨乙國皇帝、埃地利匈牙利皇帝、白義國王、西班牙國王、佛國大統領、大英國王、伊太利國王、和蘭國王、瑞典及諾威國王は各國に於る甜菜糖及甘蔗國の競争に關する條件を廢除し又一方に於ては砂糖消費の増加を計らんことを目的となし而して此の二箇の目的は保護の廢止並に超過關稅の制限に依りて始めて達せらるべしと思料せらるゝが故に各全權委員は左の條約を議定せり

第一條 條約國は本條約施行の日より砂糖の製造及び輸出に對する直接又は間接の保護金を廢止し又本條約の施行繼續中は如上の保護金を與へざる義務を負ふ、本條約の規定はチヨコ

ノート菓子練乳其他多量の砂糖を用ひて製造したるものに適用す

國の財政上の法律に依り直接間接に各製造者に對し與へらるゝ總ての利益は前項の規定に該當するものにして即ち左の如し

- 一、輸出の場合に與へらるゝ直接の利益
- 二、製造に對し與へらるゝ直接の利益
- 三、製造物の一部が受くべき完全若くは一部の免税
- 四、砂糖取得分の超過に基く利益
- 五、多額拂戻金に基く利益
- 六、第三條に規定せられたる額を超過せる超過關稅に基く利益

第二條 條約國は砂糖製造場に就きては保税倉庫に關する手續を適用し晝夜稅務官吏をして之を監視せしむべき義務を負ふ

製造場は砂糖を竊かに移出することを防ぐに必要な設備を爲し又官吏は各設備内に立入ることを要す  
製造に關しては監督帳簿を備へ製造を終へたるものは防備安全なる特別室に貯藏することを要す

第三條 條約國は關稅即ち外國糖に課する税金と内國糖に課する税金との差額を精製糖及び之に類似せる砂糖に對して百基に付六法百斤に付き多くも壹圓參拾六錢五厘（其他の砂糖

に對しては多くも（五法五十センチム壹圓貳拾五錢五厘）を起へしむ可からざる義務を負ふ

此規定は砂糖を製造せざる國の輸入稅及び砂糖の副産物に對しては適用せず

第四條 條約國は砂糖の製造及び輸出に對し保護金を與ふる國の砂糖に對しては其自國に輸入せらるゝ場合に於て特別なる關稅を賦課すべき義務を負ふ

此關稅は其輸出國に於て直接間接に與へらるゝ保護金の下に下ることを得ず又條約國は保護金を與へらるゝ砂糖の輸入を禁止するの權利を有す、第一條第六號に指示せられたる超過關稅に基く利益の計算に就きては第三條に定められたる額を控除して之を定め其殘餘の半額を保護金と看做し第七條に定めたる委員會は之を各條約國の請求により此の如くにして定められたる獎勵金額の當否を定むる權利あり

第五條 條約國は相互に其條約國に於て製造せられたる砂糖及保護金を受けす且第八條の義務を負擔する其殖民地の砂糖に對しては最も低き輸入稅を課すべき義務を負ふ  
甘蔗糖及び甜菜糖には異りたる關稅を適用することを得ず

第六條 伊太利西班牙及び瑞典は砂糖の輸出を爲さざる間は第一條第二條第三條の義務を有せず  
前項の國は常置委員が前項條件消滅に歸したることを認めたる後一箇年内に各條約國と砂糖に關する法律を等しくすべき

義務を負ふものとする

第七條 條約國は本條約施行を監視する爲めに常置委員を置くことに同意す常置委員は各條約國の委任者より成立し議長を選定して議長の召集に依りブラツセルに委員會を開く委員は左の職務を行ふ

- 一、條約國は砂糖の製造及輸出に對し直接又は間接の保護金を與へざるやを査定す
- 二、第六條に規定したる國は其義務を履行するや否やを査定す
- 三、非條約國に於ける保護金を査定し第四條の規定に基き之を算定す
- 四、爭議に關し承認を與ふ
- 五、條約に對する加盟の申請を審査す

常置委員は條約國及び非條約國に於ける砂糖に關する法律並に統計を類集翻譯して公示すべきものとす前項規定の施行を保證せんが爲めに條約國は現在及び將來に於て効力を有する自國の法令糖稅に關する規定并に條約に關する統計を外交文書に依り白耳義政府に報告し同政府は之を委員會に移牒すべきものとす

各條約國は一人の委員若くは副委員を委員會に出たすことを得澳地利及び匈牙利は各條約當事者と見做さる  
第壹回の委員會は白耳義政府の通牒に基き本條約實施の一箇

月前に於てブラツセルに開會するものとする

第二號及び第三號に示されたる査定及び計算は條約國を斷束す、右は多數決に依りて議決し二箇月の期間經過後に於て効力を有するものとす若し條約當事者が委員會の決議に對し故障を爲さんとするときは其決議を知りたる日より八日以内に委員會の新決議を請求すべし委員會は直ちに開會して故障申立の日より一箇月以内に新なる決定を爲すべし新なる決定は其決定二箇月の後に於て効力を有するものとする

委員會に要したる費用は委員會の定めたる計算に依りて條約國に於て負擔すべきものとす、但し委員の俸給は當該國の負擔に屬す

第八條 條約國は英領自治植民地及び東印度以外の植民地の保護糖が或る條約國の國境を通過する場合に於て本條約に基づく利益を受けしめざる規定を設くるの義務を有す、當置委員會は之に調し必要な申請を爲すことを得

第九條 未だ本條約に加盟せざる國は其申請及び委員會の承諾を得て加盟することを得  
申請は外交文書に依り白耳義政府に致し同政府は之を各條約國に通牒す

第十條 本條約は千九百三十三年十月一日より實施せられて五箇年間其効力を有するものとする  
條約國の何れの國も其効力を廢罷するの意思なきときは本條

約は猶ほ其効力を將來に維持するものなりとす

條約國中の或る一國が條約の満期を告知するときは其告知は唯々之を爲したる國に對してのみ効力を有す其他の國は告知の年の十一月三十日迄に次年の十月一日より退約すべきことを表示し得るの權利を有す此場合に於て白耳義政府は三箇月以内にブラッセルに會議を召集して之に必要な規定を決義す

第十一條 本條約の規定は條約國の植民地及び占領地にも亦之を適用す但し英領及び蘭領植民地に就きては第五條及び第八條の規定を除くの外之を適用せず英領及び蘭領植民地に占領地の位置は附則に於て之を定む

第十二條 本條約に規定せられたる條約相互の義務の履行は其の國の憲法及規定に依りて之を爲すべきものとす本條約の批准書は千九百三年二月一日ブラッセルに於て外務省に呈すべきものとす本條約は第六條の除外例を受けざる條約か批准を爲したる後に於て其効力を有す各條約の一國若くは數國が指定の期間内に批准を提出せざるとき白耳義政府は他國に對し其の批准を爲したる國に對してのみ効力を有すべきや否やの決議を求むべし

本條約の全權委員は本條約書に捺印す (一九〇二年三月五日) (於ブラッセル)

附則議定書

本日獨乙國、澳地利、匈牙利、白耳義、佛蘭西、英吉利、和蘭、

瑞典、西班牙の間に締結せられたる砂糖に關する條約に關し全權委員は左の如く議定せり

第三條に就きて 超過關稅の目的は自國の市場を保護せんが爲めにするものなるを以て若し或る條約國より莫大の砂糖が自國に輸入せらるゝ場合には當該條約國は超過關稅額を高むることを提議するの權利を有す但し關稅引上げは其砂糖を輸出する國に對してのみ是を行ふものとす

右の提議は常置委員會に之を爲し同會は直ちに多數決に依りて其規定の當否施行期限及び稅率に就き決定を與ふべきものとす關稅の引上げは百斤に付き二十二錢七厘五毛を超過す可からず

委員會は當該市場に對する輸入は實際僅少なる經濟的生產力の結果として又製糖業者間に於て故らに作られたる相場騰貴の結果に非ざる場合に限り前項の提議を承諾することを得

第十一條に就きて

(イ) 一、英國政府は條約期間中は其植民地の砂糖に對し直接間接の保護を與へざることを表白す

二、英國政府は財政上の關係に就きては完全なる權利を留保して條約期間中は條約國より輸送せらるゝ砂糖に對し植民地糖に何等の利益をも與へざることを表白す

三、同政府又自治植民地及東印度に加盟せんが爲めに之に對し條約を提示すべきことを表白す

又政府は植民地の名に於て條約に加入することを承認す

(ロ) 和蘭政府は條約の期間中は其植民地糖に對し直接間接の保護金を與へず又之に對し條約國の砂糖に對するよりも低き輸入税を課せざることを表白す

本議定書は本日議決せられたる條約と同時に批准し條約の一部として同一の効力作用及び繼續を有するものとす

(一九〇二年三月五日ブラッセルに於て)

註、西班牙は該協約に加盟するに至らず秘露は後に至りて之に加盟したり而して且條約は其後引續き實施せられて今日に及べり

追加條款議定

(千九百七年八月廿八日)

第壹條 各締約國は一千九百二年三月五日の條約を一千九百八年九月一日より起算し更に五箇年間繼續せしむ可きことを約定す

然れども締約國中の一國は豫め一年前に通知することに依り一千九百十一年九月一日より本條約より脱することを得、但し一千九百十年九月一日の最終委員會に於て右の通知の正當なるを認定したる場合に限る

其の他に關しては一千九百二年三月五日の本條約の廢棄及び繼續に關する第十條の規定を適用す

第二條 英國は一千九百八年九月一日よりして本條約第四條に規定せる義務を免除せらるべし

各締約國は本條約の利益を享受する爲めに英國に精製せられ

各締約國に輸入せらるゝ砂糖に對し該糖が獎勵金を課する書面を添附すべき旨を要求するを得

第三條 本追加條款は各締約國の批准を要し批准書は千九百八年二月一日前に提出すべし

前記期日前に批准を與へざりし國は九月一日の本條約改訂期に於て本條約より脱したるものと見做す

露國加入に關する條約 (七千九百九年十二月三日締結)

第壹條 露國は一千九百七年八月廿八日の追加條款に依りて修正せられたる一千九百二年三月五日の砂糖條約に加入し之より生ずる一切の利益及び義務を享有若くは負擔すべし但し左の例外條件を保有す

第二條 露國は砂糖に關する現在の租稅制度及び關稅制度を留保す而して同國は生産者に對し内國市場に付き定めたる最高販賣價格より生ずる利益を増加せざるべし

第三條 前條の規定せる特別法制を設くるの目的を以て露國は一千九百七年九月一日より起算し六箇年間戻稅又は免稅に依り百萬噸(十七萬、八千萬斤)以上の砂糖を輸出せしめざることを約定す

前記の額は商業上の必要に應じ數年間に分割することを得るものとす

但し左の額を超過することを得ず

一九〇七年九月一日より一九〇九年八月三十一日迄三十萬噸

糖業術語集(英和對譯)

Abrader	磨削器	Single A.	單動
Accelerometer	加速度計	Wave A.	波動
Accident	事故	Angle of A.	力角
Account	計算	Addendum	附屬
Achromatism	無色	Adhesion	附着
Acid	酸	Adjustment	調整
Hydrochloric-A.	鹽酸	Admission	給汽
Oxalic-A.	草酸	Aerometer	量氣計
Tartaric-A.	酒石酸	After-Product	二三番糖
Citric-A.	枸橼酸	Agent	勤源代人
Formic-A.	蟻酸	Aiguille	鑽孔器
Malic-A.	林檎酸	Air	空氣
Lactic-A.	乳酸	Atmospheric A.	大氣
Succinic-A.	琥珀酸	Compressed A.	壓縮空氣
Humic-A.	ヒューミツク酸	A-Chamber	氣室
Acetic A.	醋酸	A-Channel	氣路
Carbolic A.	石炭酸	A-Compressor	壓氣機
Carbonic A.	炭酸	A-Condenser	用氣凝汽器
Hydrochloric A.	鹽酸	A-Cooler	冷汽裝置
Hydresulphrous A.	次亞硫酸	A-Course	氣道
Nitric A.	硝酸	A-Cylinder	氣筒
Nitrous A.	亞硝酸	A-drill	用氣鑽孔器
Phosphoric A.	磷酸	A-Escape	排氣裝置
Sulphric A.	硫酸	A-Gage	檢壓器
A. Process	酸法	A-Governor	整壓器
A. Steel	酸鋼	A-Hole	氣孔
Acoustmeter	音響計	A-Jack	氣壓扛重器
Action	作用	A-Manometor	檢壓計
Chemical A.	化學作用	A-Pump	空氣唧筒
Double A.	複動	A-Tester	驗器
Dynamic A.	動力作用	Alarm	警報
Electric A.	電氣作用	Alkaline-sacharate	糖酸鹽
Electro Dynamic A.	流電作用	Alcohol	酒精
Mechanical A.	機的作用	Alum	明礬
		Almina	礬土
		Alminume	礬素

官設鐵道運賃率

貨切車扱は左記賃率及計算方に據り運賃を取る、但本賃率は各其哩程以内運送のものとも雖も該哩程分の賃金を支拂ふときは之を適用す

別種	品別	哩別	一哩	一哩以上
第一種	砂糖、糖蜜、甘藷、茶、燃料、肥料、土砂、土器瓦、米、麥、粟、豆、稗、黍、木村竹、石灰(生石灰を除く)、火山灰、燐灰、石材、セメント、鹽(石油を除く)、竹紙(糊製)	五十哩未満	金四錢	金三錢二厘
第二種	樟腦、腦油、葉蓴及一、二級品	五十哩以上	金五錢	金三錢八厘
第三種	酒、礦水(曹達水を含む)、煙草	百哩以上	金七錢	金三錢四厘
第四種	銅貨、白銅貨、危險品(石油を除く)	百哩以上	金九錢	金五錢
第五種	前記貨物は各一品種の外貨取扱を爲さず、但米、麥、粟、豆、稗、黍及樟腦と腦油並に銅貨と白銅貨に限り混載差支なし	百哩以上	金十錢	金六錢五厘
	一、一哩未滿は一哩に切上げ計算し二十哩未滿は二十哩分の賃金を取る	百哩以上	金八錢	金七錢五厘
	二、一哩未滿は一哩に切上げ計算し一車未滿は一車分の賃金を取る	百哩以上	金七錢	金六錢
		百哩以上	金七錢	金七錢

第五條 本議定書は批准を経るを要し而して批准書は一千九百八年二月一日前にブラッセル外務省に寄託すべし

第四條 露國の加入は千九百八年九月一日より効力を生ず可しは若し露國に於て之を望むときは如何なる條件の下に一千九百拾三年九月一日後本條約の加盟を繼續し得べきやを全會一致を以て決定す可し同委員會に於て一致を得ざりし時は露國は千九百拾三年九月一日よりして本條約を脱したるものと看做すべし

(一)芬蘭 (二)東海を経て波斯へ輸出 (三)其他露國に隣れる亞細亞諸邦但し亞細亞土耳其は之を除く

一九〇九年九月一日より一九一〇年八月三十一日迄二拾萬噸 (三億三千六百萬斤)

一九一〇年九月一日より一九一一年八月三十一日迄二十萬噸 (右に同じ)

一九一二年九月一日より一九一二年八月三十一日迄二十萬噸 (右に同じ)

一九一二年九月一日より一九一三年八月三十一日迄二十萬噸 (右に同じ)

本條に規定せる制限は左の方面への輸出に對しては之を適用せず



Raucha-C. 蚶蔗種  
 Cane mill 甘蔗壓榨機  
 C-Carrier 甘蔗輸送帶  
 C-Cutting 甘蔗切リ  
 Cane sugar 蔗糖  
 Candy 水砂糖  
 Cube sugar 角砂糖  
 Constituents 成分  
 Cutting 蔗苗  
 Canal 水路  
 Cap 雷管  
 Caramel カラメル  
 Car 車  
 C-Coupler 聯結器  
 C-Frame 車體骨  
 C-unloader 卸機  
 C-wheel 車輪  
 Carbon 炭素  
 Carbonatation 碳酸飽充法  
 Single-C. 單  
 Double-C. 複  
 Carriage 客車  
 Casting 鑄物  
 Catch 抑子  
 Centrifugaling 分密法  
 Cement 膠灰  
 Chain 鏈  
 Channel 溝  
 C-Iron 鐵  
 Charcoal 木炭  
 Chill 冷鋼  
 Chimney 煙突  
 Chloride 鹽化物  
 Chlorine 鹽素  
 Clay 粘土  
 Clarification 清澄法  
 Coal 石炭  
 Cock 活嘴

Coefficient 率  
 Coil 線輪, 螺管  
 Coloration 色相  
 Colouring matter 色素  
 Compass 羅盤  
 Component 成分  
 Compound 化合物  
 Condenser 凝汽器  
 Cone 錐  
 Content 積  
 Copperas 綠礬  
 Cover 蓋  
 Crane 起重機  
 Crank 曲柄  
 Crusher 破碎機  
 Crushing 壓榨  
 Crystal 運動結晶  
 C-Triple 三重  
 C-Quble 二重  
 Curve 曲線  
 Cusion 汽褥  
 Cutter 削截機  
 Cylinder 圓塙  
 D.  
 Decolouring 脫色法  
 Decompositin 分解  
 Decompression 解壓  
 Defecation 清淨法  
 D-Juice 清淨液  
 Dextrose 右旋糖, 葡萄糖  
 D-Sate 葡萄糖酸鹽  
 Design 設計  
 Distillation 蒸溜  
 Diffusion 滲出  
 Diffusion process 滲出法  
 Diffuser 滲出槽  
 Dog 獾子

Amalgam 混汞  
 Amber 琥珀  
 A-Cement 珀膠  
 A-Bronze 珀銅  
 A-Varnish 珀漆  
 Ammonia 安母尼亞  
 Amount 量  
 Analysis 分析  
 Qualitative A. 定性分析  
 Quantity A. 定量分析  
 Angle 角  
 Aniline 阿尼林  
 Apparatus 器具  
 Appliance 工具  
 Arm 臂  
 Asbesto 石棉  
 Ash 灰  
 Asphalt 土瀝青  
 Attraction 引力  
 Automobile 自動車  
 Axis 軸  
 Axle 車軸  
 B.  
 Bag 袋  
 Bagasse 榨殼  
 Ballast 礫  
 Bar 桿  
 Buffer-B. 緩急桿  
 Barometor 氣壓計  
 Battery 電池  
 Beam 桁衡桿  
 Bear 壓穿器  
 Bearer 承  
 Bed 床  
 Beet root 甜菜根  
 Bell 鈴  
 Bellows 鞴

Belt 帶  
 Belting 帶裝置  
 Blade 刃  
 Bleaching 漂白  
 Boiler 汽罐  
 Cross-tube B. 叉管汽罐  
 Cylinder B. 圓塙汽罐  
 Horizontal B. 橫罐  
 B-Pressure 汽罐汽壓  
 Boiling 煎糖, 沸騰  
 B-Point 沸騰點  
 Bolt 締釘  
 Borer 鑽孔器  
 Boring 鑽孔  
 Bottle 樽  
 Box 函  
 Brake 制輪機  
 Brick 煉瓦  
 Bud 芽  
 Buffer 緩衝器  
 Burnettizing 鹽化亞鉛防腐法  
 C.  
 Cable 鐵條  
 Cane 甘蔗  
 Black-C. ブラック種  
 Bourbon-C. ボルボン種  
 Lahaina-C. ラハイナ種  
 Ribbon-C. リッボン種  
 Otahcite-C. オタヘイト種  
 Bamboo-C. バンブー種  
 Yellow bamboo-C. ヤロバンブー種  
 Rosebamboe-C. ロースバンブー種  
 Caretonia-C. カレドニア種  
 Cheribon-C. チェリボン種  
 Demerara-C. デメララ種  
 Chikucha-C. 竹蔗種  
 Ancha-C. 紅蔗種

Journal 軸 頸  
 K.  
 Kaolin 磁 土  
 Keel 龍 骨  
 Key 栓  
 Kiln 窯  
 Knee 曲 管  
 Knot 節  
 L.  
 Laboratory 實驗室  
 Lapile 火山灰  
 Lathe 旋 盤  
 Lava 熔 岩  
 Levulose 左旋糖, 果糖  
 Level 水 平  
 Lime 石 灰  
 Loading 積 荷  
 Locomotive 機關車  
 M.  
 Maceration 浸漬法  
 Machine 器械, 機  
 Crushing-M. 破碎機  
 Freezing-M. 製冰機  
 Ice-M. 同  
 M-Shop 機械工場  
 M-Tool 機力工具  
 M-Work 機 工  
 Magnesia 苦 土  
 Main 本 管  
 Maple tree 槭 樹  
 Manager 支配人  
 Manufacture 製 造  
 Mark 標  
 Material 材 料  
 Megasse 榨 殼

Measure 度 量  
 Methode 法  
 Mica 雲 母  
 Middle 中央部  
 Microscope 顯微鏡  
 Mineral matter 礦物質  
 Mill 製作所, 壓榨機  
 first-M. 第一壓榨機  
 Milling-process 壓榨法  
 Mixer 混合機  
 Moisture 濕 氣  
 Molasses 糖 密  
 Exhaust-M. 廢 密  
 Moment 力 率  
 Motion 運 動  
 Motor 發動機  
 Mud 泥  
 N.  
 Nail 釘  
 Naphtha 石腦油  
 Nitrification 窒 化  
 Nitrogen 窒 素  
 Nitre 硝 石  
 Nitrogenous matter 窒素質物  
 Nut 螺旋止  
 O.  
 Offet 放水管  
 Oil 油  
 Boild-O. 乾燥油  
 Coal-O. 石腦油  
 Dead-O. 重 油  
 Light-O. 輕 油  
 Drying-O. 乾燥油  
 Machine-O. 器械油  
 Organic acid 有機酸  
 Outlet 出 口

Dryer 乾燥機  
 Drill 鑽, 鑽孔  
 Dynamator 聯動發動機

E.  
 Earth 土  
 Elemination 清淨法  
 Electricity 電 氣  
 Elevator 輸送帶  
 Element 元 素  
 Enzyme 酵 素  
 Engine 機 關  
 Evaporation 蒸 發  
 Engineer 技 師  
 Extraction 折 出  
 Expansion 膨 脹  
 Eye 芽

F.  
 Ferment 酵 母  
 Factor 因 子  
 Farm 農 園  
 Foed 給 水  
 Fermentation 發 酵  
 Fible 織 維  
 File 鏡  
 Filter 濾過機  
 Filtration 濾 過  
 Big filter 袋濾過機  
 Sand filter 砂濾過機  
 Flax 亞 麻  
 Force 力  
 Foundation 基 礎

G.  
 Gage 計  
 Gas 瓦 斯  
 Gear 齒 輪

Glucose 葡萄糖  
 Gravity 重 力  
 Grain 結晶母  
 False-G. 偽結晶

H.  
 Hammer 槌  
 Hand 手  
 Handle 柄  
 Heat 熱  
 Heater 加熱器  
 Juicc-II. 加熱器  
 Heating 加熱法  
 Hinge 鉸  
 Hoist 升降機  
 Hole 孔  
 Hook 鈎  
 Hose 蛇 管  
 Hydrogen 水 素  
 Hydrolysis 加水分解

I.  
 Implement 器 具  
 Incombustible matter 礦物質  
 Injection 注 射  
 Instrument 器 械  
 Invert Suger 轉化糖  
 Iron 鐵  
 Cast-I. 鑄 鐵  
 Malleable-I. 鍛 鐵  
 Malleable-cast-I. 展鑄鐵

J.  
 Jack 扛重器  
 Jacket 套  
 Jigger 起重機  
 Joint 接 合

Switch 轉轍器  
 Sugar Cane 甘蔗  
   S-Manufacture 製糖  
   First-S. 一番糖  
   Second-S. 二番糖  
   Centrifugaling-S. 分密糖  
   Brown 原料糖  
   Raw-S. 粗糖  
   Refing-s 精製糖  
   White-S. 白糖  
   Starch-S. 澱粉糖  
   Granurated-S. 棒砂糖  
   Loot-S. 棒砂糖  
   Cube-S. 角砂糖  
   Candy-S. 水砂精  
   Powder-S. 粉糖  
 Stripping 剝葉  
 Sucrose 蔗糖  
 Sucrose-sodium-chloride 蔗糖曹達  
 Sucrose-sodium-iodide 沃化蔗糖曹達  
 Soda 曹達  
 Syrup 舍利別

T.  
 Tank 槽  
 Tape 卷尺  
 Test 試驗  
 Thermometer 寒暖計  
 Tile 瓦  
 Tool 道具  
 Tooth 齒  
 Top 首頭部  
 Track 軌道  
 Trap 凝汽瓣  
 Trolley 手押車  
 Tub 桶

Tube 管  
 Turner 轉壳子

U.  
 Unit 單位

V.  
 Vaccum 結晶, 真空  
   V-Pan 結晶罐  
 Valve 瓣

W.  
 Wagon 車  
 Waste 廢物  
 Wire 線  
 Wood-gum 木質ゴム  
 Working 作業

Y.  
 Yard 構內  
 Yeast 釀母

Z.  
 Zero 零

Oxid } 酸化物  
 Oxide }  
   O-Iron 酸化鐵  
 Oxidation 酸化  
 Oxygen 酸素

P.  
 Packing 填料  
 Pectine 植膠素  
 Pile 杭  
 Pin 金串  
 Pipe 管  
 Planting 植付  
   Delivery-P. 給水管  
   Discharge-P. 排出管  
   Inlet-P. 引入管  
 Piston 唧子  
 Pivot 樞軸  
 Polariscpe 檢糖計  
 Post 柱  
 Potash 加里  
 Power 力  
 Pressure 壓力  
 Provability 或是率  
 Process 法  
   Basic-P. 鹽基法  
 Pull 引力  
 Pump 唧筒  
 Purity 純度  
   Quatient-P. 純糖率

R.  
 Rattoon 株出  
 Rail 軌條  
 Railway 鐵道  
 Ratio 比  
 Refraction 屈射  
 Resolution 分解

Reversing 逆物  
 Revolution 回轉  
 Ribet 綴釘  
 Rod 桿  
 Roll 輾機  
 Roller 輾子  
   Three-R. 三輾子  
   Nine-R. 九輾子  
   Feed-R. 給輾子  
   Megasse-R. 壳輾子  
   Top-R. 頂輾子  
 Rope 繩  
 Rotation 回轉  
 Ruler 定規

S.  
 Safctly 安全  
 Saturation 飽充作用  
 Scale 足度, 度, 計リ  
 Schedule 表  
 Screw 螺旋  
 Scum 泡滓  
 Section 斷面  
 Settling 沈澱  
 Shaft 軸  
   S-Tank 沈澱槽  
 Shop 工場  
 Silica 硅酸  
 Solution 溶液  
 Speed 速度  
 Spring 彈機  
 Squeezer 搾滓機  
 Steam 蒸汽  
   S-Coil 蒸汽螺管  
   Exhaust-S. 排出氣  
   Live-S. 活汽  
 Steel 鋼  
 S:rength 強度

糖業專門之研究

# 糖業世界

每回發行

第一部十二錢 前年金二圓十三錢

發行事務所

東京市麻布區廣尾町七十七番地

臺灣及内地に於ける糖業家の唯一機關雜誌にし  
て世界各國の糖業雜誌と交換するの榮を有し其  
記事は常に各國糖業雜誌に抄録さる最近に  
和蘭國設立萬國中央商務省より交換の申込あり  
以太利國設立萬國農業博士會より交換の申込あ  
りたり  
常に我が糖業世界を讀む者は其記事の潑刺とし

て精確、議論堂々として穩當なるを認めん、唯遺憾なるは現今我國上下を通して糖業深奥の知識ある者寂漠として數ふるのみ此際に當て之か指南車となり補道者となるは糖業世界を措て他にあるなし讀者幸に左右の好伴侶となさば糖界に於ける成効疑なし

七八

明治四十五年七月十一日印刷

明治四十五年七月十五日發行

著者 糖業研究會

發行者 齋藤武治郎

印刷者 齋藤仙吉

印刷所 東京市芝區新錢座町十番地

東京市芝區新錢座町十番地

近藤印刷所

東京麻布區廣尾町七十番地

不許複製

發行所 糖業研究會

THE FORMOSAN  
SUGAR MEN'S YEAR BOOK

1912



THE SUGAR INDUSTRIAL WORLD

TOKYO.

## Introduction.

Though it does not yet rank among the world sugar producing countries, the Formosan sugar industry made, of late, leap and bound progress, which is now capacitated 18,040 tons of English, and 9,220 tons America, with the total investment of yen 86,500,000, and the yearly production of 1911 aggregated 3,211,238 piculs. This description is the condition of each different sugar company in the island which we made up in our latest investigation.

Ed. S. I. W.

(1912)

[ 1 ]

## The Taiwan Sugar Company, Ltd.

Subscribed Capital ... ..	Yen 25,500,000.00
Paid-up Capital ... ..	„ 16,500,000.00
Researve Funds ... ..	„ 3,325,400.00
Sinking Fund ... ..	„ 1,9 1,700.00

The pioneer sugar mill of new system in Formosa is the Taiwan Sugar Company. Accordingly, its history is comparatively long. The company were first organized in the year 1901, with a capital of yen 1,000,000.00, and in 1904, it was enlarged to yen 5,000,000.00. In 1907, it was again enlarged to yen 10,000,000.00 as an amalgamation was made with the Daitoh and Nanshō sugar companies. In 1909, another amalgamation was concluded with the Tainan Sugar Company, and then it was, for the third time, enlarged to yen 12,000,000.00. In 1910, for the fourth time, it was repeated, and this time yen 24,000,000.00 were made the capital. Last year, the company purchased the Kobe Refinery for yen 950,000.00, and are now operating refining business on the other hand. In November last year, the Bain Shōwkai, was, for the fifth time, amalgamated, and as result the capital was again enlarged to yen 25,500,000.00 making an incomparable big concern of the business.

BOARD OF DIRECTORS.—President is Mr. S. Fujita; Managing-director Mr. T. Yamamoto; Directors are Messrs. N. Takechi, T. Masuda sr, I. Zumoro, J. Maruta and K. Hibi; Auditors Messrs. T. Okamoto, K. Murai, and K. Gata. It will be seen they are all influential business men of Japan, and as they are aided by Mr. T. Masuda jr, and Mr. Robert W. Irvin, councillors, who is unrivalledly experienced in sugar business, it is only reasonable that

the company hold an outstripped standing in the sugar industrial circle of Japan.

### Cane Field.

The area under cane plantation is unequally large, covering 11,645 kōbu, and as it was first taken place in the island, its location is unexceededly good.

### Factories.

*The First Factory.*—Kyōshitō, 650 tons equipped by the Honolulu Iron Works Company.

*The Second Factory.*—Kyōshitō, 400 tons by the same company.

*The Third Factory.*—Gohekirin, 1,000 tons by the same company.

*The Fourth Factory.*—Akō, 3,000 tons by the same company.

*Sharoken Factory.*—Sharoken, 1,200 tons by the same company.

*Kōkushō Factory.*—Kōkanshō, 60 tons.

*Sankanten Factory.*—Sankanten 850 tons.

*Hōzan Factory.*—Hōzan, 300 tons.

The total capacity of these factories is 7,640 tons, besides, these the company operate a refinery at Kobe which has 80 tons capacity, and we would believe, there will be few comparison of the same business even in foreign lands, which has so big a capacity as this company. It is added the first and fourth factories are engaging in alcohol brewing as additional work, and giving a successful result.

### Result of Business.

Owing to the dry weather continued in March and April the year before last, the

total quantity of estimation was fallen short, however, the work of irrigation being well done, the yield by acre exceeded that of the previous year, and the total output of the product was secured 1,200,000 piculs which leads all the foregoing ones. The following is the Balance Sheet and the statement of Loss and Gain, June 1911.

## BALANCE SHEET.

Resources.	
	Yen.
Unpaid Capital	9,000,000.00
Land	1,146,899.57
Buildings	2,515,992.86
Machineries	6,647,653.85
Railway	2,523,180.63
Locomotives	189,896.62
Portable Truck	186,807.37
Farm Implements	166,931.60
Live Stock	9,936.21
Ships	118,079.78
Furniture	41,540.14
Goods Stored	
Negotiable Instrument	494,724.50
Loan for Cultivation	234,402.80
Advance	143,018.98
Advanced Payment for Next Year	390,552.60
Sum Receivable	74,670.43
Stake on Credit	5,032,353.85
Building not Completed	532,497.08
Bills Receivable	23,327.12
Stock on hand	2,674,277.36
Deposit	8,712.70
Current Deposit	52,041.35
Fixed Deposit for Tax	2,525,000.00
Cash on Hand	50,462.37
<b>Total</b>	<b>33,935,789.55</b>
Liabilities.	
	Yen.
Capital	24,000,000.00
Legal Reserve	346,300.00
Special Reserve	839,000.00
Reserve for Equalization of Dividend	500,000.00
Pension and Relief Fund	116,840.77
Reward for Service to Farmers and Workmen	52,500.00
Officers' Reserve for Security	38,364.17
Officers' Special Reserve	100,456.26
Divided Unclaimed	4,842.22
Received in Advance	42,572.52
Taxes Unpaid	3,204,040.44
Bills Payable	1,570,000.00
Sum in Charge	201,712.45
Mitsui & Coy.	56,600.62
Balance Brought Forward	201,036.32
Total Profit for this Term	3,661,591.73
<b>Total</b>	<b>34,935,789.55</b>

## STATEMENT OF LOSS AND GAIN.

Income.	
	Yen.
Product	12,310,135.75
Interest	344,928.81

Railway	450,609.50
Shipping	87,298.52
Negotiable Documents	21,302.91
Miscellaneous	14,451.60
<b>Total</b>	<b>13,228,777.27</b>

Outlay.	
	Yen.
Manufacturing Expense & Taxes	7,918,676.87
Agricultural Expense	330,056.28
Alcohol Brewing Expense	49,805.28
Railway Expense	422,382.22
Shipping Expense	70,925.65
Interest	145,043.51
Business Expense	630,315.67
<b>Total</b>	<b>9,567,205.49</b>

Total Profit	3,661,591.78
Redemption Fund for Machineries and Buildings	640,000.00
<b>Net Profit for this Term</b>	<b>3,021,191.78</b>

The profit was counted as follows:

Net profit	3,021,191.78
Balance brought forward	201,036.32
<b>Total</b>	<b>3,222,628.10</b>
Legal Reserve	152,000.00
Special Reserve	500,000.00
Reserve for Equalization of Dividend	600,000.00
Bonus and Social Expense	150,000.00
Dividend 10%	1,222,716.00
Special Dividend 2%	244,410.00
Pension and Relief Fund	50,000.00
Fund for Reward to Farmers and work men	30,000.00
Balance Carried	1,273,502.10

## Estimation for This Term.

The total quantity for the present term was first estimated at 1,500,000 piculs, but the storm of last Autumn acted upon the cane, and as the dimension is large, so the crop must relatively be affected, but on an actual investigation, 1,000,000 piculs was estimated, and we presume the profit to be yen 3.00 for one picul of the product, which is the most positive account, and in this calculation, yen 3,000,000.00 are to be proportionated for 1,000,000 piculs, and as will be seen, it gives 20% rate. So, although funds of variety be taken, 12% dividend is undoubtedly expected.

## Share in the Market.

At present, the price for the share of yen 50, the paid-up capital is quoted yen 85, and the newly subscribed one, yen 12.50, is transacted at yen 31. So, in proportionation, of the dividend, 70<sup>2</sup>/<sub>100</sub>, and 54<sup>2</sup>/<sub>100</sub> are kept respectively.

## The Toyo Sugar Company, Ltd.

Subscribed Capital	Yen 5,000,000.00
Paid-up Capital	„ 3,500,000.00
Reserve Funds	„ 755,000.00

Though the establishment dates only five years back, yet the company rank among such big concerns as the Taiwan, the Ensuikō and the Meiji, the outcome of their business being far superior to many other ones, which is identified as follows.

Terms.	Net Profit.	Reserve.	Dividend.	Paid up Capital.
	yen	yen	yen	yen
Third	673,000	235,000	12%	2,500,000
Fourth	493,000	410,000	12%	2,500,000
Fifth	839,000	730,000	12%	3,500,000

As will be seen, the profit has been increased year by year. Especially last term, notwithstanding, their business was for the first time after having enlarged their capital to yen 3,500,000, the profit was secured yen 840,000, and it is well understood their business is very much adequately carried on.

## Cane Field.

The total area of cane fields is 385 kōbu, 271 kōbu under Nansēishō, 114 kōbu under Ujurinshō, of which 140 kōbu are still before being planted. The growth of the canes is satisfactory, and notwithstanding the typhoon occurred twice last term, it made little hindrance to the canes.

## Factories.

The company operate now two factories, with a total capacity of 1,750 tons. The First factory, Nansēishō, 1,000 tons equipped by Mirrless Watson Co. of Glasgow.

The Second factory, Ujurinshō, 750 tons by the same company.

## Production and its Market.

Last term, the result of business was very well. The crop of the material totalled 260,000,000 catties, of which 15,000,000 catties were laid aside as seed-canes, and 245,000,000 catties were crushed, having produced 314,000 piculs of raw sugar. Nansēishō factory started the work on the 1st December and finished 6th June, while Ujurin factory on the 16th December and 19th May, last year. The material sugar was handed over to three refineries, viz. Dai-Nippon, Yokohama and Kobe, and the quantity consumed directly, was sent to Tokyo, besides, the export was made to Hongkong and other districts in South China.

## Estimation for the Present Term.

The Sugar Producers' Association of Formosa assigned the company 113,000 piculs the quantity for the refined, 111,000 piculs the direct consumption, and 23,000 piculs for export. The rest 14,500 piculs are at their free disposal, making a total of 260,000 piculs. The average profit for one picul we estimate yen 4.25 in a conservative account, and yen 1,105,000 are to be obtained, and being coupled with yen 102,000, the balance brought over from last term, totals yen 1,207,000, of which yen 395,000 for reserve funds and off-

cial remuneration, and the balance yen 875,000 keep positively 20% for the paid up capital, putting aside yen 175,000 to be transferred forward.

## Financial Condition.

## Balance Sheet

30th June, 1911.

Resources		Liabilities.	
Yen	Yen	Yen	Yen
Unpaid Capital	1,500,000	Share Capital	5,000,000
Land	71,406	Legal Reserve	60,000
Buildings	495,374	Sinking Fund	20,000
Machineries	2,038,434	Special Reserve	150,000
Railway	858,863	Relief Fund	10,000
Furniture	12,102	Officers' Reserve Fund	5,159
Negotiable Instruments	76,017	Bills Payable	235,335
Live-stock	1,422	Received in Advance	6,677
Bills Receivable	7,950	Taxes unpaid	739,569
Loan	116,275	Divided unclaimed	485
Payment in Advance	57,855	Balance brought forward	80,423
Sum receivable	331,514	Profit	839,390
Goods stored	32,726		
Deposit	602,738		
Advance	15,877		
Bank Deposit	119,354		
Stock on hand	963,023		
Consignment	23,488		
Cash	9,980		
<b>Total</b>	<b>7,331,405</b>	<b>Total</b>	<b>7,331,405</b>

Of this Balance Sheet, yen 116,275 of Loan on Resources Side, is the fund lent for cane-cultivation, and yen 331,514 of Sum Receivable signifies official subsidy and rebate, which are very sure of resumption. The Stock on Hand was valued at yen 963,623, and might be said somewhat over-valued for transfer. But, since then the lot being almost all contracted of the sale, now so small stock is laid on their hand. As for liabilities, yen 739,569 of Taxes Unpaid are to be set off by Deposit of 602,738, and other obligation is no more than yen 235,335 of Bills Payable which we consider is comparatively small debt for a company with a capital of yen 5,000,000. As we noted in the heading, the various funds are now

aggregated yen 753,000 with balance yen 104,800 brought forward, and it is understood their financial condition is very steadfast.

## Statement of Account.

The following is the statement of the last terminal account, June 1911.

Income.		Outlay.	
Yen	Yen	Yen	Yen
Product	2,929,358.57	Business Expense	298,687.66
Interest	31,662.03	Manufacturing Expense	1,024,421.05
Miscellaneous Income	49,178.10	Taxes	614,461.05
<b>Total</b>	<b>3,010,198.70</b>	Sanitary Expense	3,619.62
		Cultivation Expense	30,251.13
		Miscellaneous losses	199,365.97
		<b>Total</b>	<b>2,170,808.49</b>
		Balance	839,391.21
		Profit for this Term	839,391.21
		Balance brought	80,423.30
		<b>Total</b>	<b>919,813.51</b>
		Legal Reserve Fund	45,000.00
		Sinking Fund	175,000.00
		Special Fund	100,000.00
		Pension	10,000.00
		Official Remuneration	65,000.00
		Dividend 12%	420,000.00
		Balance transferred	104,813.51

## Share in the Market.

At present yen 35.00 of paid-up share is quoted yen 66.50, and 12% dividend keeps 93% for the market price. At the meeting of the last terminal account, some of the shareholders proposed to raise the rate of the dividend. But it was passed over in original on the ground it is more desirable to make firm the foundation of the company, and the profit in question was added to the reserve fund. The business management, being as this way, there is a good reason why the share enjoys popularity in the market.

## The Meiji Sugar Company, Ltd.

Authorized Capital	Yen 10,000,000.00
Paid-up Capital	5,000,000.00
Sinking Fund	500,000.00
Reserve Fund	837,350.00

None of the sugar companies in Formosa are staffed with so talented officers as this company are, and the business is carried on by them in the most steadfast way. The company have only passed over their fifth business term, yet the credit they possess in the share market is, in fact, the second to none. As noted in our previous number, the company adopted a policy to incorporate a refinery, and bought up the Yokohama Refining Company, August last year, expecting to realize the assimilation of unrefined and refining business, which will, no doubt, no much service to our financial circle.

## Organization.

The company was established October 1906, with a capital of yen 5,000,000 having amalgamated the Matō Sugar Company. At the outset of their business, the company had 810 tons press power, but it was multiplied to 1910 tons, as another amalgamation was made of the Ishin Sugar Company in 1910. Last year, they purchased the Yokohama Refinery and the capital was enlarged to yen 10,000,000.00, making a big concern undertaking both unrefined and refining business.

The president is Mr. S. Ogawa, and the

managing-director Mr. H. Sema. The directors are Messrs. M. Asada, Y. Usui, J. Uyemura, and the auditors are Baron Takei, Mr. N. Yamamoto.

## Factories.

The first factory-750 tons press power, Shōryōho.  
The second factory-1,000 tons press power, Daitōrtsaiho.  
The third factory-1,000 tons press power, Matōho.  
The Ishin factory-110 tons press power, Saikōshiho.  
The Mato factory-60 tons press power, Matōho.

The raw sugar factories number five, with total tonnage of 2920, and the Yokohama Refinery has 200 tons working capacity.

## Cane Field.

The sphere of cane plantation under the supervision of the company is divided into 12 sections, 7 under Shōryō 5 under Daitōrō summing the acreage of 35,757 Kōbu (1 kōbu = abt. 2.4 acres). These sections are, for the most part, lying alongside the River Sobunkei, the cultivation is remarkably well done. Moreover, as they are closed one another, the communication is



very facilitated giving much convenience to the traffic of the material. The company are now in a scheme of cultivating the fields at their own hands, not buying up the material from the farmers, and for the purpose, they purchased 147  $\frac{2}{10}$  kōbu of the field at Banshiden, and 33 kōbu at Matō, Kōshikan, and Kyōshibai of which 15 kōbu were reserved for the site of the factory. They are, however on the other hand, doing their best in encouraging the farmers, who are giving a satisfactory result of their cultivation.

**Result of Business.**

The crop of the canes for last year, was satisfactory and First and Matō factories pressed 227,698,400 catties of the material, commencing in November and finishing in April and May, and the Second factory, 161,123,130 catties also from November to June. The total output of raw sugar was 420,000 piculs with 50,000 piculs of brown sugar, producing 1,063,672 catties of molasses of which alcohole was brewed as their additional work. The following is the account of the work.

Income	
Commodity produced ... ..	Yen 3,975,976.58
Interest ... ..	" 33,024.10
Miscellaneous Income ... ..	" 93,910.19
<b>Total... ..</b>	<b>" 4,108,910.87</b>
Outlay	
Manufacturing Expense, Sales	
Expense, Taxes ... ..	Yen 2,481,464.56
Railway Expense ... ..	" 99,718.77
Expense for Cultivation ... ..	" 15,048.99
Repair Expense ... ..	" 71,520.81

Sundry Expenses ... ..	" 252.71
<b>Total ... ..</b>	<b>Yen 2,929,244.55</b>
Balance ... ..	" 1,179,666.32

The balance keeps 2360/00 for the paid-up capital, and being divided by 420,000 piculs of the total output, yen 2.809 is marked per picul. The following is the statement of the whole account.

Balance ... ..	Yen 1,179,666.32
Pension and Relief Fund ... ..	" 40,000.00
Redemption Fund for Machineries and Buildings... ..	" 250,000.00
<b>Net Profit for Last Term ... ..</b>	<b>" 889,666.32</b>
Balance brought from the Previous Term ... ..	" 143,632.84
<b>Total ... ..</b>	<b>" 1,933,299.16</b>
Legal Reserve Fund ... ..	Yen 60,000.00
Official Remuneration ... ..	" 60,000.00
Divided, 12% per annum ... ..	" 500,000.00
Reserve for Equalization of Dividend ... ..	" 250,000.00
Balance transferred... ..	" 163,239.16

**Financial Condition.**

As afore-mentioned, the company bought up the Yokohama Refinery, and on that account, the shares of the first subscription were paid the full amount, therefore the company's debt is at present, very simple with yen 170,000.00 of bills payable, and yen 100,000.00 of deposit. As to the credit, yen 17,000.00 were lent as fund for cultivation, and yen 24,000.00 in credit sale and yen 484,000.00 bills receivable, which are all very sure of resumption. The reserve funds and surplus, they laid by, amount to yen 1,500,000.00 keeping 30% for the paid up capital. It will be seen, therefore, the financial condition of the company is

very steadfast.

Redemption Fund for Fixed Capitals ... ..	Yen 500,000.00
Legal Reserve Fund ... ..	" 127,200.00
Reserve for Equalization of Dividends ... ..	" 560,000.00
Pension and Relief Fund ... ..	" 140,000.00
Balance carried forward ... ..	" 163,299.17
<b>Total... ..</b>	<b>" 1,490,549.17</b>

**Amalgamation with the Yokohama Refinery.**

As for enlargement of capital, it is not without such an example as to do so, in order to tinker the finance of the company, but that of the Meiji Sugar Company is quite variable in that respect. The company's project is to realize the assimilation of the unrefined and refining business, and thus the amalgamation was effected. The delivery of the mill was, accordingly, made at the end of December last year.

**I. THE TERM OF AMALGAMATION.** The Yokohama Sugar Refining Company will present as property, Land and buildings, Machineries and Utensils, Extension-work of Building, Account of the Nagoya Sugar Refining Company, and Trade Mark. The Meiji Sugar Company will deliver, in exchange, 32,000 shares of paid up capital.

**II. APPORTION OF SHARES.** The Meiji Sugar Company will increase 100,000 shares valued at yen 5,000,000.00, of which 32,000 share are taken off for the delivery, and the balance 68,000 shares will be assigned to the shareholders, in proportion of 68 for 100.

**III. THE PAYMENT FOR THE NEW SHARES.** The first instalment of new shares, yen 12.50 will be paid in, with the letters of application, from 25th to 30th December

1911.

**IV. REVISION OF THE REGULATION.** As result of the enlargement of the capital, the number of the directors and auditors will be increased by 4 and 2 in accordance with the Commercial Code.

**Estimation for the Present Term.**

The estimated total production for this term was 500,000 piculs, but on account of the recent storm, 400,000 piculs are now expected. Last term, the profit for one picul was yen 2.80, and for this term yen 3.00 is calculated. On this account; for 400,000 piculs, yen 120,000.00 are to be secured. Besides, the esmated profit from the Yokohama Refinery being added, the total profit sums yen 1,470,000.00. This profit can positively keep 2250/00 for yen 6,225,000.00, the sum total of yen 5,000,000.00, the paid up shares, and yen 800,000.00 the half amount of yen 1,600,000.00 delivered to the Yokohama Sugar Refining Company, and yen 4,250.00 the half of yen 850,000.00, one-fourth of yen 3,500,000.00 newly subscribed shares. For this reason, though various funds are laid by, yet 12% dividend is surely expected.

**Share in the Market.**

At present, the market price for the share is quoted yen 83.00 with newly subscribed share which is transacted at yen 13.50 itself. In proportion therefore, the said 68 shares for 100, yen 9.18 is marked for the new share and, should this amount be deducted from yen 83.00, the mother share, there figured yen 73.82, so 13% dividend can positively keep 810/00 for the market price.

# The Niitaka Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital ... ..	Yen 5,000,000.00
Paid-up Capital ... ..	„ 2,000,000.00
Reserve Fund & Balance on Hand ... ..	„ 64,000.00

Of all sugar companies, one which cuts a conspicuous figure is the Niitaka Sugar Company. It has passed but a short time since the outset of their business, yet the result they have given during these years is remarkably good, and it is understood how their business is skilfully managed by them. The following is the proceeding of the company.

## Organization.

The company were established October 1909 with the authorized capital of yen 5,000,000.00,—100,000 shares, of which yen 2,000,000.00 were paid by the month of November last year, yen 1,250,000.00, one-fourths of the whole amount being paid in at the time of the outset, yen 500,000.00, the second instalment August 1910, yen 250,000.00, the third instalment November last year, totalling yen 2,000,000.00.

The principal capitalists are Mr. Okura's family, and Mr. K. Abe and son of Yokohama. The board of directors are Mr. K. Takashima, President; Mr. S. Yamada, Managing-director; Messrs. K. Abe jr, K. Okura jr, K. Makiyama Directors, and Messrs. K. Okura sr, K. Abe sr, S. Kawase Auditors.

## Factories.

The Shōka factory, Shōka 750 tons devised by the Mirrlees Watson Co. of Glasgow.

The First factory, Kagi. 1,000 tons by the Harvey Engineering Co. of Glasgow.

The Second factory, Kagi. Construction designed.

The shōka factory started its operation on the 18th December 1910, and the work was finished on the 6th May last year, giving a successful result for the First operation. The First factory, all its necessary arrangements are to be completed in May this year, and will be in motion from December, with a capacity of 1,000 tons.

## Result of Business.

The area under cane plantation covered 1,172 kōbu in the term of 1910. As most of our readers would remember, typhoon prevailed twice last year, and, despite the damage was inflicted upon the canes, the crop exceeded the estimated quantity and 105,000,000 catties were taken, at the rate of 10,800 catties per kōbu, which finds no comparison in other fields. The product from the Shōka factory, where Mirrlees Watson's machinery is in good working order, valued at yen 1,093,000.00, and enjoyed a high reputation of its quality. The following is the Statement of Loss & Gain with the account of the profit for last term.

	Income.
Product ... ..	yen 1,093,962.05
Interest ... ..	„ 16,423.62
Miscellaneous Income ... ..	1,417.38
	Outlay.
Manufacturing Expenses, Taxes ... ..	yen 672,578.02
Cultivation Expense ... ..	„ 65,010.51

Business Expense ... ..	„ 68,252.11
Expense for the Start of Business ... ..	„ 50,082.13
Total ... ..	853,880.25
Balance ... ..	yen 255,880.25
Amount brought forward ... ..	„ 209.82
Total ... ..	259,090.07
Legal Reserve ... ..	yen 13,000.00
Sinking Fund ... ..	„ 37,000.00
Dividend 10% ... ..	„ 163,000.00
Official Remuneration ... ..	„ 25,000.00
Balance Carried forward ... ..	„ 14,390.00

As will be seen by the above statement, the profit for last term showed yen 255,880.25, and the costs for starting business, and for arranging fields are to be dispensed in the present term, so, it is recognised that the better result will surely be given for this term.

## Estimation for the Present Term.

The total area come under plantation of canes for this term is 2,022 kōku. This, compared with last term, was widened 80%, and 180,000 piculs of material are expected, and the profit for one picul being estimated at yen 3.00 same as last term, that is the most conservative account, the total profit comes to yen 540,000.00. This being proportionated by yen 2,000,000.00, the paid up capital, 27% is given. So, although various funds are laid by, 12% dividend is surely expected for this term.

## Special Feature of the Company.

For years, research was made of the cultivation of canes in water fields, and the method proved successful. The Niitaka Sugar Company dopted this method, and the province of Shōka where their fields are located was chosen for the purpose. Last term, as was expected, the yield was very satisfactory, and 140,000 catties were raised per kōbu while 80,000 or at most 90,000 catties are the common crop in the island. However, the expense for the cultivation is,

more or less, higher as compared with the cultivation in the ordinary farm, but the crop thus raised, paid enough the cost, and forms a permanent profit for the company.

## Instalment.

For the completion of the First factory, the cost of yen 1,000,000.00 is required. The company are, for this purpose, intending to make the forth instalment, yen 5.00 in this spring, and after the third terminal account in June, the same measure will be taken as the fifth instalment, making yen 30.00, the paid-up capital per share.

## Estimation for the Next Term.

The total area of the field which will come under plantation in the next term is 6,000 kōbu—2,000 kōbu under the Shōka factory, and 4000 kōbu under the First factory estimating the total output at 370,000 piculs, of which 120,000 piculs for the direct consumption and 120,000 piculs material for refined, and 130,000 piculs for the export. In valuation of this quantity, suppose yen 8.00 is marked for the material sugar, yen 13.50 for the direct consumption, and yen 5.00 for the export, while its cost of production is estimated at yen 4.50, then the profit obtainable of the whole lot, is yen 1,0900.00 which being proportionated by yen 3,000000.00 then the paid up capital, 36% profit is positively reckoned up.

## Shares in the Market.

At present, the share of yen 20, the paid up capital, is quoted yen 35 in the market, and 12% dividend is presumable for the present term which keeps 71 % for the market price. We would specially add that the reason of the popularity of this share is largely due to the steady way of business management by Okura and Abe families.

## The Ensuike Sugar Company, Ltd.

Subscribed Capital ... .. Yen 7,500,000.00  
Paid-up Capital ... .. " 4,000,000.00

Of all Sugar Company one which has given the most remarkable turn-out of the Business is the Ensuike Sugar Company which was established in 1906 with the capital 7,500,000 yen the board of Directors are Mr. T. Arai President, Mr. T. Maki, Managing-director, Messrs. S. Fujisaki, S. Hori, K. Gata, S. Sakai, and T. Directors Andō.

### Factories.

Gannai First.....1,100 tons by Harvey Eng'ing Co.  
Gansai Second ... 550 tons by " " "  
Shineishō factory 1,000 tons by " " "  
Kibi factory .....1,100 tons by " " "

### Cane Field.

Total area of the field covers 40940 kō of which 468,400 piculs are to be produced this term, which was contracted for sale yen 8.20 per picul, and the total profit last term was yen 2,380,000 for which 68%

was kept for the paid up capital, so various fund be deducted, 23% dividend is easily given.

### Financial Condition.

The following is the account of the profit last term.

Total Profit ... ..	5,770,883
Total Loss ... ..	4,211,453
Balance ... ..	1,559,429
Income from former Takasago Co. ...	458,000
Total ... ..	2,017,400
Sinking Fund ... ..	1,000,230
Net profit ... ..	1,017,429
Balance brought ... ..	104,160
Total ... ..	1,121,530
Legal Reserve ... ..	100,000
Fund for Pension ... ..	50,000
Fund for Former... ..	50,000
Bonouns ... ..	100,000
Dividend 10% ... ..	300,000
Special Dividend ... ..	300,000
Balance transfered ... ..	117,430

## The Dai Nippon Sugar Company, Ltd.

Subscribed Capital ... .. Yen 12,000,000  
Paid-up capital ... .. " 9,419,166

Dai Nippon Sugar Company is of the oldest establishment in Japan, and now posses one factory in Tokyo and two in Formosa with total tonnage of 2,200 tons, and produced 310,000 piculs last year. The machines are by the Grechenbroich & Co. of Germany. The Board of Directors is Mr. R. Fujiyama President, Directors Messrs. C. Takayama, R. Izawa, Kana-

zawa. (secretary). The following is the the return of the financial condition of latest Company.

Total Income ... ..	Yen. 16,459,102
Total Outlay ... ..	15,303,983
Profit ... ..	1,144,118
Interest for debenture ... ..	340,377
Profit for this term ... ..	814,741
Balance brought ... ..	26,681
Total ... ..	1,075,442

Legal Reserve ... ..	50,000	Dividend 5%... ..	232,500
Special Reserve ... ..	300,000	Balance ... ..	402,922
Reserve for Pension ... ..	15,000		
Bonous ... ..	75,000		

## The Hokko Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital ... .. 3,000,000.00  
Paid-up Capital ... .. 2,500,000.00

The company were established July 1909 with a capital of 3,000,000.00, shares 60,000, and the present is Mr. N. Komatsu, Directors Messrs. R. Miya, R. Hyuga, K. Kaneko, M. Tsuji, T. Gotō, and Auditors are Messrs. H. Katō, K. Nakamura, N. Sasaki.

### Factories.

First factory, Hokkō, with the capacity 1,000 tons.  
Getsubi factory, Getsubi, 400 tons.

### Cane field.

The area of cane field to be newly planted this term, 2,700 kō, and of Ratoon 300 kō, and 120,000 piculs of material is estimated for the first factory, and 300,000 piculs for Getsubi factory, and the other 300,000 piculs from the contracted famers making a total of 1,800,000 piculs.

### Result of Business.

The company being the recent establishment it was given no worth seeing result of business, yet the profit yen 670.90 for last term were wholly transfered to the next tem.

Income	{ Profit for the Sale ... ..	Yen. 22,110.32
	{ Miscellaneous Income ... ..	339.69
Outlay	Business Expense ... ..	20,839.01
	Balance ... ..	670.90

### Estimation for This Term.

160,000 piculs were estimated for this term, and yen 3.00, the most positive account, are expected for the profit per picul, and then yen 480,000 are to be secured, which being proportionated with the Capital 32% rate is kept, and the market price is now 41.80 for 25 yen share of the paid-up.

## The Teikoku Sugar Company Ltd,

Subscribed Capital ... .. Yen 5,000,000.00  
Paid-up Capital ... .. " 1,750,000.00

The company were organised in the year 1903 with the capital of 5,000,000, and the board of Directors is Mr. H. Yamashita, President; Mr. T. Matsuoka, Managing director, Messrs. M. Matsukata, R. Yamana, S. Yamaguchi, K. Abe, S. Abe, G. Sakurai are the Directors.

Factories.	Estimation for this Term.
First factory, Taichu 750 tons; Second factory (formerly Matsuoka factory, 300 tons.	The present term 130,000 piculs were first expected, so, we presume yen 25.00 for picul, and then yen 325,000 profit are to be secured, so although various fund is deducted 10% profit is surely given for yen 1,750,000.
Cane Field and Estimated Quantity of Material.	Market Price for the Share.
The total field under plantation is 2,300 kō, and 1,300,000 piculs of material is expected for this term.	Yen 17.50 of the paid-up share is now quoted yen 26.50, and it is not difficult to see the company are of great prospect.

### The Taihoku Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital ... .. Yen 8,000,000.00  
Paid-up Capital ... .. " 250,000.00

Factory and Field.	Market Price of the Shares.
The establishment of the company dates August 1903, which is capitalized yen 3,000,000, of which 750,000 yen are paid up. Board of directors is Mr. S. Kinoshita, President; Mr. L. Muramatsu, Managing-director; Messrs. G. Matsukata, K. Takahashi, S. Takahashi and K. Shibuya; Auditors R. Yamanaka, T. Yoshimura, K. Umerara and Y. Rin, Directors.	The factory at Kokenshō is capacitated 500 tons made by Dyer Company America, and the total area of the field covers 1,200 kō, and 600 piculs of the crop is estimated for one kō, this term.  The share of yen 17.50 is quoted yen 24.00, and in proportion with the dividend 5% rate is kept per annum.

### The Chūō Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital ... .. Yen 5,000,000.00  
Paid-up Capital ... .. " 1,250,000.00

Factory and Cane Field.	Shares in the Market.
The company were organized December 1909 with the capital of yen 5,000,000, and the president is Mr. K. Seki; Managing-director Mr. T. Kondō; Directors, Messrs. K. Imai, K. Kosone, T. Tani, S. Nakasono, G. Mudaguchi, K. Kiyoura.	The factory is capacitated 750 tons at Nantō, and the total area of the cane field covers 8,000 kō, of which 1,6000 kō were planted last term putting out 100,000 piculs of the material sugar.  At present the shares 12.50 the paid-up capital is quoted yen 20.50.

### Rinhon Sugar Company Ltd.

Paid-up Capital ... .. Yen 200,000.00

This private partnership is of the operation by Rin family of Formosa which is capacitated 750 tons E. machinery being designed by the Sangerhausen & Co. of Deutschland, and last year turned out 82,260 piculs of raw sugar. Board of Directors, Rinkakuju President, Rinjuka, Vice-President, Directors Ringuchō and Mr. Kohana the Manager.

### The Shinko Sugar Company Ltd.

Capital ... .. Yen 600,000.00

The company possess 500 tons E machinery which produced 92,827 picul last year. President Chinchūwa; Directors Messrs. S. Chinshinhatu, S. Ishikawa.

### The Toroku Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital .. .. Yen 3,000,000.00  
Paid-up Capital ... .. " 1,200,000.00

The present company were undertaken the Toroku sugar private partnership by Mr. Wosetsunō, a formosan native which had 300 tons of brown sugar factory, and when the company were formed into the joint stock company the power was enlarged to 800 tons, 500 tons for centrifugal sugar. Field totaling 10,148 kō, and those planted cane this term were 2600 kō, of which 85,000 piculs of centrifugal, and 4,000 piculs brown are expected, so we now presume yen 3.00 profit per picul for the former, and yen 2.50 for the latter and 290,000 yen of total profit are to be secured which being proportionated with yen 1200,000 the said up capital, 24% rate is surely kept so although various fund are laid by 10% Divident is positively taken.

Cane Field and Estimation for this Term.	Shares in the Market.
All fields lie in Toroku province 4550	At present 20 yen share is quoted 30.20.

## Horisha Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital ... .. Yen 2,000,000.00  
 Paid-up Capital ... .. „ 500,000.00

### Factory and the Output.

The company were authorized the establishment July 1909 being capitalized yen 2,000,000, of which 500,000 yen are paid in. The present is Mr. T. Katsura; Managing-directors Messrs. S. Fujisawa and T. Kozuka; Directors Messrs. T. Iwa-

zaki, K. Miyake, T. Ariyama, S. Atomiya and K. Matsuura; Auditors Messrs. K. Ra. K. Fujita, and T. Kimura.

The factory at Horisha is capacitated, 300 tons and the output are to be secured 35,000 piculs out of 7500 kō of the total field.

## The Minami-Nippon Sugar Company Ltd.

Subscribed Capital ... .. Yen 5,000,000.00  
 Paid-up Capital ... .. „ 1,250,000.00

The company are of the amalgamation of Byoritsu, Shinchiku, Chūkō sugar companies, with the total tonnage of 500 tons E., the Board of directors are M. T. Takeno-

uchi, President; Directors T. Mayekawa, J. Masuda, K. Yamamoto, J. Akiyama and S. Shibuya.

## The Okinawa Sugar Company Ltd.

Capital... .. Yen 2,000,000.00

This is the only company operated in the Archipelago of Loochoo and is capitalized yen 2,000,000.00 of which 500,000.00 yen being paid up. The machinery has the tonnage of 500. It is specially noted last year the company purchased the Government Mill in the island, so now operate two mills with brighter outlook in their career.

144  
195

THE FORMOSAN

SUGAR MEN'S YEAR BOOK

1912

14.4

195

043030-000-4

14.4-195

帝国糖業家年鑑

糖業研究会

M45

BDK-0099

